



カミングアウト
クローゼット

多様な性の

当事者たちによる

生の声の記録

ごあいさつ

今、ちょっとしたブームのようにになっている LGBT。最近では「カミングアウト」という言葉も一般的に使われるようになりました。

「カミングアウト」は「come out of the closet (クローゼットの中から出てくる)」という表現を語源とするもので、セクシュアリティの文脈では、「カミングアウト (公表すること)」と「クローゼット (公表しないでいること)」は対をなす言葉としてあります。自身のセクシュアリティをいつ、どこで、誰に、どのように開示するか、またはしないか、という命題は、差別や偏見にさらされがちなセクシュアルマイノリティにとって非常にシビアな問題です。とりわけ、LGBT ムーブメントを牽引している首都圏や大都市と比較して、時に閉鎖的とも言われる東北では、さらに切実な問題となっています。

レインボーアーカイブ東北では、東日本大震災での経験を機に、まだまだ可視化されていない地方の当事者の生の声を集め、ウェブサイトや冊子などでアピールしていくことで、違いを認めあい尊重しあう、より生きやすい社会を目指して活動してきました。

そのようななか、2016年3月に仙台で実施された「OUT IN JAPAN 東北プロジェクト」。「カミングアウト」をテーマにしたこのビッグイベントには、地元のいわゆるセクシュアルマイノリティの当事者をはじめ、さまざまな人がさまざまなかたちで関わり、それぞれがそれぞれに、「カミングアウト／クローゼット」について、これまで以上に思いをめぐらせることになりました。

「OUT IN JAPAN 東北プロジェクト」の現場に立ち会い、さまざまな人と出会うなかで、レインボーアーカイブ東北のメンバーは、カミングアウトした人のポートレートや、マスメディアの報道だけでは伝わらない多様さ・複雑さを掘り下げ、記録にとどめたいと考えようになりました。そしてその手段として、「OUT IN JAPAN 東北プロジェクト」に関わった人たちにインタビューを行いました。これらのインタビュー記録から伝わってくるのは、セクシュアルマイノリティに関する「カミングアウト／クローゼット」のありようや背景にある考え方はそれぞれに異なり、ひとつくりにできるものではないということです。

自分のことをどこまで相手に伝えるか／伝えないかという選択は、セクシュアリティに限らず、私たちがその都度決定していることであって、どちらが良い、悪いと言い切ることができるものではありません。今回の展示やトーク企画を通じて、さまざまなことからの「カミングアウト／クローゼット」について、みなさまひとりひとりに自分のこととして考えていただければと思っています。

レインボーアーカイブ東北

※「OUT IN JAPAN」「OUT IN JAPAN 東北プロジェクト」について：「OUT IN JAPAN」は、日本の LGBT をはじめとするセクシュアルマイノリティにスポットライトを当て、市井の人々を含む多彩なポートレートを様々なフォトグラファーが撮影し、5年間で10,000人のギャラリーを目指すカミングアウト・フォトプロジェクト。2015年より各地で撮影会や写真展などが開催されています（企画運営：特定非営利活動法人グッド・エイジング・エールズ〔東京都渋谷区〕）。

仙台でのこの撮影会が開催されるにあたり、東北で活動するセクシュアリティ関連団体が協働して「OUT IN JAPAN 東北プロジェクト実行委員会」を結成。グッド・エイジング・エールズとの共催で、東北独自の企画を実施しました。

カミングアウト クローゼット

多様な性の当事者たちによる
生の声の記録

COMING OUT / CLOSET | 目次

01 ごあいさつ

「OUT のその後」

2016年3月に実施された「OUT IN JAPAN 東北プロジェクト」に関わった人々へのインタビューおよび座談会の様子を掲載しています。

03 インタビュー①

人のせいにして生きるのは、もう嫌だった - 小野寺 真

11 インタビュー②

表に出たら消費されるので、消費されることに慣れて利用しなければならぬって思ってます - ヒノヒロコ

21 <クローゼット座談会> CLOSET が潜入！ OUT IN JAPAN

- namihei・キャシー・MEME

33 インタビュー③

カミングアウト／クローゼットのその先にあるもの - 武田 こうじ

41 「カミングアウト／クローゼット」展について

43 「言う？言わない？～あなたにとっての『カミングアウト／クローゼット』とは～」 展覧会来場者のメッセージ

47 あなたにとって「カミングアウト／クローゼット」とは？ 記事登場者のコメント

49 展覧会関連トークイベント

「言う？言わない？～『カミングアウト／クローゼット』について考える～」記録

69 「問われていない人」の声により添う「レインボーアーカイブ東北」の試みに思う

- 西村高宏（てつがくカフェ@せんだい）

72 レインボーアーカイブ東北 活動年表

73 セクシュアリティ用語解説

※「OUT のその後」の4つのインタビュー・座談会は、レインボーアーカイブ東北の活動として2016年から2017年にかけて行いました。せんだいメディアテークのウェブサイトに掲載しているほか、2019年に開催した展覧会「カミングアウト／クローゼット」では冊子として配布も行いました。

※本冊子に掲載されている情報は、インタビューや展示発表当時のものです。現在と異なっている部分もありますが、発表当時の記録のまま掲載しています。

「OUTのその後」
インタビュー①

人のせいにして 生きるのは、 もう嫌だった

小野寺 真

1977年生まれ / 宮城県仙台市出身・在住
理容室「ヘアーサロン Wing」店主
FtM トランスジェンダー 異性愛者

OUT IN JAPAN#008 仙台撮影会で被写体になるとともに、理容師としての技術を生かし、被写体のヘアメイクのボランティアスタッフとしても活動した。

http://outinjapan.com/sin_onodera/



カミングアウトヒストリー

女として扱われることに違和感を覚えるようになったのっていつ頃ですか？

— 幼稚園の頃から、漠然としたのはあったかなあ。幼稚園くらいの頃って、男の子も女の子もよく裸になったりするじゃない？ それで、男の子にはチンチンついてるのに、何で自分にはついてないんだろうって思って、親に聞いたりして。で、当時から男の子っぽかったりしたもんだから、親も「お母さんのお腹に忘れてきちゃったんじゃないの？」とかそんなかんじで（笑）。それで、えー忘れてきちゃったんだー、男の子の友達とおんなじが良かったー、とか思ったりして。確実に意識するようになったのは、やっぱり小学校に入って、身体が変わってきたあたりから。3年生

くらいになると、女性だと生理が始まる人がいたりして、そうすると男の子も女の子も、一緒に手をつないで遊んでたはずなのに、急に男性・女性に分けられて、着替えとかも別になったり。生理の話をするために女子だけ呼ばれるとか、そういうのがすごく嫌で。あーやっぱり自分は女なんだー、みたいな。

女性を恋愛対象として意識し始めたのは？

— 小学校1・2年生の頃、男の子女の子関係なく、仲の良い友達とほっぺにチューするっていう変な遊びが流行ってたんだけど（笑）、仲の良い証みたいな。それが、男の子だと全然意識しないんだけど、女の子にされると急に意識しちゃって。逃げて歩いたりしてたのを覚える。でも逆に、男の子とばっかりつるるもんだから「男好きなんじゃないの」なんて言わ

れたりすることもあったね。

初恋ってということだと、幼稚園の頃に女の先生が気になったりしてたかな。あと小学校の頃にも、気になる女の子はいたんだけど。でも、それが「初恋」と呼んで良いものなのかどうか、今振り返って思えばそうだったのかなあとは思いますが、当時は分からなかったよね。

子供時代を過ぎて、中学生になると、今度は制服の問題なんかも出てきますよね。

— そうそう。小学校の頃もね、体操着がブルマだったんだけど、それが凄く嫌で。「ブルマ忘れた」って言い張って、ミニバスケの時の短パン履いてたりして、何回も怒られてた。あと小学校の卒業式。「最後なんだからスカート履いてこいよ！」ってみんなに言われて、でも絶対嫌で。だけど親もスカート履かせたかったみたいで、ドレスみたいなスカート買ってきたんだよね。でもそれも泣いて嫌がって、結局姉がしょうがないってズボン買ってきてくれて、それで行けたんだけど。

でも中学校はね、やっぱり制服で行くしかなかったよね。もうモロに「男性／女性」だからね、中学校に行ったら。でもやっぱり嫌だったし、運動部だったこともあって、ほとんどジャージで過ごしてた。バスケットボール部の朝練があったから、ジャージで登校するのはOKだったんだよね。授業だとOKな先生とダメな先生がいて、ダメな先生の時は仕方なくジャージまくってその上に制服着て、先生がいなくなったら脱ぐ、みたいな。全校集会の時も、本当は制服着なきゃいけないのに「忘れました！」って言い張ってジャージで出て、教頭先生に「なんでお前だけジャージなんだ！」って怒られたり。もうね、「ジャージ愛好会」会長だったから俺（笑）。ジャージを愛してたから。中学3年間で十何着持ってたからね。それくらい着てた。

あとはプールの授業も嫌で、体調悪いとかなんとか理由つけて、ほとんど休んでたね。

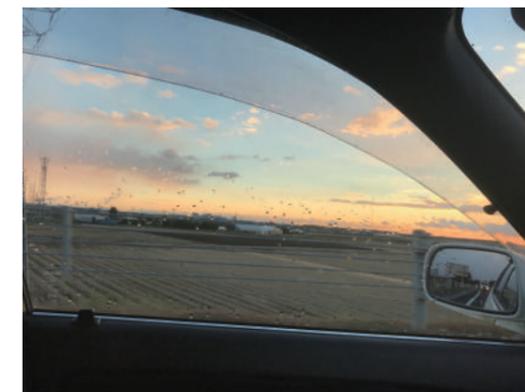
トイレの問題で悩むことはありましたか？

— 女子ってトイレでたむろったりするの好きじゃない？そこに入って行くのが嫌だったんだよね。だから

女子トイレが嫌で、体育館のトイレとか、職員トイレにコソコソと行ったりして。あとは授業中に行ったりね。先生に「なんで休み時間に行かないんだ！」って怒られたりしてた。生理はね、俺、始まるの遅くて、高校入るくらいの頃だったから、中学時代はそっちの悩みはなかったんだけどね。

小学校の頃からバスケットボールに打ち込んで、高校はバスケットボールが盛んな女子高に入ったんですよね。

— 自分が小中学生だった頃って、まだ「性同一性障害」なんて言葉も知られてなかったし、レズビアンかゲイか、おなべかおかまか、ってかんじで。「おなべなんでしょ？」って言われて、そうなのかなーと思いつつ、でもそう言われるのも嫌だし、かといってパレるのも嫌だし。「自分は男だと思ってるけどなー、でも女の子のフリしなきゃいけないのかなー」って考えたりしたことあったけど、でもそんなの考えただけでムリだしで。だけどそういうのを唯一考えないで没頭できたのがバスケットボールだったんだよね。それで、高校はスポーツ推薦で進学して。



でも、怪我のせいでバスケットボールができなくなって。

— 高校2年生の時、試合中の事故がきっかけで車椅子生活になってしまって。唯一いろんな問題を考えなくて良かった、すごく好きで夢中でやってたバスケットボールの時間がなくなったら、自分はどうやって生きていったらいいんだろうって、途方に暮れたんだよね。バスケットボールもまたできるかどうか分からないし、親にも面倒かけるし、ましてや自分が性別で悩んでることなんて誰にも言えないし、もう生きてい

くのが辛い、生きていてもしょうがないって思ってしまった。でも事故で身体が利かなくなってきたから、ああ自分は自分で自分の人生を終わらせることもできないんだって思って、なんかもう情けないっていうか、何も考えられなくなって。親ともケンカして、口利かなくなるし。結局、リハビリしながら高校に通って、なんとか卒業はするんだけど、もう投げやりになって。周りは「頑張れ、頑張れ」って言うんだけど、もうその「頑張れ」が聞けなくなっちゃって。未来とか夢が描けないから、誰に何を言われても受け入れられないし、入ってこなくて。今考えると、担任の先生や友達には、ずいぶん支えてもらってたなあって思うんだけどね。



それで結局、理容室を経営していた親御さんに言われて、高校卒業してすぐ理容専門学校に進学するんですよね。

— 親とケンカしてたんだけど、とにかく床屋にはなってくれ、って。もうあと何してもいいからとにかく床屋の免許だけは取ってくれ、って親に言われて。もうどうせやりたいこともないし、適当だったから、親が行けって言うんなら行くよ、行けば何も文句言わないんでしょ、ってかんじで。その頃はもう、何でも人のせいにしてたんだよね。怪我したのも人のせい、性同一性障害になったのも親のせい社会のせい、俺が苦しめるのは社会のせい、みたいに思ってたの、その時は。とにかく誰かのせいにして生きてた。それがラクだから。

今ではこうやって自分で理容室を営んでいる小野寺さんですが、理容師になったきっかけはじゃあ受け身というか、なりゆきというか。

— そう。家も床屋だし、まあ、理容師になっておけばいつか何かの役に立つのかな、くらいで。まったくもってその時はやる気もなかったし。専門学校に1年通って、実家の床屋でインターンやって理容師免許取って、実家とか他の床屋とかで働いてたんだけど、やっぱり、とにかく「思い」がないから、続かないんだよね。投げやりで。どうせ女子として働かなきゃいけないくて、ちょっと嘘ついて生きて、どうせ結婚もできないし、独りで生きていかなきゃいけないのかなあと考えると、夢とか希望とか持たなくて。

それでもバスケットボールだけはずっと好きで、高校卒業して少し身体が動くようになったときに、高校の同級生にクラブチームに誘われて、またやり始めて、やっぱりもう一回やりたいてって思って、22才のときにスポーツ推薦で大学に入ったんだよね。昼間は仕事して、大学は夜間部に通って。でも2年生になったときに父親が倒れて、店やれなくなったから、大学やめて結局床屋に戻るんだけどね。

そんな小野寺さんがカミングアウトを始めたきっかけって何だったんですか？

— 20才の頃から付き合い合った相方（彼女）がいたんだけど、26才の頃、「いつまで悲劇のヒロインでいるの？ マイナスなことばかり言って、人のせいばかりして生きてるよね？ 楽しい、それで？」ってぼつんと言われて、別れることになっちゃったんだよね。そのくらいの年頃だと、まわりが結婚し始めるじゃない。でも俺と相方の結婚って話にはならないわけだよね。俺もカミングアウトしてないし、相方も俺と付き合い合ってるってことをみんなに言えないわけよ。そんなときにマイナスなことばかり言ったら、そんなふうに言われて。

それで別れて、独りになって、考えたよね。俺ってそういえばこの年まで自分に向き合って生きてこなかったなあって。仕事からも逃げてたし、自分の人生そのものからも逃げてたし、人とかかわりも逃げてたし。高校の時バスケットボール部やめたのだから、リハビリやりながらマネージャーやってみんなを支えるってかたちもあったのに、自分がプレイヤーやれないっていうその現実から逃げて、見たくなかったから、逃げ出してきたんだよね。このまま生きてたら、とにかく嫌なこと全部にフタをして、ずっと人生逃

げて生きていくことになるんじゃないのかなあって思った時にもう俺、やめなきゃと思ったの。どっかで自分変えなきゃって。そう思った時が一番最初のカミングアウト。

まずは両親に、ちょっと話あるんだけど、って。分かってるかもしれないけど、俺自分のこと男だと思ってるんだって言って。親も、なんとなく分かってはいたみたいなんだけどね。付き合い合ってた女の子を家に連れてきてたりしてたから。友達じゃない雰囲気は感じてみたいで。でもそこから10年以上かかったよ、理解するまで。最初に言った時に、母親には「自分の産み方が悪かったのか」みたいに言われちゃって。そうじゃないんだ、そういうのは関係ないんだ、っていう話から始めて。父親はなんとなく分かってきてるけど、母親はまだ、どっちかっていうと受け入れてない。その話は嫌だ、みたいになっちゃって。まあうちの親、80才過ぎてるしね。そうやってまずは自分の大切な家族に言って、それから友達にもカミングアウトしていった。

そして仕事の方でも新しい一歩を踏み出して、今小野寺さんが引き継いで経営しているこの理容室に入店するんですよね。

— そう。ハローワークで求人見つけて、2005年の3月に店に入った。床屋には珍しく日曜定休だったから、バスケットボールと両立できるかなあって、面接受けたきっかけはその程度だったんだけど。

面接で性同一性障害だってカミングアウトしたんですよね。そうしたら当時の経営者であるお師匠さん（男性理容師）から「性別がどうか自分のことを主張するのは理容師として一人前になってから。それまでは女性として働いてもらう。最低限でも化粧はしてこい」と言われて、3日悩んで結局入店したと。

— やっぱり、面接でも隠したくなかったんだよね。女性として働けって言われたときは悩んだけど、でも「認めない」とは言われなかったわけだし、もう逃げてばかりはやめて、必死で頑張るって仕事も性別も認めさせようって思って。性同一性障害って言ったうえでそれでも雇ってくれるって言われたことも嬉しかったし。それで落とされてる人だって世の中いっぱい



いるわけだからね。でも化粧なんかしたことがなかったから、相方に一いったん別れた後ヨリを戻してたんだけど一教わって、ファンデーションだけ塗って。相方に「芸能人は男でもファンデーション塗るじゃない」って言われて、それで自分を納得させつつ。とにかく無我夢中で頑張ったね。それで3年くらい経ったころ、師匠が男物のシャツを買ってくれたことがあって。東京に連れて行ってもらったときに、オーダーメイドの店で、師匠が自分が買い物してた男物のコーナーで「お前も好きな選べ」って言ってきて。認めてもらえたのかなあ、って、やっぱりちょっと嬉しかったよね。

ちなみに今、小野寺さんのところに、このお店に入ったところの小野寺さんみたいな、性同一性障害だ、男として働きたい、って言う若い理容師が面接受けにきたら何て言いますか？

— うーん、やっぱり、まずは仕事どれくらいできるのか、お客さんどれだけ呼べるのか見せてって言うかな。で、仕事できないんだしたら、女らしく戻せとは言わないけど、性別のこと主張するのと同じくらい仕事覚える努力はしろって言うと思う。

その後お師匠さんが癌で亡くなって、2012年の9月に小野寺さんがこの理容室を引き継いで、現在に至るわけですよね。お店を引き継いだあたりから、本格的に性別移行も始めて。

— 初めてのカミングアウトをした頃に、FtMの友達に聞いた婦人科で男性ホルモン注射を打ち始めて。カミングアウトしたら次は外見変えよう！って思って、1年打ってたんだけど、師匠に会って、なんかちょっと

と順番が違うなと思って、いったんやめたんだよね。その後はずっと何もしてなくて。だから東日本大震災の時も、ホルモン剤が手に入らなくて困るとか、そういうことはなかったんだけど。

2012年の8月に改名したんですね。そして「小野寺真」として、9月から正式にこの理容室を引き継いで。——「真紀子」という名前だったんだけど、「子」がつく名前だから嫌で。まず性同一性障害の診断書もらって、書類揃えて家庭裁判所に行って、名前を変えてもらった。それからまた男性ホルモンも始めて。2015年の11月に胸を取る手術して、2016年の3月、OUT IN JAPANの仙台撮影会の直前に子宮と卵巣取る手術受けて、その後戸籍の性別も男に変更して。2人姉妹の二女だったんだけど、性別変更するとなぜか二男になるんだよね。兄はいないのにね（笑）。

お店のお客さんたちに対してのcoming outってどうしてるんですか？

——修業時代はね、師匠に、お客さんに聞かれたら「女性です」って答えなさいって言われてたからそうしてた。でも師匠に「あの子男の子か女の子か分かんないよね、ソッチの方なんじゃないの？」みたいに言うてくる人もいたらしくて、師匠はお客さんによって「そうですね」って言ったり、「いやそんなことないですよ女性ですよ」って言ったりしてたみたい。

今は聞かれたら性同一性障害って言うてる。このお客さんには言わなきゃいけないなあって思った人には自分から言うてるし。あとは言わなくてもなんとなく、そうなのかな？って思ってる人もいるだろうし。普通に男だと思ってるお客さんたちもいるだろうし。お客さん全員に必ず言うてるわけじゃなくて、そういう流れになったら言う、くらいのかんじかな。最近は新聞やテレビに出たりしてるから、見たよ、いろいろ大変だったけど頑張ってるんだね、応援してるからね、って言うてくださるお客さんもいたり。もしかしたら、来なくなったお客さんの中にはそういうのが嫌で来なくなった人もいるのかもしれないけどね。

やっぱりね、覚悟はしたよね。嫌だって人もいるかもしれないし、そうしたらやっぱり商売にならなくなるかもしれない。そこは悩んだけど、でもやっぱりこれ

が自分だし、応援してくれる人もいるから、それを信じてやるしかないって思ってる。やっぱり何でもね、覚悟は必要だよ。



地元で、しかもご実家と同業の理容業ということで、同業者には小野寺さんのことを子供の頃から知ってる人たちもたくさんいるわけですよね。そのへん、やりづらさとかないですか？

——自分はね、もう別に何言われても「そうなんですよ性転換しちゃって〜」とかノリで言えるからいいんだけど。うちの親の方が大変かもしれないね。

正直、からかわれたりすることもあったりしますか？

——男性理容師の集まりで、身体とかセックスのことに興味持って聞いてくるような人たちもいたりするんだけど。最初に「そういうの差別なんだよ」って言うっちゃうと急にそこで距離できちゃうでしょう。だから俺は何聞かれても答えるようにしてるのね。ただお前の話も教えるよって。人にセックスのこと聞くんならお前のセックスも言えてね（笑）。そう言う相手の方も、聞いてくるのをやめるか、はりきって言うてるか(笑)、まあそれは人によるんだけど。冗談ばく、あんまり重い話にしないで言うと、そうなんだ、意外と大変なんだねとか、みんなだんだん真剣に聞いてくれるようになったりして。興味を持ってもらうことはね、すごくありがたいなって思うんだよね。そういうええ俺がcoming outしたとたん、俺バイセクシュ

アルなんだよねって言ってきた人が2人くらいいて、みんなでビックリしたこともあった（笑）。でも、そんな感じで軽くcoming outできるんだったら、それはそれで良いのかなあって思うね。

セクシュアルマイノリティの場合、地元だと生きづらからよその土地に行き暮らす、という人も多いわけですが、小野寺さんはそういう生き方を考えたことはありますか？

——怪我してちょっと経って、親とうまくいかなくなってきた頃に、東京で仕事探そうかなと思って、東京の大学に入った友達のところに行ってみたことがあって。新宿二丁目※1のあたりとかブラブラしてみたんだけど。やっぱり結局「おなべ」として飲み屋づとめしかないのかなあ、って思っちゃって。性同一性障害っていう言葉も一般的じゃない頃だったからね。なんでこう生まれたらそういう業界でしか生きられないみたいになっちゃうのかなあって。やりたいこともないし、でも飲み屋づとめがしたいわけでもないし。で、思ったんだよね。やりたいことが自分で見つからないなら、東京にいても仙台にいても、どこにいても変わらないって。で、その時は、やっぱり自分はバスケットボールがやりたいって思って、仙台に戻って大学に入るわけなんだけど。

それに、地元の人たちに知られるってことから逃げたら、それって結局過去を消していかなきゃいけないことになるのかなあって。それが俺は嫌だったんだよね。過去があつての今の自分だと思ってるから。その覚悟がなかった、逆に。隠して生きる方が辛かった。東京とかよその土地に行っても、結局はcoming outしなきゃならない。だったらどこにいても一緒なのかなあって。

あとはやっぱり、うちの親が年取ってるからね。俺が見ないといけないんだろうなあっていう思いも正直あったね。

「OUT IN JAPAN に関わって」

2016年3月21日に仙台で開催されたOUT IN JAPANの撮影会で、小野寺さんは被写体として参加するとともに、ヘアメイクスタッフとして活躍してい

たわけですが、そもそも小野寺さんが被写体になった動機って何だったんですか？

——やっぱり仙台ではまだまだcoming outしにくいようなところがあるから。仙台でも身近にいるんだって、東京とか大阪みたいな大都市とか、海外だけの話じゃなくて、テレビの中だけの話でもなくて、仙台みたいなの、こんな小さな床屋にも、あなたのすぐ近くにもいるんだって、身近に感じて欲しかったんだよね。

撮影の時の衣装にもこだわってましたよね。

——本当はね、いつも自分が店に立ってる時のスーツ姿で撮ってもらいたかったんだけど、でも撮影会ではスーツはダメっていうルールがあって。だからスタイリストの人と相談して、白いGジャンを合わせたり、ちょっと崩すかんじにして。胸ポケットにハサミと櫛さしてね。美容師とはまた違う、床屋の雰囲気を出したかったんだよね。

小野寺さんにとって、理容師になったきっかけは積極的なものではなかったけれど、20年やってきた中で、理容師として働いている自分っていうのが、とても大事なものになっていったんですね。

——そうだね。やっぱり、師匠との出会いが大きかったよね。厳しい修業時代を乗り越えたから、いろんなものに覚悟も持てるようになったし。coming outに限らず、勇気を出して一歩踏み出すことで、いろんなことがひらけてくるんだなあって、そういう生き方もあるんだなあって思った。

仕上がった写真を見てどう思いましたか。

——普段はあんな表情で撮らないからね、ある意味カッコつけて撮ってもらったわけだけど、自分のまた違う一面なのかなあと思って、あんなにか良いなあって。それに、その1枚の中に、すごい数の人たちが関わってるっていうのを、俺は知ってるから。服を選んでくれた人たちだったり、撮影会を企画してくれた人たちだったり、裏方の人たちだったり。そういうのを知った上で見てるから、より深く見えるよね。

※1 新宿二丁目：ゲイタウンとして有名なエリア

「OUTのその後」
インタビュー②

表に出たら消費されるので、 消費されることに慣れて 利用しなければならな って思ってます

ヒノヒロコ

1992年生まれ / 宮城県仙台市出身・在住
アーティスト
シスジェンダー レズビアン

OUT IN JAPAN#006 東京撮影会に仙台から参加し被写体になった。OUT IN JAPANの被写体になれるのは1回限りというルールがあるため、直後に開催決定した#008 仙台撮影会には被写体として参加できず、見守るかたちとなった。
<http://outinjapan.com/hiroko-hino/>

生き立ち

どんな子供時代だったんですか？

— ブサイクで気弱で。友達もいなくて、一人で絵や文章ばかり書いているような子供でした。小中学校ではすごいじめにあって。上履き隠されたり画鋏入れられたり、池に突き落とされたり、思い出したくもないような言葉でなじられたり。本当に人として扱われてなくて。ゴミみたいな。ブサイクだとともに扱ってもらえないんだなって、すごく感じてましたね。

高校はキリスト教系の女子高に入って。いじめはなかったんですけど、女同士のカーストがあって、女同士でもやっぱり綺麗じゃないと誰も見てくれないんだなって、ずっと思っていました。それに私、美術部



だったんですけど、美術部なんてのもやっぱりカースト最底辺で(笑)。ギャルにすごく憧れてましたね。「小悪魔 ageha」※1とか読んで。ギャルっていう文化がすごくうらやましかった。ギャルって、可愛くても可

愛くなくてもピラミッドの頂点にいられるから、私も派手にすればあのカーストを登り詰められるんじゃないかって思ってた。と言っても、私服はすごいダサくて(笑)。母がすごく厳しかったから、ファッションに自分のこだわりがあっても許してくれなくて、ギャルになりたくてもなれなくて。高校3年間、ひたすら地味に地味に過ごしてました。あ、でも、制服のスカートは美術部のくせにすごく短くしてて、目つけられてた(笑)。スカート短いのが好きだったんですよ。強い女性に対する憧れが強くて、その象徴みたいなかんじで。

女性を恋愛対象として意識し始めたのはいつ頃ですか？

— 小学生のころ、同じクラスの髪の短い女の子を好きになって。でも何かアクションが起こせたわけでもなかったんですけど。一回だけ行動したのが、卒業アルバムのクラス写真撮るとき。どうしてもその子とのツーショットが欲しい！って思って。横並びじゃなくてもいいから！って。で、その子の後ろに立って撮って。それが唯一の積極的な行動ですかね。

中学生の頃に、初めての彼女ができるんですね。

— 中学校の同級生だったんですけど、ちょっと教祖みみたいな、カリスマ的な子で。面白くて明るいんだけど、自傷行為で全身傷だらけ、みみたいな。私、その当時、すごく暗い子だったので、私のこの苦しみや悲しみを分かってくれるのはこの子しかいない、って思い込んで、すがりついて。もう共依存でドロドロ、みみたいなかんじでしたね。で、中学校を卒業してからも、くっついてたり別れたりを繰り返すんですけど、考えてみると「付き合えた」のなんてほんの数カ月で。その子にはずっと彼氏がいて、私は2番目で、ずっと私の片思いで。その子、たまにしか連絡くれないんですけど、呼び出されたらすべてをなげうって飛んで行ったり。

それって、ヒノさんにとって「恋」だったんですか？

— すごい、好きでした。レズだって言うようになってから、その感情は「依存」や「憧れ」なんじゃないの？って、一番よく聞かれるんですけど、じゃあ逆にヘテロの人たちの恋愛だってそれは「依存」なだけな

んじゃないの？とか、大多数の女の人が男の人に恋をしているから、男の人が好きなんじゃないの？って、私は思っちゃうから。だからたとえ「依存」だったとしてもあれは「恋」なんじゃないかと思えます。

学校の方は、高校を卒業して、**尚絨学院大学(宮城県名取市)の総合人間科学部表現文化学科に進学するんですよ。**

— ずっと、一人でやれるものが好きだったので。本を出すのが夢で、小説を書いたりして。それで表現文化学科に進学しました。

ちなみに、初カノもその学科に行きたいって言って、一緒に大学行ってウキウキしてたんですけど。でもその子は結局来られなくなっちゃったんですよ……。

それで、大学に入ってからも、作品をいろいろなところに応募してました。あるとき、学内の映画祭でポスターの公募があって、ポスター描いてキャッチコピーつけて応募したんですけど、広告代理店に勤めてらしたところのある先生が、そのキャッチコピーをすごくほめてくださって。君は言葉のセンスが良いから、もうちょっと文章を頑張ってみなよ、って言っていただい。それでまたいろいろ書いてみたりして。

大学卒業後、**東北芸術工科大学(山形県山形市)の大学院に進学したわけですよ。進学を選んだ理由は何だったんですか？**

— 最初はちゃんと真面目に就活しようと思って、エントリーシート書いたりしてたんですけど。書いたエントリーシートをまずゼミの先生に見せたら、「俺はヒノさんに言いたいことがある」って言われて。「何ですか」って聞いたら、「ヒノさんはまだ社会に出るべきではないと思う」って。待って待ってどういことだ！って思ったんですけど(笑)。「ヒノさんは社会性がまずないよね！人としゃべれないしね！コイツなんか面白いこと言ってるけどウチの会社入ってもやらせることないよねって思われて絶対最終面接落ちるよ！」とか言われて。で、「とりあえず2年間執行猶予あげるから、大学院で、何がしたいのかとか、自分の人生どうするかを考えなさい」って、大学院進学をすすめられたんですよ。それがきっかけでした。

※1 「小悪魔 ageha」: ギャル雑誌

話変わって、ご家族との関係はどんなかんじだったんでしょう。

— 父と母と、2つ下の弟の4人家族なんですけど、すごい堅い、厳しい家で。と言っても、お父さんはけっこう優しく、ちょっと甘いくらいなんですけど、お母さんや母方の親戚がすごい厳しくて。ずっと親の言うことを聞いて、男の人には何を言われても三歩下がってなさい、みたいな。化粧とかもしちゃダメって、ずっと言われてたんですよ。

で、大学生のとき、金髪にしてみたら、すごく怒られて家に入れてもらえなかったことがあって。親の言うことばかり聞いてても何もできないって、お母さんの言うこと聞いてたら私は一生お母さんの言いなりだと思って、独り暮らしを始めたんです。仙台市内で家賃激安のアパート探して、アルバイトしまくって家賃払って。でも大学1年生の春休みに、東日本大震災が発生して。アパートにあった7段本棚3つ全部倒れて、本の下敷きになって、危ないから帰って来なさいって呼び戻されて、実家に戻りました。震災がなければ絶対、ずっと独り暮らししてたと思うんですけど。

震災直後の頃は、家族みんな四六時中同じ狭い家の中にいるから、ストレスがすごく溜まって、小競り合いがすごくて。で、当時やってたブログに辛いとかもうダメだとか書き込んだら、被災者じゃない東京の人から「戻れる家があるのになんでそんな贅沢なこと言うんだ」みたいなコメントが来て、ああ、家を失っていないと愚痴を言うことも許されないんだ、って。確かに実家は、家自体は大丈夫だったけど、買い物もできないし、断水で水なくて雪溶かしてラーメン作って食べたり、ガスもなかなか復旧しなくて1カ月お風呂にも入れなかったし、その東京の人のコメント見たときは、お前ホントふざけんなよ！お前も雪溶かしてラーメン作って食ってみろ！って思いましたね本当に。すごかったですね、あの頃は。で、結局そのまま実家暮らしで、現在に至るんですけど。

アート活動

レズビアンという、自身のセクシュアリティをテーマにしたアート作品を発表しているヒノさんですが、大学の卒業制作もヒノさんが恋していた女性をテーマ

に取り上げたインスタレーションだったんですよ。

— そうなんです。といっても、そのときはあくまでフィクション、創作物としての展示で、その展示を通して自分のセクシュアリティを明確に示したというわけじゃなかったんですけど。ゼミでも結局カミングアウトまではしませんでした。展示を見ても、誰もその点について触れてくる人いなかったし。

卒業制作や論文のテーマを考える時期に、私、すごい憧れてた女の人—初カノとは別の人ですけど—と連絡が取れなくなって、ショックで自殺未遂したりしてたんですよ。でも生き返っちゃって、もう生きるしかないって思ってた。それで、その人のこと、私ずっと神様だと思ってたから、神様の代わりになるものをつくらなきゃって思ってた。身長も体重もその人とまったく同じの、その人そっくりのダッチワイフをつくったんですよ。その頃、人が怖くて外に出られなくて、アーケード人がいっぱい怖い、具合悪くなる、みたいなレベルだったんですけど、粘土買うためだけに外に出て、後は毎日家に閉じこもって、ダッチワイフつくって。でも手足や膧があると男の人のところに行っちゃうから、手足も膧もないつくりにして。誰かに利用されることのない存在をつくりたかったんですよ。

で、ゼミ中の与太話でダッチワイフつくってる話をしたら、先生に「それ面白いよ！卒業制作にしなよ！」って言われて、そのダッチワイフをメインにしたインスタレーションを制作することになって。

その頃は、そのダッチワイフのことしか見られなくなっちゃって、それがすべてだったから、その子のお部屋をつくってあげよう、って思ってた。まず、その人に振られるまでの話を絵本にして、その絵本の世界をインスタレーションで表現するっていう個展にしました。この個展をポートフォリオにして面接受けて、東北芸術工科大学の大学院に入ったんです。

大学院でもセクシュアルマイノリティ・LGBTを研究テーマに設定したんですよ。

— 一応、大学で4年間やってた地域アートやりまわすって言って入学したんですけど、実は地域アートには興味なかったんですよ。でも、入ってみたら大学4年間本気でアートに取り組んできたレベルの高い人ばかりで。本気でやってる同級生たちを前にして、申し訳なくて号泣してしまって。先生に「お前は何が



「レズビアン・フリークスの誕生」

したくて大学院に入ったんだ」って聞かれても分からなくて、ひたすら泣いて。そうしたら「自分って何なのかまず考えろ」って言われて、「女が好きです」って言ったら、「じゃあそれを研究テーマにすればいいじゃん。面白いじゃん」って。それで研究計画書練り直して、セクシュアルマイノリティ・LGBTをテーマに設定しました。その先生、大学院で一番偉い先生で、歳も60近かったんですけど、そんな受け入れてくれなさそうな世代の人に面白いって言ってもらえたのがすごく嬉しくて、一番の自己肯定につながりましたね。

大学院で、それまで縁のなかった身体表現、パフォーマンスアートを始めたきっかけはなんだったんですか？

— 身体表現って、「人間に残された最後の芸術」って呼ばれてるんですよ。人間が自分の身体を使って何かを表現する、っていう、誰でもできることだから。大学院の同級生たちと比べて赤ん坊レベルの技術しかない自分が表現できる媒体って、そのときはそれしかなかったから、死に物狂いでやりました。

「カミングアウト」

小学生の頃から女の子に恋していたヒノさんですが、「レズビアン」だと自覚するようになったのっていつ頃なんですか？

— 大学生くらいまでずっと、自分はバイセクシュアルだって思い込もうとして。うちのおばあちゃんがすごく厳しい人で、ヒロコ結婚どうするんだ！とかすごい言われてて、いつか男の人と結婚しなきゃいけないって思ってたので。男の人と結婚するとき、男の人を好きになれないなんて言ったら絶対ヤバイと思って。けどやっぱり、女の人にしか惹かれないし、男の人を頑張って好きになろうとしてみたりもしたんですけど、やっぱり興味持てなくて。それで大学入る頃には、やっぱり自分はレズビアンなのかなあ、って思っていましたね。

周囲へのカミングアウトについてはどんなかんじだったんですか？

— 十代の頃は、本当に親しい友達にだけ、女の子と付き合ってることを言っていました。高校のとき1カ月だけ、アメリカに交換留学で行ったことがあって。そのときコーディネーターしてくれて、すごく仲良くなった留学生の女の人、尊敬してたし大好きだったんですけど、最終日の食事会で「こっちってさあ、女好きな女もたくさんいるでしょ？」みたいなことを同級生が言い出して、そうしたらその人が「いるよー！私なんて迫られたもん！」みたいなノリで返して。その話を聞いて、アメリカでもレズは生きづらいのかって思ってた。こんなふうに言われるんだったら、絶対人に言えないなって。大学入る頃には、「女の子が大好きなヒノちゃん」、「レズとかよく分かんないけど女の子大好き！」みたいな

枠で逃げ延びてましたね（笑）。

大学院でカミングアウトしたきっかけは、1年のときの4月のはじめ、同級生の女の子と大学の卒業制作の話になって。こういう作品つくったんだって言ったら、それって女の？その人のこと好きだったの？って聞かれて。よく言われる「えーレズなの？」みたいなんじゃないくて、すごく純粋なかんじだったから、自然と頷けたんですね。その数日後に大学院で一番偉い先生にもカミングアウトして、「面白いじゃん」って言ってもらえて、それでセクシュアルマイノリティ・LGBTを研究テーマにすることになったというわけです。研究テーマにしたから、後はもう言わなくても大学院中が私のセクシュアリティについて知ってる状態になりましたね。

大学院修士課程1年のときのレビュー作品「レズビアン・フリークスの誕生」は、テーマもまさに「カミングアウト」ということで。男性と望まない結婚をするレズビアンの子供たちのウエディングドレスにヒノさんがレインボーカラーのゲロを吐くという、パフォーマンスアート作品ですね。

最近のLGBT系の記事では、何かというとやたら女性2人のダブルウエディングドレスの画像が使われて、ひとつの象徴みたいになっていますが、でもそんな中でヒノさんは、純白のウエディングドレスにゲロを吐いてみせていて、それがすごく印象的でした。

— 純白のウエディングドレスって、私がずっと感じてた、実際祖母に言われてたみたいな、現代日本社会において求められている女性像の象徴、みたいな感じがすごく強くて。絶対男の人と結婚しなきゃいけない、って思ってる、昔の自分みたいな女の子たちの、むりやり白くしている身体に、レインボーカラーを塗りつけることで本当の自分の色を取り戻すっていう、そういう意味合いがあります。処女性の押し付けが苦手なんです、昔から。

最近のLGBTムーブメントの中では、ダブルウエディングドレスに象徴されるような、レズビアンに対する清らかさ、良妻賢母の押し付けというか、美しい女性同士のカップルで、浮気なんか一切せず、子供産んで育てて仕事もして、みたいなのがすごくありますよ

ね。同性婚がこれだけ話題になってるのに、貞操義務とか浮気したときの慰謝料とか、そういう話は全然出ないし。レズだって浮気で揉めたりしてるのに。

— 社会性がある苦しみしか、みんな捨ててくれないよねっていうのは、すごく思ってますね。

「レズビアン・フリークスの誕生」などのパフォーマンスアート作品はYouTubeにもアップして、広く社会に公開していますよね。

— もともと、私の作品は問題提起をするためにつくっているから、人々の前を出して何かしらのアクションをもらわないと作品が完成しないというところがあるので。それでYouTubeにアップしています。

作品を人前に出すということでは、大学院生のときの「東京レインボープライド」※2出演もありましたね。

— 「レズビアン・フリークスの誕生」のレビューを見てくださった大学院の一番偉い先生に、「どんどん外に向けてやりなさい」って言われて。「内に閉じこもっていい作品じゃないから」って。それでネット検索して、ちょうどステージ出演者募集してた「東京レインボープライド」に申し込んだら通って。ウエディングドレスをトランク一杯に詰めて、ダンサー引き連れて行きました。それまでアートの場でしかやってなかったから、「東京レインボープライド」みたいなハレの場、明るく楽しいお祭りの場で受け入れてもらえるかな？っていう不安もあったんですけど、意外と、面白かったよって言ってくれた人が多かったみたいで、ありがたいなあって思いましたね。

カミングアウトということ言うと、ヒノさんは作品の中で「男性嫌悪」をストレートにカミングアウトしていますよね。

最近のLGBTムーブメントで、カミングアウトがもてはやされている中で、でも「嫌い」とか「キモい」という負の感情のカミングアウトについては置き去りにされてるなあっていう感覚が、私にはずっとあって。負の感情だってその人の重要な一部分のはずなのに無視されてるなあって。男性嫌悪のレズビアンとか、女性嫌悪のゲイなんてたくさんいるのに、そうい



「東京レインボープライド」でのパフォーマンス（タイトル：ドロシーのお友達）

うこと言っちゃいけないような空気をすごく感じて。でもそんな中で、ヒノさんがレズビアンとして男性嫌悪をストレートに表現していることが、私にはすごく印象的だったんですね。

— 男性嫌悪は、もうずっと。小中学校ではずっといじめられてたし。ただの敵。しゃべりたくないし。負けたくないとか、勝ちたいっていう気持ちもありましたね。男の人に何をされても、私は勝つし、なんなら利用してやるし、破壊すればいいのにみたいな。大学院入ってからほんのちょっとだけ、ああ男の人も人間なんだあって思えたんですけど。男の人でも、いろんな理由で社会からつまはじきにされた人たちが集まったので。そこからちょっと人扱いというか、しゃべれるようにはなったんですけど。

それまでずっとゴミみたいに扱われてたのに、大学生になって化粧を覚えたら、今度は掌返したように、男の人が街で声をかけてきたりするようになって。アーケード歩いてたらいきなり脚とか触られたりして、何で、勝手に脚とか触ってくるんだろうって思っ。それが許されると思ってる、男の人の傲慢さがすごく嫌でした。人間として扱い始めたと思ったら、今度は性欲の対象としか見てこないってところに本当にイライラして。もうみんな死ねばいいのにみたいな。自分の見た目ひとつで、世界が変わったのは嬉しかったけど、それで消費されなくなかった。私のことを消費してもいいけど、お前らのことは全員滅ぼさず！みたいな気持ちがずっと強かったですね。

大学院の卒業制作展でも、展示してた私の下着姿の写真だけ写真に撮っていく男の人とかいて。性的消費に対するアンチテーゼなのに、目の前で私を性的に消費しようとしてる奴がいる！って。卒業制作展の期間

中は精神的な摩耗がすごくて。私のいるコーナーに男の人がわざわざ来て、「こういう格好するってことは、やっぱり男のテクニックを欲しがってるんだろう？」みたいなこと言われたことがあって、こんなにレズって言ってるのに、まだそんなふうに言う奴いるか！って思っ。びっくりして。賛否両論あるだろうとは思ってたんですけど、そういう根本的な話からしなければならぬ段階が、やっぱりまだあるんだなっていうことを、すごく思いましたね。

「男は敵」と考える背景には、「女を取られる」という気持ちもあったりしました？

— 初カノがノンケだったんですよ。次に好きになった女の人にも、「私は男が好きなんだ」って言われたりして。男になりたいじゃなくて、私が男だったら、彼女たちの彼氏とかそういう奴らに負けないのっていう気持ちは、すごいありましたね。

話変わって。アート活動をするにあたって、本名（戸籍名）を使っていますよね。活動名を使うという選択肢もあったと思うのですが、あえて本名を使っている理由というのは何なんでしょう。迷いはなかったですか？

— やっぱり、本名を名乗ることで責任が伴うと思っ。レズが本名を公開してこんなことをやってるよ、でも私は別に殺されてもいいし死んでもいいよ、と人に言える、これが一番良いんじゃないかと思っ。でも、最初に本名も出して大学名も出してマスメディアの取材を受けたときは、やっぱりすごく勇気がありましたね。大学院生の頃だったんですけど、すごく緊張しました。今ではずいぶんいろんな取材受けさせていただけてますけど、記事になったのを見たとき、何でこことこ切り取っちゃったの？みたいに悪意を感じることもあります。そういうときはすごく悲しくなるし、とらえ方で私すごく強気な女の子になったり、逆にすごく真面目になったりもして。そうやって消費されてるわけですけど、でも今、LGBTが脚光浴びてるうちにガンガン消費してもらって、消費され尽くした後に、本当に興味のある人が自分のところに残ってくれて、自分のことを知って掘り下げてくれるようになったらいいな、と思っ。ある程度は覚悟し

※2 東京レインボープライド2015: <http://trp2015.trparchives.com>

てやっています。利用しつつ、利用されつつ、みたいな。どんなかたちであれ、表に出たら消費されるので、消費されることに慣れて利用しなければならぬって思っています。

ただやっぱり、自分の家族は巻き込みたくないっていうのはあって。私、弟のことが大好きで、弟が嫌な目に遭うのは嫌だから。だから、苗字も本名も公開してるけどカタカナ表記、っていう、微妙なラインでやっています。家族は巻き込みたくないし、表に出す気もないし、自分ひとりで完結させたいっていうところはありますね。難しいですね、すごく。

その、ご家族に対するカミングアウトについてはどうだったんでしょう。

— 弟は私が言う前から知ってました。というのも、弟も東北芸術工科大学に通ってたので、私の大学院での活動を見聞きしてたんですね。大学院での周りの反応がすごく肯定的だったので、「お前の姉ちゃんスゲエな！」みたいな感じで言われてたみたいで、弟もちゃんと肯定的に受け止めてくれてたのが、すごく嬉しかったですね。でもうちの弟、現代アートは大嫌いなんですけど（笑）。

母には弟の食卓での発言がきっかけでバレました。私のアート活動が新聞に載ったとき、その話を弟が食卓でしたことがあって。で、うちの母、けっこうヒステリックなので、「うちの娘が新聞に?!」ってなって、私が寝てる間に、アトリエに使ってた部屋を家探ししたんですよ。そして、私が机の引き出しの奥に隠してたその新聞記事を見つけて。本名でレズビアンだって書かれて出てたもんだから、「あんたってレズビアンなの?!」って、私が寝てる部屋にバーンって入ってきて、寝てる場所を起こされて。バレた、もう殺されるって思って泣けてきて、ごめんねって言ったら、「自分の娘だもんね、受け入れなきゃね」って言ってきて。まさかそんなふうに言ってくれるなんて思わなかったから、それがすごく嬉しかったです。もう病院に連れて行かれると思ってたので。

嬉しかったんですけど、でも結局お母さんは、自分が受け入れてるって思ってるんだけど、すごく差別的な発言をしていることがけっこうあって。「女の人と結婚するなんて絶対言わないでよ!」とか普通に言っちゃうし。「あなたがレズビアンだって新聞に載

ることで、お父さんが何て思われるか考えたことある?」って言われたときには、「それはあなたが、私がレズビアンであることを恥ずかしいと思っているからそういうことを言うんですよ」って返したら「お母さんのことバカにして!」って超キレられました（笑）。

お父さんは、言っていないけど、分かてるんじゃないかなと思います。お父さんとは仲良しなんです。

大学院を修了して、現在は仙台でアート活動のかたわらウェブデザイナーとして会社勤めされてるんですよね。会社ではカミングアウトしてるんですか?

— 面接っていうほどの面接もなく入ったし、自己紹介でレズですって言うのもアレだなあって思って、言う機会もないままズルズルきてるうちにジワジワバレてるってかんじです（笑）。ネット検索でOUT IN JAPANの写真とか取材受けた記事とか、意外とみんな見つけて見てみたいで。見たよ、あれヒノさん?って言われて、あ、言う前にバレた!って（笑）。でも、女性が多い職場だし、ウェブデザインっていうのもあって、穏やかな人が多いので、特に何事もなく働いています。

地元仙台にいる理由

ちなみに、修了のタイミングで地元仙台を離れるという選択肢もあったと思うのですが、ヒノさんが今仙台にいる理由って何なんですか?

— この東北で、私はありがたいことに大学院という土壌の中でカミングアウトを割と難なくやらせてもらえたから、恩返しというほどでもないんですけど、私に利用価値があるうちは利用してもらえたらと思って。

あと私、山形で初めてカミングアウトをしたわけなんですけど。東北芸術工科大学の卒業制作展に、テレビ見て知ったっていうおばあちゃんが来てくれたことがあって。よくカミングアウトされたわねって。いろんな大変なこともあったでしょうけど、こんなふうな作品をみんなの前で出すっていう、勇気あることをしてくれてありがとねって言ってきて。本当に嬉し

くて。もう泣くわ!って（笑）。閉鎖的みたいによく言われるんですけど、だから私、山形がすごい好きなんですよね。東北でできることって、まだまだあるよねって思うし。あと私、不幸だと力が湧いてくるタイプなので（笑）。不幸をエネルギーに変えて、やってやろうと思っています。

地元といえば、大学院生の頃からここ仙台で「LADY EDEN」というウーマンオンリーのクラブイベントを主催されているヒノさんですが、そもそもイベントを始めたきっかけって何だったんですか?

— 私、仙台にレズビアン系の友達がなくて。友達が欲しかったんですよ。イベントやれば友達できると思って。知り合いの知り合いに、仙台でノンケのクラブイベント主催してる人がいて、いろいろ聞いてみたら、自分にもできそうだなって思って。ダンサーやってる女友達も、出たい!って言ってきて。でも仙台のレズビアンコミュニティに誰も知り合いがない状態で始めたから警戒されちゃって、最初はツイターで叩かれたりもしましたね（笑）。

まあ、主催者がヤバい人だと下手したら身の危険があるから、特に女性はどうしても用心深くなるし、警戒しちゃうってのはありますよね。ちなみに、ヒノさんのレズビアンコミュニティ・デビューってどんなかんじだったんですか?

— 私、仙台にレズビアンいないって思ってたんですよ。だから「レズビアン 仙台」でネット検索することすらなくて。「レズビアン 東京」でネット検索して、大学生のとき、21、22才くらいの頃だったかな、東京の新宿二丁目※3に行っただけです。二丁目に行かないと出会えないって思って。同志が欲しくて。その頃って、例の憧れの人と連絡が取れなくなってた時期で、髪バッサリ切ったり、新しいことにどんどんチャレンジしなくては!って思ってたんですよ。その人のこと忘れなきゃって。

そうしたら二丁目でもなぜか、ヘテロの男の人に絡まれて。どこ行くんですかって。28才くらいの、「おぼっちゃまくん」みたいな顔してる小太りの男の人だったんですけど。で、「女の人を好きかもしれないので、そういうお店に行ってみようと思って」って正直に

言ったんですよ。それがたぶん生まれて初めて、男の人に、自分が女の人を好きかもしれないって言った瞬間だったんですけど。そうしたらその人が「じゃあ俺もついていきますよ!」って、ずーっとついて来られて。結局オカマバーみたいなところに入ったんですけど、観光系のお店で。その男の人とすごい、くっつけようとしてきて。お店の人が。女の子と出会ったのにな!って思いながら、スゴスゴと帰ってきたのが、二丁目デビューでしたね。



初めてウーマンオンリーのクラブイベントに行ったのは、大学院に入ってから。コミュ障で、それまではイベントも怖くて行けなかったんですけど、大学院の研究テーマをLGBTにしてからは、頑張って人と関わらなければならない!って思って。パフォーマンスってやっぱり、人の力を借りないとできないものだし。それで、新宿二丁目の有名なウーマンオンリーイベントに行ってみました。そうしたら会場に入った瞬間、すごい人で。こんなにレズいるの?!って思って。すごい!こんなにレズが楽しそうに生きてる!って、もう感動で。レズのゴーゴーダンサーも、そのとき初めて見たんですけど、みんなメチャクチャ綺麗で、こんな綺麗なレズがいるのか!って。みんなすごいダンスが上手で、すごい楽しそうに、自信を持って踊ってるのが、すごいキラキラしてて。ああ、こういうふうになれたら、っていう思いが、「LADY EDEN」には詰まってるんですよ。

イベントといえば、大学院の卒業制作の「レズビアン日記」は、本当に私のありのままの毎日を写真に撮って作品にしたもので、イベントのときの写真もあったんですけど、それを見た学部生の子が殴り込みに来たことがあって。レズビアンイベントの写真なんか出したら、すべてのレズがこういうふうだと思わ

※3 新宿二丁目：ゲイタウンとして有名なエリア

れるじゃないですかって言われて。でも、実際こういうイベントもあるし、ちゃんとレズにも性欲があるし、こういう楽しみ方もあるんだって出たくて提示したんですけど、それでもこんなに拒否反応があるんだってことにビックリしましたね。



「レズビアンの日記」

イベントの写真を展示しただけで、そんなふうに出てくる人がいるんですね。

— いますいます、全然います。

OUT IN JAPAN

それでは OUT IN JAPAN の話に移りましょうか。

OUT IN JAPAN の被写体になったヒノさんですが、実は2016年3月21日開催の#008 仙台撮影会ではなく、2015年12月18日開催の#006 東京撮影会で被写体になったんですね。わざわざ東京まで行って、帰ってきたら直後にまさかの仙台撮影会決定という(笑)。

— そう！まさか仙台で開催してくれるなんて思わなくて！くやしい！私も仙台で撮影したかった～！(笑)

わざわざ東京に行ってまで被写体になった理由って何だったんですか？

— 「あなたの輝く姿が、つぎの誰かの勇気となる。」というコンセプトがすごくいいなって思って、嬉しくて。あと、今までやっぱり、「男に相手にされなかったからレズになった」「レズはブス」みたいなイメージが強い中で、きちんとプロの方にメイクしてもらって、なおかつそれが「ありのままの姿」っていう、綺麗に加工するんじゃなくて、自分のそのままの素の姿を

かしこんでくれる、っていうのをやってくれて、提示するっていうのがすごいなって。LGBT ブームが来た中で、これだけ当事者がいるんだよって、だから法整備も必要だし、これからどんどん着目していかなきゃいけないんだよ、って周知させるっていうのをやってくれるのが、頭いい！やりよる！（笑）って思って。ちょうどその頃、自分がオープンにすることで、人を励ますこともあるんだって実感する出来事があったのも大きかったですね。「ヒロコが頑張ってる姿を見て、変にコソコソなくて良いんだと思えるようになった」って言ってくれた友達がいて。バイの女の子だったんですけど、それが本当に嬉しかったんですね。あと OUT IN JAPAN って出身地書くじゃないですか。仙台にもレズがいるんだよっていうのも分かってもらえるかなって思ったし。やっぱりいろんなものの発信って東京から始まるから、地方ってその次みたいなのところがあるから。地方にも当事者は絶対いるんだよっていうのを提示できるっていうのも良いかなあって思って、東京に行って撮影会に参加しました。

いかがでしたか？ OUT IN JAPAN の撮影は。

— ハレの場だと思いましたね。今まで頑張ってきた自分を認めてもらえたような気持ちになりました。あとは、ひさびさに服を着た撮影をやったなって(笑)。袖がある服とか、あったかみのある服って、私にとって丸裸の状態に近くて。肌を出していた方が、威嚇できるし攻撃できる、みたいなところがすごく強かったので。本当に「素の自分」みたいなかんじで。それまでも、美術モデルとかヘアモデルとか、いろいろモデル活動はやってきてたんですけど、OUT IN JAPAN の撮影は、見せかけの精巧さであったり美醜じゃなくて、ありのままの自分を出すところがいいなって思いました。

実は私が最初にヒノさんの OUT IN JAPAN の写真を見たときの印象が「アルプスの少女ハイジ」で。ちょっと照れたような、ビュアで素朴な少女ってかんじで。あの写真を見た後でヒノさんのアート作品でのランジェリー姿とか見た人は衝撃を受けるだろうなって思いました(笑)。

— 作品とか、インタビュー受けたるときは、意

識的にすごく、強い女性像を押し出してるんですけど。本当はすごい、人としゃべるの苦手だし。OUT IN JAPAN の写真は、そういう素の自分が全部出てるから、恥ずかしいなって思います。

写真に添えられているメッセージも、かなり重い内容ですね。

— 大学院のみんなが、生まれて初めて、自分が丸裸になって頼っても、笑ったり許してくれたりするっていう人たちだったので。そういう人たちも見るものだから、本当に素直に書いたものじゃないとすぐ見破られるし。それに、見た人の心に響く、爪痕が残る文章ってどうなのだろうって考えたら、やっぱりあるがままを書こうって思って書きました。

写真がネットに公開されて、周囲の反応はいかがでしたか。

— 友達に言われたのが「盛れてない」って(笑)。「あるがままだから盛れてないよね」って。

確かに(笑)。ところで、OUT IN JAPAN の写真は Twitter や Facebook など SNS のアカウントのアイコンとして使える仕様になっているわけですが、ヒノさんは使ってないですね。どうして使わなかったんですか？

— 私は、SNS って全部コンテンツだと、コンテンツとして消費されるべきものだと思っているので。「レズのツイッター」みたくよく言われる中で、「あるがままの姿」だと弱くなって。自分自身の本当の姿って、自分でもすごい弱くなって思うから。そういう、弱い姿を人前に出すっていうのが、OUT IN JAPAN の中でだったらコンセプトにも合ってるし良いと思うんですけど、自分をひとつのコンテンツとしたときには、それを表に見せるべきではないかなって。

みんな、面白くないと見てくれないから。すごいビックリしたのが、「ヒノさんのツイッター見て、レズにも面白い人いるんだなって思いました！」って言われたことがあって、いるよ！めっちゃいるよ！！って思って(笑)。レズビアンに対するイメージって勝手なイメージが多くて。やっぱり、クローゼットな人が

一般的ですしね。美人のレズビアンなんてたくさんいるのに、みんなモテないからそうなったんでしょ？みたいなことを言われ続ける中で、じゃあヘアモデルやってやるよ！お前らの言うキレイってこういうことでしょ？これやればいいんでしょ？みたいな、そういう気持ちが強いんですよ。

ヒノさんの Twitter 拝見していると、確かにすごく、エンターテインメント性出そうとしてるのを感じますね。でも実はヒノさんの将来の夢って、可愛い彼女と結婚して赤い屋根のおうちで一緒に暮らして子供育てることなんですよ？

— 私本当に、この24年間、テンプレートな幸せって一度も実感したことがなくて！幸せになりたいんですよ！なれないんですけど！まずは赤い屋根のおうち建てなきゃ！そのためにもっと稼がなくっちゃ！

頑張って稼いでください！

2016年10月20日 せんだいメディアテークにて聞き手：MEME

「OUTのその後」

<クローゼット座談会>

CLOSET が潜入！ OUT IN JAPAN

OUT IN JAPAN#008 仙台撮影会では被写体にはならなかったが、ボランティアスタッフとして活動。さらに、関連企画として「私がカミングアウトしない理由～CLOSET IN JAPAN～」と題した交流会を開催した。



namihei

1976 年生まれ
宮城県出身・在住
FtX でパンセクシュアルでポリアモリー
という呪文のようなセクシュアリティ

キャシー

1977 年生まれ
宮城県出身・在住
セクシュアリティは MtX ノンケ男子ばかりを好きになる永遠の片思い中

MEME

1980 年生まれ
宮城県出身・在住
恋愛感情のない FtX バイセクシュアル

クローゼットの 3 人がなぜ

OUT IN JAPAN に関わったのか

MEME | えっと、私たち 3 人は、いわゆるセクシュアルマイノリティとか、多様な性のあり方に関わる活動をいろいろやってるんですけど、顔や本名は公にしていらない、いわゆるクローゼットなわけです。

そんなクローゼットな 3 人が、2016 年 3 月、なぜかカミングアウト推しの企画である「OUT IN JAPAN」の東北プロジェクトの運営ボランティアスタッフとして奔走することになって。

しかもその一方で、関連企画として「私がカミングアウトしない理由～CLOSET IN JAPAN～」という、クローゼットの存在をアピールする企画をぶつける

ということもやって。不思議がられたり応援されたり批判されたり、いろいろあったわけなんですけど。今日はまずそのへんについて、掘り下げて話してみたいなあと思います。

私の場合、仙台で OUT IN JAPAN の撮影会やることになりボランティアスタッフを募集してるって話を聞いても、最初は全然手伝う気なんかなかったんですよ。でもとりあえず、実行委員会のミーティングに行ってみることにして。

namihei | そもそもなんで手伝う気もないのにミーティングに行っちゃったの？

MEME | 一応、どんなことやるのか聞いておこうかなと思って。監視じゃないけど、ちょっと警戒心も

あった。東京モンに荒らされるだけ荒らされて、みたいなのは嫌だなあと。東日本大震災のときもそういう話を聞いてたし。ボランティアと称して自分たちの売名みたいなことばかりして去る、みたいな。いろいろと批判も多いプロジェクトだったしね。

で、ミーティングで、撮影会のほかに関連企画もやろうみたいな話があって。じゃあ OUT IN JAPAN に対抗して CLOSET IN JAPAN なんてどうかな、って思ったんだよね。バランス取りたいなと思って。OUT IN JAPAN のキラキラしたイメージをしんどく感じるようなクローゼットの交流会なんかどうかなと。クローゼットのことも尊重してます考えてますって言われても、やっぱりどうしても OUT のオープンな姿が目立つから。それだったら、同じくらいとまではいなくても、ある程度の強さをもって CLOSET も見せていかないとたぶんバランス取れないよなって。で、namihei さんならこういう企画を面白がってくれるんじゃないかなと思って、「一緒に主催しませんか」ってお誘いしたんですよ。私がそれまで女性限定の交流会しか開催したことがなかったから、性別不問の交流会をやってきた namihei さんとコラボすることで、参加者の幅も広がるんじゃないかという考えもあって。

namihei | まあ、間違っではないけど。私、要するに利用されたんだよね（笑）。

MEME | 利用とか言うな！（笑）で、まあ、namihei さんにご賛同いただいて。で、これ「本家公認」ってことにすればもっと面白いよね！と思って、OUT IN JAPAN を企画運営している「認定 NPO 法人 グッド・エイジング・エールズ」代表の松中権さんにお話ししました。まあ、最初は難色を示されて。

namihei | そりゃそうでしょ！ケンカ売りまくってるでしょ！

MEME | いやいやそんなつもりは！本家公認でこういう関連企画やれば、OUT IN JAPAN がクローゼットにも目配りしてるっていうスタンスが明確になって、OUT IN JAPAN の懐の深さも示すことができるんじゃないですかね、ってことでご提案したんです

よ。もちろん、これは別におふざけとか、茶化すような気持ちでやろうとしてるんじゃないし、自分たちなりの切実さがある。やっぱり仙台・東北で撮影会をやるからには、こういう企画もやりたいんだって、あらためて丁寧にお伝えしました。そして話し合いの結果、「私がカミングアウトしない理由～CLOSET IN JAPAN～」というタイトルで、「協力：認定 NPO 法人 グッド・エイジング・エールズ」というかたちで開催することに落ち着いたというわけです。

ちなみにメインタイトルを「私がカミングアウト『しない』理由」としたのは、クローゼットだってみんながネガティブじゃないはずだってことで、「できない」とか「したくない」みたいなネガティブな言葉じゃなく、ニュートラルな「しない」を選択したという経緯があります。

で、そしたら松中さんが「自分も行く」って言い出して。監視役かよ！と思って。「お忙しいのにこんなショボい企画にわざわざ来ていただかなくて結構です」とご遠慮申し上げたんですけど、結局いらっしやることになり。それで、最初はクローゼットの交流会っていうことで考えてたんだけど、オープンな人たちが来るのにそれも変かなくなって。結局、参加条件不問で、クローゼットとかカミングアウトとか、そういうあり方についてみんなで考えようというコンセプトの交流会になったんですよ。

一方で、メイン企画の撮影会の手伝いもすることになった経緯については、CLOSET IN JAPAN の方で無理を言ったぶん、手伝わないと悪くなって気になったというか。引っ込みつかなくなったというか。それに、実行委員会のミーティングに行ったら、明らかに人が足りなくて。というわけで、流れで撮影会も手伝うことになっちゃったんです。

ところで、namihei さんはどうして関わったの？私が CLOSET IN JAPAN の件で誘う前から関心は持ってたよね？

namihei | さっき MEME さんが言ったみたいく監視。監視だし、中に入れば堂々と悪口言えるじゃん。結局、セクマイ（セクシュアルマイノリティ）関係でいろんな活動を始めたのも、東日本大震災のときに外から東京のセクマイ関係の団体が来て、私は良い思いをしなかったから。だから、仙台で OUT IN JAPAN の撮影

会やるって聞いたとき、「あまたか」って思ったんだよね。またひっかき回して手柄拳げて帰って終わりでしょ？そうはさせねえぞって。でもただ文句言うのは嫌じゃん。中を知って、正々堂々と悪口言いたいなと。それで、中に入っちゃおうと思って。手伝う気マンマンで（笑）。でもその方が事情を知れるじゃん。周りから行かなくてもさ、本人に直接聞けるし。

キャシー | 直接聞けるし、ちゃんとした情報が得られるよね。

namihei | そう。手っ取り早い。好き勝手されたり、やられてから反対したりするよりも、やられる前に「それやらないで」って言った方が。もう、作戦だよな。実行委員会に入ってやられて。というわけで、被写体になる気はサラサラなかったけど手伝おうとは思ってた。あとね、東京の人がイベントをどうやって運営してるのか、その技術を知りたいなっていうのもあった。

MEME | 裏方に興味あるっていうのは、私も確かにあった。イベントもお客さんから見えるところじゃなく、大道具とか小道具とか照明とか、そういうのに興味があって。

namihei | キャシーは何で関わったの？

キャシー | 台風のようにバン！って企画が来て、どんだんその台風に巻き込まれていったかんじ、かな……。なんかそんな気がする。何でかって言われると……。

MEME | 頼まれると断れない？

キャシー | かなあ……。そんなことばかり（笑）。

MEME | CLOSET IN JAPAN でも、当日受付やらお茶くみやら、すごく手伝っていただきまして。

namihei | 結局、一番働いてくれてたよね。

キャシー | なんだろう。なんか自然に、手伝わなきゃと思って。2人だけで回すのは大変だろうなって思ったし。

namihei | まあでも、被写体にはなってないわけだから。そういう意味ではCLOSET IN JAPANのメンバーだよな。

キャシー | そうだね、確かに。

CLOSET IN JAPAN をやってみて

MEME | 仙台撮影会の前日に仙台市太白区中央市民センターの和室で開催した交流会「私がカミングアウトしない理由〜CLOSET IN JAPAN〜」には、結局我々や松中さんを含め 58 名の人に来てくれた。ほうじ茶を飲みながらおしゃべりしたり、用意した付箋にカミングアウト／クローゼットについての思いをそれぞれ書いてもらってホワイトボードに貼り出したり、ということをやったわけですが。どうでした？あの空間は。



キャシー | あれだけ全国からいろんな人が来てごちゃまぜになっても、なかには自分から言ってる人もいたけど皆そんなにわざわざセクシュアリティについて言うわけでもなく、それで個室で座布団を敷いてみんなでお茶を飲んで世間話、みたいなかんじでいらるっていうのが多様性の空間というか。不思議だなあとは思ったかな。

MEME | 翌日の仙台撮影会で被写体になった人たちとか、グッド・エイジング・エールズのスタッフの人たちもたくさん来てたけど、聞いてみると被写体になった人たちも、別にオープンにすることが正義とか

思ってるわけじゃなくて。いろいろあるよね、みたいなかんじで。CLOSET IN JAPAN というきっかけや視点を提示することで、そういう声を引き出したのは良かったかなあって思った。

松中さんも、みんなが付箋に書いたコメントを熱心に読んでくれて。グッド・エイジング・エールズの関係者にもクローゼットの人も多いためだし、そういうあり方を知らなかったわけではなかったと思うんだけど、でもあらためてネガティブなばかりではない、いろんなあり方を見てもらえたのはすごく良かったのかなあと思う。

OUTの方には参加しないけどって言いながら、わざわざ遠方から来てくれてた人たちもいたよね。

namihei | そうなんだよね。遠方から来た人たちで、被写体にはならないで帰った人もけっこう目について。

キャシー | それってすごいことだと思う。

撮影会の裏にいたクローゼットたち

MEME | そんなこんなで楽しい交流会の翌日は、本番の撮影会と関連企画のトークイベントと展示。我々は朝から夜中まで会場の仙台 PIT の中を右往左往していたわけですが。

キャシー | namihei さん、撮影会当日はボランティアの仕切りをやってたんだよね。

MEME | キャシーはトークイベントの担当になって。私はホームページを立ち上げたり、いろんな書類作成したり。我々ってさ、気がついたらスタッフとしてスゲー働いてたよね！なりゆきでスゲー手伝ったよね！

namihei | 頑張ったよね！みんな頑張ったと思う！でもさ、うまくいかなかったことも多くて、反省点ばかりではあるけど……。撮影会当日の現場ボランティアも、被写体にならなかったクローゼットの人が多くて。あと被写体になる資格のないノンケの人いっぱいいた。

MEME | そういえば当日会場に置いてたカンパ箱にも、被写体にならなかった人たちが結構お金を入れてくれてたよね。

裏方がいるなんてのは何にしたって当たり前のことで、わざわざアピールするような話じゃないって言われたらその通りなんだけど。ただでも、一部のオープンな人が、「クローゼットな人たちのためにもカミングアウトしてあげてるんだ」とか、「カミングアウトしないでより良い社会なんか作れるわけない」とか、言わんばかりの言動を取っていたりすると、それはやっぱり違うんじゃないかとは思うよね。「いやいや、キラキラ輝くあなたの背後で掃除とかしてたクローゼットがいたんですけど？」って。被写体が輝けているのは、そうやって裏方を頑張っていた人たちがいるからなわけで。そういう人たちがいたことは、言っておきたいし、知っておいて欲しいって思うかな。

namihei | でも、出来上がった写真を見たときはやっぱり、ああカッコいいなって思ったね。

MEME | 私たちの場合、被写体の多くが知り合いだったっていうのも大きいよね。やっぱり、普段との違いを感じるし。

キャシー | あー、それ思う。本当にみんな、いつもと表情が全然違うし。なんか見たことない表情で。本当あの空間は不思議だったね。魔法にかかったみたいなの。

MEME | 撮影現場の雰囲気は本当に魅力的だったよね。私も一瞬撮られたくなっちゃったもん（笑）。理性で抑えたけどね！それがやっぱりプロのワザなんでしょうね。友達とかがすごいイキイキしたキラキラした写真で撮ってもらえてたのは、すごい良かったねーと思う。

namihei | 撮ってもらえて良かったとかさ、そういう感想を目にしたときには、ちょっとやっぱり心が動いたよね。やって良かったなーとかさ。

MEME | 私が手伝ったのって、やっぱりそれも大きかったと思う。被写体になるとは思ってなかった友達とかがなるって言って、それだったら手伝いたいかなって。

キャシー | 顔と名前を出して被写体になる人が、東北にもこんなにいるんだっていうのはビックリした。

MEME | 正直、東北で被写体 100 人を集められるとは思ってなかったもんね。

カミングアウトとクローゼットは グラデーション

MEME | そういえば、CLOSET IN JAPAN をぶちあげてネットで告知したときに来たコメントで「ネットで自分の意見言っというクローゼットとか変だろ」みたいなのがあって。

namihei・キャシー | あー。

MEME | 「カミングアウトとはまず自分に対するカミングアウトが大事なのであって」みたいに言う人もいるけど。でも、自分で自分にカミングアウトしたらクローゼットじゃないというなら、そもそもクローゼットと自認すること自体が矛盾ってことになるよね。たとえば自分がセクマイだって自覚してる時点で、自分に対するカミングアウトはしてるじゃん。

キャシー | じゃあクローゼットってそもそも何なの？

namihei | そもそもクローゼットの定義とは？みたいなね。

MEME | だから結局、グラデーションなわけでしょ。CLOSET IN JAPAN でも「クローゼットとオープンなグラデーション」って付箋に書いてくれた人もいたけど。逆に、OUT IN JAPAN の被写体になった人たちにも、私たちがより断然クローゼット的な生活をしてる人が多かったりするし。自分がクローゼットだと思えばクローゼットなのかな、みたいな。だから、ネットで意見を書いているお前がクローゼットだなんて変、みたく言われる筋合いはないかなって。私なんかもこうやって、いろんな人に言っはいるけど、でも家族や職場には言っないというのがあ

て。まあ、最悪知られたら知られたで何とでもなるようにはしてるけど、知られないようにはしてて。だからマスメディアの取材を受けることがあっても顔や本名は出さないし。そういう意味で自分はクローゼットだと思ってる。

カミングアウトしなくても社会を変えることはできるって示したいというか。まあ、なかば意地になってるところもあるけど。

カミングアウトすることで見えなくなるものもあるよね。職場の世間話とかで出てくるような、「ゲイキモい」みたいな差別発言をさりげなくたしなめるとか、悪目立ちしないでさりげなく書類の性別欄を消すとか、そういうことができるのってクローゼットならではのところもあるし。それぞれのやり方があるわけじゃん。

キャシー | 「保育園落ちた日本死ね」※1だって、書いた人、別に顔出ししてるわけじゃないでしょ。でもあれだけ広がって、どんどんどんどん大きな問題になって。顔や名前を出さなくても、個人がバレるような情報を出さなくても、今の時代、意見言うことはできるし。Twitterとかいろんなもので個人特定されるのを避けつつ、これだけ発言できるような社会って、これまでなかったよね。マイノリティの声も出せるし、1人でも発信できる。かつ、それに共感できる人も見つかるっていう。すごいことだと思う。ただ、自由すぎて人を傷つける発言も増えていて。メリットもあるけどデメリットもあって、どっちが多いのかは正直分からない。

namihei | でも確かにクローゼットじゃない方が、影響力もデカいし、人も見てくれる。やっぱりクローゼットだと、新聞も取り上げにくいみたいで、相手にもされないし。っていうのはあるけどね。

写真について思うこと、いろいろ

MEME | そもそも、写真撮られること自体は好きですか？



キャシー | 年齢が上がるにつれて撮られたくなくなってるっていうのはあるけど（笑）。

MEME | お肌のコンディショ的な？（笑）

キャシー | （笑）まあ別に、こだわらないっていうか。写真を撮られようが撮られまいが別に気にならないし、気にしない。それが形として残るから嫌だっていう感覚はない。自分では写真も撮らないし、誰かが撮ってくれるなら撮ってもらってもいいかな、みたいなかんじ。

MEME | そういえば確かに、日常的に写真撮ったりはしてない印象がある。

キャシー | 一切。ケータイにだって写真全然入ってないし。

namihei | でも、カメラを向けられれば別に拒絶はしないんだ。

キャシー | 別に。それが公の場に出されて、親戚とかにセクシュアリティのことを知られるっていうんだったらダメだけど。

MEME | 要するに、アウトティング※2に繋がるようなかたちで出されるのは困るけど、写真そのものは好きでも嫌いでもない、みたいな。

namihei | なるほど。キャシーはそういう意味で、写真撮られるのは嫌だっって言ってるんだ。

MEME | 私の場合、写真撮られることそのものが嫌いなんですよね。魂抜かれるからね。

namihei | いや、だからさ（笑）。

MEME | いや、なんだろう、カメラを、レンズを向けられて切り取られることの暴力性に敏感なんだと思う。堅い言い方をすると。

キャシー | その写真が何かに使われるとか、そういうこと？

MEME | いや、使われなくても。人の写真を撮って手元に置きたいっていうのが、言っちゃえば相手を手元に置きたいっていう願望のように感じる。たとえばその極端な例が、ストーカーしてる相手を盗撮して家の中にその写真を貼るとか、そういうのだと思うんだけど。写真に撮って手元に置くことで、その相手の一

※1 保育園落ちた日本死ね：この言葉がタイトルとなった匿名ブログの記事が話題となり、国会質問で取り上げられたり、2016年の「ユーキャン新語・流行語大賞」のトップテンに選ばれるなどした

※2 アウトティング：人のセクシュアリティを本人の許可なく第三者に言いふらす行為

部を取るっていうか。それは、占有することでもあり、支配征服することでもあり。シャッターを切られることで、なんか自分が奪われるかんじがする。だから、私の中では痴漢に遭うのに近いかんじかな。

namihei | その感覚は分かんないなあ。

キャシー | そこまで写真からは感じたことない。

MEME | 勝手に写真撮る人の言い分で「減るもんじゃなし」っていうのがよくあるんだけど、それって痴漢の言い分と一緒にじゃん。尻撫でたからって減るもんじゃなしっていう。でも、何であなたの欲望のために私が嫌な思いしないとイケないのかって。全然対等じゃないじゃん。私の中で、勝手に尻触られるのと、勝手に写真撮られるのは近い感覚がある。

namihei・キャシー | あー。

MEME | そんなわけで、もともと写真は苦手だったんだけど。今、勝手に撮ったあげく、勝手にネットに上げる。それをまったく罪悪感もなくやる、そういう人がすごい目立つのが気になって。セクマイコミュニティも、前はもっと写真にすごいデリケートだったと思うんだよね。撮るにしても、「撮っていい?」とか、「これネットに上げていい?」とか、聞くカルチャーがあった。そういう気遣いはあったと思うんだけど。今や、セクマイ系のイベントでも、パンパン写真を撮ってて。自分たちだけを撮ってるつもりでも、人がいっぱいいるからどうしても背後に写り込むわけじゃん。それも構わずパンパンネットに上げたりとか。マスメディアでも、イベントに来てた人の写真を撮って、それを本人の同意もちゃんと取らないで誌面に載せちゃったり※3。そういう行為の暴力性っていうのが、アウトティングやリベンジポルノとかで昔より問題大きくなってはるはずなのに、感じない人が増えてるのかなと。別にセクマイじゃなくても、そこらへん歩いている人だって、今ここにいることを知られたら困るかもしれないわけじゃん。撮られて晒されることで身の破滅に繋がる人もいて。そういうことまで考えて晒してますか?って。一見オープンにしてるセクマイの人でも、実は出るメディア選んでいたりってこ

ともあるしね。たとえば新聞の取材だったら基本OKだけど、地元紙だけはNGとか。地元紙だと親戚とか皆見てるから。オープンな人でも、そうやってコントロールしてたりするんだよね。だから、オープンにしてるからって、どこにでも載せていいわけじゃない。

namihei | だから今、追い付いてないんだよ。カメラが進歩して、皆がどんどん撮ってネットに上げられるようになって。そういうのはルールがあるんですよっていうのが浸透しないまま、技術がどんどん進んじやあって。

MEME | やっぱ、スマホの普及で爆発的にそういう状況になったよね。みんなが高性能カメラを持っているんだもんね。それで、軽々しく写真撮るようになって、断るとケチとか、「俺が悪用するとも思ってんのか」みたく言う人もいるけど。悪用しないとしても、相手が嫌がってるんだったら、ムリヤリ撮ったらダメじゃん。断っていいし、断られたら素直に引くべきだし。決定権は撮られる側にあるはずだよ。そういうのを、もっとちゃんと皆が認識しないとダメなんじゃないかって、すごい思う。

namihei | 嫌だって言われたら、撮っちゃダメだよ。嫌な理由なんか関係ない。理由云々で撮る撮らないじゃないじゃん。嫌だって言ってるんだからさ。何がそんなに難しい話かなって、いつも思うんだよね。

MEME | 私やキャシーはさ、セクマイ関係のイベントに出演するとかで人前に出るときは、ドラッグクイーンの格好で素顔を隠して自衛してるわけだけど。namiheiさんは、「撮られたくない側が自衛を強いられるのはおかしい」というスタンスを貫いてるよね。

namihei | いやだって、おかしいでしょ。嫌じゃん。何でこっちが。事前の話し合いで、「撮らないでくださいね」って言って、「はい分かりました撮りません」って約束して。それで約束を破る方がおかしいよね。

MEME | それもやっぱり、痴漢の話と一緒にだと思ってるんだよね。痴漢対策もさ、被害者側に自衛を求めるよ

うな広告が多いわけじゃん。

namihei | 「夜道を歩くな」とかね。

MEME | でも、それって本当はおかしいよね。やる方が悪いわけじゃん。被害者はまったく悪くないのに。

namihei | だから私は、一切仮装しません!

MEME | でもなかなか、私なんかはそこまで思い切れなくて。結局、撮って晒す奴はいるだろうっていうのがあるから。だから仮装してる。

namihei | 確かに、私も実際やられたことあるからね。

MEME | でしょ? 実際そういうのあるから。だから、自分の身を守る手段は取りたいかなって。

キャシー | あとは今、発信する文化じゃないけど、ご飯食べに行っただけで全部写真撮って報告、みたいなものがあるじゃん。なんでその人のご飯まで全世界に向けて発信しなきゃいけないのか、いまいよく分からない。

MEME | せっかくの料理なんだから、写真撮ってるヒマがあったらさっさと食べたいよね。

キャシー | 一番美味しいときを逃してるよね。

namihei | だから要するに、ふたりは楽しめないんでしょ、写真を。ご飯の写真にしても、楽しみ方が違うんじゃない? 私だったら、忘れちゃうから写真に撮って、クラウドに上げてる。このお店にいつ行ったかとか忘れちゃうから記録として。誰かに見せるわけじゃなく。結果的に見せることにはなっちゃうんだけどね、そういうアプリだから。でも、「いいね」が欲しくて載せてるんじゃないって、あくまで自分の記録として。

MEME | 絵日記みたいなかんじなのかね。

namihei | そうそうそう。ただ、昔はリアルタイムでSNSに上げちゃって、それで待ち伏せされたことが

あって。あれは「おっかねー」って思った。だから最近、時間をずらして上げたり、というのはある。

MEME | 「カフェ○○なう」なんてリアルタイムで上げたら、居場所バレバレだもんね。

namihei | そう。私の場合、そんなふうには食べ物の写真とかは撮るのが好きだし、記憶を補うツールとして使ってるけど。でも基本的に、鏡を見ても自分だとは思わないし、思えないから、写真を撮られて嬉しいわけじゃないじゃん。街中でガラスを見るのも嫌なわけで。だから集合写真で自分を探すのも大変なの。

MEME | セルフィメージと現実の外見が違う、っていうこと?

namihei | そう。違い過ぎるから。あれーこのときどのへんにいたっけかなー、たぶんこれ自分かなー、みたいなの。

キャシー | えー。

namihei | そのときによって着てる服や髪型も違うから、何年か前の写真を見せられても、自分が写ってるかどうかいまいよく分からない。だから、それは楽しくないわけ。でも、ラーメンの写真とか撮って溜めとくのは楽しいわけ。

キャシー | なるほどー。

namihei | だから、OUT IN JAPANなんてさ、撮るわけじゃないじゃん。別人の写真と差し替えられててもピンとこないかもしれない。本当にそれくらいのかんじだからね。

キャシー | 人によって、それぞれ考え方は違うよね。

namihei | 難しいね。

キャシー | でもさ、一般人の間でもそうだけど、メディア側の人たちも、写真に対してかなり軽くなってる気がする。軽いつていうか、アバウトっていうか。

※3 [AERA 2017年6月12日号] でおわび: <http://publications.asahi.com/news/748.shtml>

namihei | でもさ、メディアに写真自体はやっぱり必要なんだと思うんだよ。分かりやすさとかさ、あるしさ。たとえば文字の読み書きが苦手な場合、やっぱり絵とか写真で入ってきた方が早いから。だから必要なんだけど、人物に関してはね、ひどいのあるよね。

MEME | ただやっぱり、ある程度はその暴力性を認識しながらもやらざるを得ないことも、報道とかではあると思うんだけどね。東日本大震災のときも避難所で、資料として写真撮っておいた方がいいんじゃないかと思ったんだけど、被災者の人たちにはどうしてもカメラを向けられなかった、っていう知り合いがいて。正直その気持ちは、そうだろうなあとと思ったんだけど、でもやっぱりそういう状況の写真って資料として重要なもの確かじゃん。

namihei | 難しいね。

キャシー | 確かに。

MEME | だからそういうとき、何か言われたときに、責任を取るところまで腹くくって撮るのがプロなのかなって思うんだけどね。

namihei | 難しいよね。でもやっぱり写真はね、分かりやすいんだよね。分かりやすさの暴力っていうかさ。

キャシー | インパクトもあるし。

MEME | 結局 OUT IN JAPAN も、皆が顔を晒して撮られてますっていう、分かりやすさが強さでもあるわけでしょ。

namihei | そうそう。2016年の11月に多賀城市立図書館でOUT IN JAPANの写真展※4やったときもさ、写真展のことを知らないでたまたまた来た人なんじゃないかと思うんだけど、見に来てた人が「えーこの写真の人たちってみんなそうなのー」って。



多様な性を考える What's LGBT? 企画写真展 (多賀城市立図書館)

※4 「多様な性を考える What's LGBT? 企画写真展」: https://tagajo.city-library.jp/library/ja/event_page/564

キャシー | 「しかも東北の人なの？」みたいな。

namihei | 図書館の展示だって、あれは写真だからこそ成功したんだと思うし。あれが写真じゃなくて、文字だけだったらどうなったかも分かんない。来場者の人たちからも、好意的な感想がいっぱい寄せられていて。そんなに反響あるとは思わなくて、なんか「あ、負けたな」って(笑)。「あー、これがやっぱ、カミングアウトの力かな」って思った。

MEME | 顔出しの力ね。結局、顔を出すっていう強烈なパワーに、顔を出さないでいかに対抗するかってかんじだよ。

この多賀城市立図書館の写真展も、結局 namihei さんが裏方として関わって、そしてなぜか我々クローゼット3人組がオープニングトークイベント※5に出演するという(笑)。どんだけ頑張ってるのね、我々ね(笑)。

キャシー | 本当だよ(笑)。仮装までしてね。

namihei | 本当かどうかと思うわ。でも、OUT IN JAPAN に対して心の整理ができないまま、何か知らないけどずーっと関わり続けているというか。とはいえ、結局1回関わったことじゃん。関わったことだからさ、ちょっとね、このまま終わるのも無責任っていうか。

MEME | 真面目だよ(笑)。

namihei | そうでしょ？真面目～(笑)。でもさ、もったいないって思わない？せっかくあんなプロジェクトやって写真撮って、使わない手はないと思うんだけど。今ブームだしさ。今しかないでしょ、使えるのって。悔しいけど、OUT IN JAPAN の写真って、本当に良いツールだと思うんだよね。あれは本当に人の目を引くし。「あなたの輝く姿が、つぎの誰かの勇気となる。」っていうのが OUT IN JAPAN のキャッチコピーだけど、まさにその通りになってるっていうか。写真展見てくれた人が、「被写体になった人たちを見て勇気もらいました」って感想くれたりして。で、こっちもやって良かったって思っちゃって。もうなん

かさ、悔しいよね！潰しに行ったはずが潰されたみたいなさ(笑)。

MEME | 我々がこんなにしつこく絡んでるのって、被写体にならなかったからこそかもね。

namihei | 絡むって言わないで(笑)。

自分ファーストで行こう！

MEME | ただ、今のこの風潮に乗せられて、無理して表に出てるんじゃないのかなって感じられるような人もいて。だから、無理しなくても、いくらでもやれることはあるよ、みたいなのは思う。

namihei | やっぱね、手取り早いんだよね。顔出すのは。メディアも食いつくし。

MEME | カミングアウトしたからって、その人個人が幸せになれるとは限らないし、むしろそうでないケースも多いはずなのに、なんかそういうのがあまり語られないっていうか。キラキラしてるカミングアウトした人と、したくてもできない可哀想なクローゼットの人、みたいな見え方があるよね。そういうことを言ってるつもりはないって、たとえば OUT IN JAPAN の企画運営側は言うんだろうけど、でもそう思われてもしょうがないような売り出し方はしてるよね。CLOSET IN JAPAN をやったのも、結局そこにちょっとツッコミを入れたかったわけなんだけど。もちろん、いろんな事情でカミングアウトしたくないのにせざるを得なくなっちゃうような人もいるわけで。カミングアウトしたからって不利益を被ったり、生き辛くなるような社会はおかしいし、言っても差別されないっていうのが当たり前だとは思っただけね。でも大半のセクマイは「せざるを得ない」ってわけでもないでしょ。無理にカミングアウトすることはないと思うんだよね。そもそもノンケだって、プライバシー重視で職場とかでプライベートについて言わなくなってるわけだし。

キャシー | ていうか、言って分かるならいいけど。この3人の場合、セクシュアリティがゴッチャゴチャだから、言ってもたぶん伝わらないよね。

MEME | ていうか、我々のセクシュアリティって自分でもよく分かってないっていうか。でもさ、みんな自分のことを掘り下げたらワケわかんなくなるんじゃないかとは思っただね。それに、生きてれば変わる事だってあるしね。

キャシー | それは思う。好きな人も変わるし。好きなタイプも変わるし。

MEME | まあただ今は、ノンケ的にはLGBT 枠でひとくくりってかんじだから、それ以上細かいことを聞こうとは思わないってのもあるかもね。

namihei | 私もメリットがあれば、別に言ってもいいけど。何もメリットないもんなーと思うし。私、ズルいよね。本当ズルいと思う。顔出しもしないでいろんな活動やってさ。でもね、みんなもっとズルくなれば良いと思うの(笑)。そうすれば私のズルさが薄まるでしょ！

MEME | 最近はLGBT で起業したい！みたいな人もいたりするよね。LGBT ブームで、LGBT がひとつの才能みたいに思われちゃってる人もいるのになって。

キャシー | ノンケの人でも、LGBT を商売にしようとしてる人が接触してきたりする。

MEME | でもさ、こんなの一時的なブームに決まってるじゃん。

キャシー | ていうか、もうすでにブームしばみかかっているよね。

MEME | だからこそ、日常生活、私生活は大事にしないとイケないかなって。生きづらさを減らすためにやってるはずなのに、自分が生きづらくなったら本末転倒だし。

キャシー | かえって生きづらさを増やしてる人もいる気がする。自分の気持ちがどんどんどんどん落ちていって。

MEME | 私、自分が一番可愛いので。自分の私生活が犠牲になるようなことはしたくないし。まあね、逆に、「社会全体が良くならなくちゃ自分の幸せもない」みたいに言う人もいるけど。私なんか、「自分が幸せじゃなくて何が社会の幸せだ」と思うから。

namihei | そうだね、それは確かに。

キャシー | それは共感する。

MEME | 自分ファーストで行きましょう！

2017年8月10日
Cafe & Bar LYNCH (宮城県宮城郡松島町)にて
文章まとめ: MEME

※5 「多様な性を考える What's LGBT? 企画トークイベント」: https://tagajo.city-library.jp/library/ja/event_page/565

「OUTのその後」
インタビュー③

カミングアウト／クローゼットの その先にあるもの



武田 こうじ

1971年生まれ / 宮城県仙台市出身・在住
詩人
シスジェンダー 異性愛者

2015年に開催された「東北レインボーSUMMER フェスティバル」に出演以来、LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティを取り巻く課題に関心を寄せている。OUT IN JAPAN 東北プロジェクトとの関わりとしては、撮影会の被写体にはなれない立場ながら、「私がカミングアウトしない理由～CLOSET IN JAPAN～」や、多賀城市立図書館にて開催された写真展に来場者として参加した。

性の目覚め

小さい頃、女の子になりたかったそうですね。

—「なりたかった」というとちょっと違うのですが…小さい頃から、可愛いものが好きで…遊ぶにしても、外で遊ぶよりは、ぬりえをしたりとか、人形を使って物語を作ったりとか、そういうのが好きでしたね。みんなで騒いだりする…男の子ノリが苦手だったっていうのがありました。ぼくは幼稚園の頃、登園拒否児というか…幼稚園に行けなかったんです。別にになにかあったわけじゃないんですけど、行って、みんなでお弁当を食べると吐いちゃって。そういうのもあって…あんまり、賑やかに遊びたくなかったのかもしれないですね。

あと単純に、スカートを履いてみたいとか…髪型も、男の子だと当時はみんな、坊ちゃん刈りか坊主頭だったので、女の子の髪型はいいなあと思っていました。

同居していたおばあちゃんが着付けの先生だったんです。それで、おばあちゃんの着物教室によくついて行って…そうすると女性たち…生徒さんたちが着物を着ていて…おばあちゃんが着付けしている姿や着物を着ている女性を見ているのが好きでした。ある時、着付けの発表会があって、ぼくも七五三のモデルをやったんです。女の子は振袖みたいな綺麗な着物を着て、袖口つかんで腕広げて可愛いポーズするんです。ぼくは袴で男の子役だったのですが、そのポーズをどうしてもやりたくて（笑）。それで、ステージでそのポーズをしたら、会場がすごく沸いちゃって、

ビックリして泣いちゃった、っていうことがあったんですよね。そういう時に、あ、男の子のふるまいと女の子のふるまいって違うんだな、って思ったことはありましたね。

なので「女性になりたかった」というよりは、「女性ってすごいなあ、いいなあ、綺麗だなあ」みたいな、単純なあこがれがあったのかもしれないですね。女の子に対する幻想みたいなものだったのですかね。父親と母親だったら母親の方が好きだったし。母親の髪を触るのがすごく好きで…母親の髪触ってないと眠れなくて…母の髪の毛に絡まって指が抜けなくなったりしていました（笑）。「女性は髪長くていいな」みたいなあこがれがありましたね。

小学校に上がると、男の子っぽくみんなと外で遊んだり、野球したりっていうことも増えてきたんですけど、幼稚園の時みたいに女の子と遊ぶことはできなく

なってしまったと思っていました。だんだん距離ができてきて、もう一緒に遊ぶなくなるんだなあ、と。そういうのが、なんか、つまらないなあ、と思ったりしていましたね。

そして「かわいくていいな」って思っていた幼稚園時代から、「男の子だからこそ、女の子が好き」っていう気持ちが出てきたのを覚えていますね。

初恋は小学校4年生の時だったとか。

— 厳密に言うと、小学校1年生の時に付き合っている女の子がいて…でもそれは、親同士が仲良かったから、よく遊んでいたみたいな感じだったと思うんですけど…。なので、それは自分が好きとかではなかったと思うんです。

でも小学校4年生の時の子は、はっきりと、男の子として好きになったというか、自分は男の子なんだ



なっていることをすごく自覚したんですね。転校生の女の子をすごく好きになって…衝撃的でしたね(笑)。今でもその衝撃って覚えています。嫉妬したりとか、その子を振り向かせるための努力をしたりとか、そのことで学校から帰ってきてからも悩んだりとか。よく覚えているのが、その頃『キャンディ・キャンディ』っていう少女漫画が流行っていて…アニメも人気があったんですけど、さすがに小学校4年生くらいになってくると「男の子がそれを見るのはちょっと」みたいな雰囲気があったんですね。だけどその転校生の女の子が、『キャンディ・キャンディ』が好きだって自己紹介をしたんですね。そして、アニメだけでなく原作漫画をちゃんと読んでいて…言っていたから…話を合わせたくてひたすら『キャンディ・キャンディ』を勉強したんです。でも、漫画を買っちゃおうと接点がなくなっちゃうから、その子に「貸してほしい」って言って。頼む時にとても緊張したのとか、その子が『キャンディ・キャンディ』を渡す瞬間に手が触れちゃってドキドキしたのとか、今でも覚えています。とにかく気になってしょうがなくて。ありがちですけど、からかって振り向かせようとしたりしていました。

女性を好きになることで自分の男性性を自覚する、っていうのは、やっぱり異性愛男性にはよくあることなんですかね。だから逆に、「身体は男性で心は女性で好きになるのは女性」みたいな人の場合、自分で自分のありように気づくのに時間がかかったりすることもあるみたいですね。「男として生まれて、好きになるのは女だけど、あれっなにか違和感あるぞ？」みたいな。

— ああ、なるほど、そうかもしれないですね。ぼくは属性で言うとストレートだから、今こうやって笑ってしゃべれるのかもしれないけど、その時誰かを好きになった感情が周りとかみ合ってなかったり、すれ違っていたら、その段階で誰にも言えなかったり、なにもできなかつたりしたのかもしれないし…。そして実際、そういう子も自分の周りにいたのかもしれないですもんね。人間って、今流行りの村度じゃないけど、気をつかって初恋をしてしまったたりすることもあるのかなって考えてしまいますね。



詩人になるまで

ところで、詩を書き始めたのはいつ頃なんですか。— 本格的に書いたのは、高校生くらいの頃ですね。中学生の頃はバンドを組んでいて…ドラムだったんですけど…そのバンドの歌詞を書いたりはしていたのですが…。「歌詞」から「詩」をすごく意識するようになったのが、高校生くらいの頃でしたね。

当時、詩を書いていることを、カミングアウトというか、周りに言っていたりはしましたか。

— それはなかったですね。ちょっと話に戻るのですが…中学校くらいになってくると、本格的に「女性」というものを考えるようになるんですね。「女ってなんだ」みたいな(笑)。思春期ならではの性への関心って言ってしまえばそれまでなんですけど…男の子の友だちを尊敬するとか、いいなって思うことがあんまり

なくて…友だちとして楽しいとか、そういうのはあるんですけど…やっぱり女性のふるまいとか、おおげさかもしれないのですが、女性から得るものとか、そういうものが自分にとっては大きかったです。でも、そんなことを思っていることを他の人には言えなくて…。そんな中で、本をこっそり読むとか、文学に触れていくことっていうのは、自分に触れていくことでもあって…友だちと騒いでいる自分と、レコードを聴いたり、本を読んだり、女の子のことを考えたりする自分っていうのは、自分の中でちょっと離れていた感じです。それがなにか分からないもどかしさはあったんですね。楽しくやっていたいんだけど、もう一方で思いつめるというか…いろいろ考えてしまう自分がある、みたいな。まあ、思春期では誰でも大なり小なりあるとは思いますが…。で、文学に触れていったり、詩を書いたりというのは「やっぱり自分ってこういうところあるんだ」という確認にもなっていました。ただ同時に、書いた詩が良いとは言われないうらやうな、というもどこかで思っていました。そのことで傷つくのが怖いというか…「そんなことやっているの？」って驚かれることではなくて、きっとこの詩は良いって言われないうらやうなっていうのがあって、人に見せなかつたっていうのはありますね。勝手に遠慮していたというか。

詩を書いているということそのものがからかわれたりするんじゃないか、というよりは、詩のクオリティにダメ出しをされるのが怖かった、ということなんですかね。

— そうですね。高校生の頃も、バンドやっていたので、自分のバンドの歌詞も書いていたのですが、メンバーに採用されないことが多かつたりして…「イマイチだね」みたいな話をされて「やっぱりダメかあ」と思ったりしていましたね。「詩人になろう」という気持ちも全然なかったですし…周りに、詩を書いたり読んだりしている人もいなかったんじゃないかな。高校を卒業して、大学に進学するんですけど、大学生の時に出会った友だちが、「詩を書いているいいんだよ」ということを教えてくれた人だったんですね。その人も詩を書いていたから、その人の影響で「ずっと詩を書きたいな」という思いが湧いてきたんで

す。それに大学生くらいになると、映画を観たり音楽を聴いたりする範囲が広がるので、いろんなものに触れていく中で、海外にはポエトリー・リーディングっていうものがあるって、詩人は本にするだけじゃなく、ギャラリーやカフェで、できた詩を読み上げる、っていう文化が昔からずっとあったってことを知ります。そして自分は詩を読むというのを自分の形にできたらいいんじゃないか、と思い始めました。ただ、身近にそういうことをやっている人がいなかったの、どうやったらいいのかわからなくて…そういう気持ちを、誰かに言うというのもなかったですね。

詩を書いていることも、2、3人の友だちにしか言っていないで…。自分の周りの人はほとんど知らなかったと思います。文芸サークルに入るということもなかったですね。ただ「詩を書く」というのは、ものすごく大事なことだと思っていました。だけど、それを発表するかどうかというのは別に考えていましたね。人に見せるとか、読んで聞かせるということはできませんでした。いろんな意味で、怖かったんだと思います。

では、詩を書いていることを公にするようになったのは、いつ頃なんですか。なにかきっかけなどはあったんですか。

— 大学を出た後、中学校の英語の教師になったんですけど、その時出会った子どもたちっていうのが、エネルギーのある子たちで…中学生なのでいろいろやらかすのですが(笑)、それでも仲良く、楽しくやってきました、その影響があったと思います。「実は詩を書いているんだ」と言ったら、「えー、なにそれ？」とはならなくて、「じゃあ読ませて」と子どもたちは言ってくれたんです。「展示会とかしないの？」みたいに言われたりもして。その時の子たちが背中を押してくれた、というとおおげさかもしれないですけど、その時なんか、社会と接点ができたような感覚があったんですね。それまでは映画館の中にいるか、友だちの家に行って音楽を聴く、みたいな限られた人と限られた空間の中で過ごしていたような気がして…。教師やって、子どもたちと一緒にいることで、明るくなれたのかなあとと思います。教師は何年かやって、自分には教師になる実力が足りないと感じて、「詩人になる」と宣言して辞めたんですけどね。

イメージの押し付けについて思うこと

話変わって。いわゆるセクシュアルマイノリティにもよくあることなんですけど、偏見というか、勝手なイメージの押し付けというか、たとえば「ゲイは芸術的センスに優れている」みたいな、そういうのが詩人の方に対してもあるんじゃないのかなあと思ったりするのですが、どうなのでしょう。詩人って、なかなか身近にいないので。

—それはあるでしょうね。「詩人って繊細なんですよ」とか。あとは、常識がなくても詩人だから許される、みたいなものもあるかも（笑）。でもぼくは、基本的に約束は守りたいし、普通に生活をしていきたいので、自分がそうだっていう意識はないんですけどね。自分では分からないところで、ズレてる部分もあると思います（笑）。



他には、メールや手紙で誤字脱字があると「詩人のくせに」とか言われたりしますね（笑）。文章を書く人

間がこんな間違いするのか、みたいな。児童館とか小学校で子どもたちに詩を教えたりする時も、板書していたら「書き順違います」って指摘されたりとか（笑）。子どもたちからすると、国語の先生の延長みたいな目で見てるんですよ。

あるいは…常識的なことを言うと、「詩人のくせにつまらない」と言われたりしますね。「もっと破天荒なイメージがあった」とか。そういう、武勇伝を欲しがるっていうのは、どうしてもあって…ちょっと考えちゃいます。そもそもぼくは、通常の価値観というか…そのことだけで、イイとか、悪いとかを判断しようとすることに、詩人だからというより、子どもの時からすごい抵抗がありました。必ずしもそういう価値観だけでは測れないものがあるはずだっていうのは、昔から考えていることです。

セクシュアルマイノリティのコミュニティに関わって

ところで、そもそもセクシュアルマイノリティのコミュニティに関わるようになったきっかけってなんだったんですか？

—海外の詩人や映画監督には、ゲイなどのセクシュアルマイノリティの方も多く、その方たちの作品が好きだったので気になっていたというのはありました。あとは…さっきも言ったような、自分自身の性への関心というか…恋愛などに対して…そういうことをいつも考えてしまう自分を解き明かしていきたいという思いがありました。ずっと、そういうことに囚われて生きてきたところがあったので。あと、単純に不公平なこととか、差別があるっていうのは良くないと思っているので…自分にながでできるわけでもないのですが…社会の中でそうしたことがどう話題になっているのかは気になっていました。そうしたら、2015年に開催された『東北レインボー SUMMER フェスティバル』※1に、声をかけてもらって出演させてもらって…そこからさらに、いろいろ考えるようになり、こうしていろいろと関わらせてもらっている感じですね。

そのフェスティバルに出演したことで、良いメッセージを投げかけられたと思っています。所謂セクシュアルマイノリティの当事者じゃないけれど関わってもイイんだ、とか…。出演した後は、いろんな方…ストリートの方たちに…「どうだったか」よく聞かれました。みんな、興味はあるけど「直接聞いていいのかな」みたいなことはあるんだと思います。「そういう人たちって普通に話してくれるの?」とか、「今さら聞いたら嫌がられるよね」とか、けっこう言われるんですよ。意外かもしれないけれど、そういう…いろんな話ができる場を求めているのではないかと思います。ぼく自身も「もっといろんなことを話してみたい」って思いますしね。それこそ恋愛のいろいろな形についてとか、そこに関係してくるそれぞれの立場の話とか、お互い分からない感覚だとは思いますが…どこか共通する部分も絶対あると思うから…活動がどうか、社会に異議を唱えようとかの前に、「それってやっぱり興味あることだから、いろんな話したいよね?」「そういう話って面白いよね」っていうことを話することができる場があるといいのかなと思ったりはしますね。

ちなみに、『東北レインボー SUMMER フェスティバル』に出演した時、出演することで「ゲイだと思われるかも」みたいなことは思わなかったですか。「ゲイは芸術的センスに優れている」みたいな偏見がある中で、詩人である武田さんはある意味、世間のイメージするゲイの一典型だったりするんじゃないかと思うんですけど。実際に私も、「その出演者の詩人の方ってゲイなんですか?」って聞かれたこともあったりしたんですよ。

—うーん…そういうのも面白いかなって思っちゃってましたね。「あの人なんで出ているんだろう?」みたいに思われたりするのイイのかなと思って…だけど、まあ…自分の暮らしている街のイベントなので、みんな分かっているのかなとも思ったりはしていましたが…。だけど、フェスティバルの後、レポート記事がゲイ雑誌に載って、そこに自分の写真も掲載された時は、ちょっと気になりました（笑）。

もうひとつ…ちなみに、関わってみて、男性に興味が出てきたり、やっぱり女性になりたいとか、そういう目覚めがあったりは？

—それはなかったですね…。以前は、街を歩いていると、すれ違いざまに男性にお尻を触られたりっていうことがけっこうあって、自分にもそういう要素があるのかなって、思ったこともあったんですけど…。その時、ときめいたりしなかったの（笑）…今回もそういうのはありませんでした。

OUT IN JAPAN & CLOSET IN JAPAN について「見る側」として感じたこと

OUT IN JAPAN については、武田さんはノンケなので被写体にはなれないお立場だったわけですが、「見る側」として、実際に写真展で OUT IN JAPAN の写真をご覧になってどう思われましたか。

—OUT IN JAPAN の写真は、2016年11月に多賀城市立図書館で開催された写真展※2に行ってみたのですが、ぼくは、写真が好きで、写真集をけっこう買ったりもしているので…単純に、「この写真良いな」っていう率直な感想もありました。一枚の写真にアート性もあって、そこから訴えてくるものもあって。だけど…MEMEさんたちから撮影会の裏話※3いろいろ聞いちゃってるから、フラットに見られないっていうのも、正直あったんですけどね（笑）。

教えてもらった話の中で…撮影現場のテンションがすごく良かったっていう話があったじゃないですか。そういう話を聞いたりすると、一流のカメラマンのマジックというか…アーティストってそういうすごさを出せるんだなあ…とか、そういうところにも興味が湧きましたね。

それと同時に、そこに込められているメッセージということを考えた時に「これって、どういうことなのか?」って、いろんな角度で考えてみないといけないなと思いました。参加したみなさんが写真を撮られたことをどう考えているのか、ということ…。つまり、カミングアウトするか/しないクローゼットのま

※1 東北レインボー SUMMER フェスティバル：東北でセクシュアリティに関わる活動をしている諸団体の協働により宮城県仙台市にて開催された、多様な性のあり方を祝い楽しむ祭典 <https://tohokurainbowsummer2015.jimdo.com/>

※2 「多様な性を考える What's LGBT? 企画写真展」: https://tagajo.city-library.jp/library/ja/event_page/564

※3 【OUTのその後】CLOSETが潜入！OUT IN JAPAN：本冊子24ページに掲載

まなのか、写真を撮るか／撮らないかだけで分かれてしまうと…「どっちかを選ばないとダメ」みたいなことになってしまった。写真展を見に行くぼくたちも、セクシュアルマイノリティの人たちは「どっちかで活動しているから、どっちかを尊重しなきゃいけない、あるいはどっちも尊重しなきゃいけない」みたいに感じてしまって、ほんとうはその中にもいろんなグラデーションがあるんだ、っていうことが、見えづらくなってしまふんじゃないか、という気がしました。メッセージが単純化しちゃうというのは、そういう危険性があるような気がして…そう考えると、どっちでもない第3の道もあるよ、という取り組み方も、大事だと思いますね。動くのと、動かないのだけではなく、その間にいることの可能性というか…。

ぼく自身は詩人として活動している以上、名乗らなきゃいけないし、人前にも出なきゃいけないと思っていますが、アーティストの中でも“フェイスレス”…顔を出さない、という形で活動している方もいて…それは自分のキャラ性で活動するのではなく、作品だけを評価してほしいというメッセージがあるからなんですよね。セクシュアルマイノリティの人たちも、自分なりの必然性があるって、クローゼットを貫いているのであれば、なにかに迫られて、表に出ることもないと思いますね。

武田さんには、OUT IN JAPANの写真展をご覧いただいた一方で、カミングアウト／クローゼットについて考える交流会『私がカミングアウトしない理由～CLOSET IN JAPAN～』にも参加していただいて。サブライズで『なまえ』※4という詩を読んでいたいたりしたんですよ。

— はい。さっきの話にかぶりますが、OUTもCLOSETも、どっちでもないも、ありだなと思って参加しました。

イベントの内容の話になれば、単純にあの場は、話やすく楽しかったです。ステージ主体のイベントだと、なかなかみなさんと話すのって難しいし、「なにも分かっていないのに、行っていいのかな？」って思ったりすることもあると思うのですが、ああいうお茶飲んで、ただおしゃべりして、という場だと、参加しやすかったとぼくは思いました。

語られないことに思いを馳せるということ

カミングアウト／クローゼットといえば、東日本大震災の経験にしても、言っていない、言えていないことがみんなまだたくさんあるはずだと思うんですけど、それを伝えることばかりが正しいのか、という思いも、個人的には、最近ちょっとあつたりするんですよ。「語られないことがあって当たり前」というメッセージは、あまり語られないような気がして。「そんなこと分かっているから言わないんだ」って言われるのかもしれないんですけど。でもやっぱり、語られないことはなかったことにされがちというか。震災関連のアーカイブなんか、震災直後であれば、アーカイブされているのは実際にあったことのほんの一部だっていう共通理解があったと思うんですけど、何年も経つ中でだんだん、記録にないことはなかったことと一緒にされるんじゃないかっていう恐怖があったり。あるいは、ネット検索して出てこないものは存在しない、みたいな。「語らなくてもいい」「語られないものもある」ということを伝えるのは、なかなか難しいなあと、思ったりしているんですけど。

— ぼくも震災関連のお仕事をさせてもらっていますが…「伝えよう」って騒げば騒ぐほど、伝えたいことがない、伝える必要がないと思っている人との距離ができてしまうような気がします。

伝えなくても良いし、伝えても良いし、って当たり前のことだと思うのですが…それだとイベントにはならないですよ（笑）。でも、その、そもそものところを理解していかないとダメなんじゃないか、という話をよくするのですが…ぼくはそのことが大切なことだと思っているので。

写真には写らないし、言葉にもできないこと、そこを想像する力というか、たとえばOUT IN JAPANの写真を見た時に、その背後にあるいろんなものをどれだけ想像してもらえているのかなあ、というのも考えたりします。ただ「かっこいいね」「勇気あるね」以上のものをどれだけ思ってもらえているのかなって。もちろん、あのプロジェクトとしては、そこまで思われ

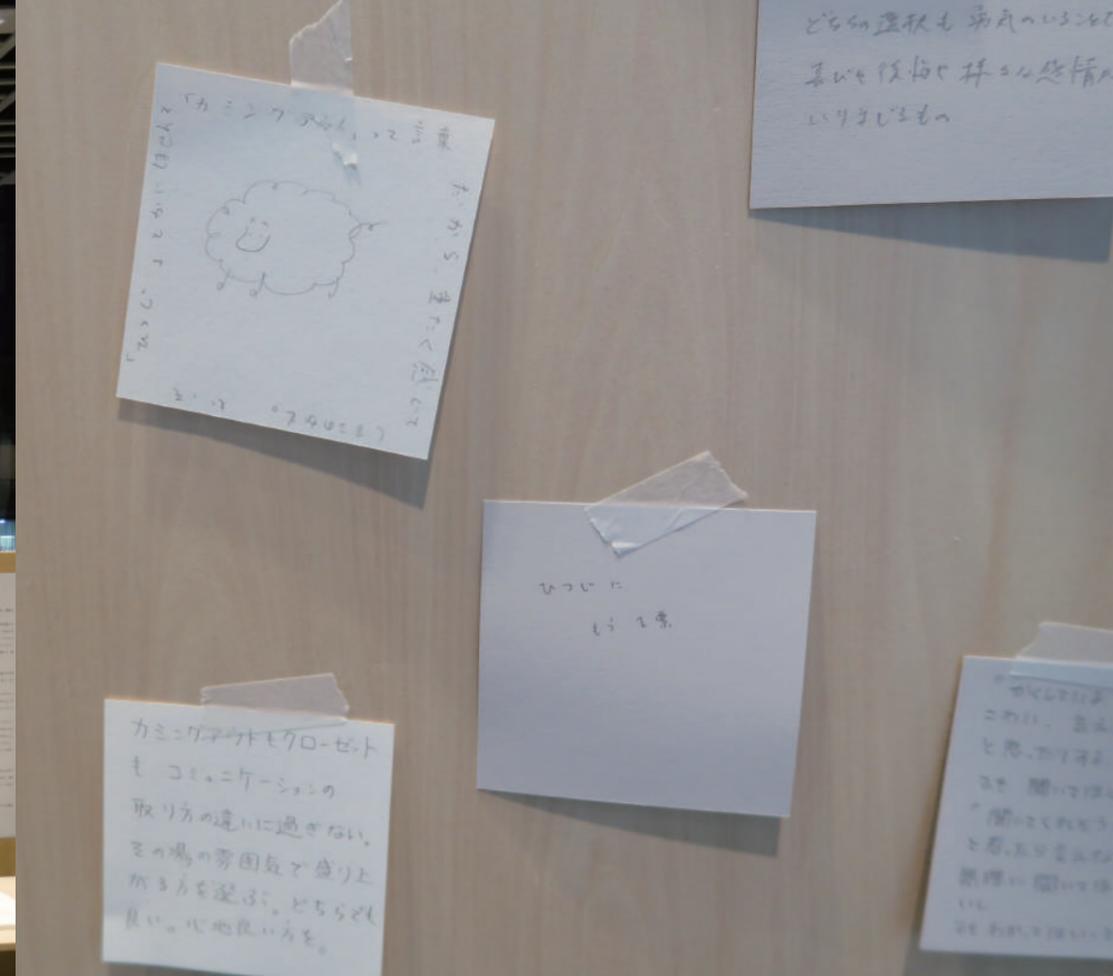
なくても良いのかもしれないですけど。

— そうですね、見えていないものが見えてくるってことがあると思うのです。「はっきり見えているわけじゃないけど、確かにある」みたいなこと…。そういう感覚ってというのは、芸術だけじゃなく、震災後のまちづくりにおいても大事なことだと思います。もちろん、詩を書いていくうえでも大事なことです。



2017年12月6日 せんだいメディアテークにて
聞き手：MEME

※4 『なまえ』は「RE:プロジェクト通信」第3号に掲載：http://sendaicf.sakura.ne.jp/sblo_files/re-project/image/E7ACAC3E58FB7E38088E4B889E69CACE5A19AE38089E382AAE383A2E38386E99DA2.pdf



「カミングアウト / クローゼット」展について

2019年1月から2月にかけて、せんだいメディアテーク7階で展覧会「カミングアウト／クローゼット」を開催しました。

「OUT IN JAPAN 東北プロジェクト」に関わった6名の人たちに行ったインタビュー（本冊子「OUTのその後」と同内容）を冊子にまとめ配布したほか、記事登場者に提供してもらったコメントや、それぞれの日常生活がかいまみえる写真を展示しました。また、来場者に「言う？言わない？～あなたにとって『カミングアウト／クローゼット』とは～」というテーマで紙片にメッセージを書いてもらい、パネルに貼ってもらうコーナーも設置しました。

期間中はのべ4,930名の来場があり、地元メディアにも取り上げられるなど、多くの方々に関心を寄せていただくことができました。

また、会期中には、関連イベントとして「言う？言わない？～『カミングアウト／クローゼット』について考える～」も開催しました（話された内容はp.49から全文掲載）。

【開催概要】

レインボーアーカイブ東北

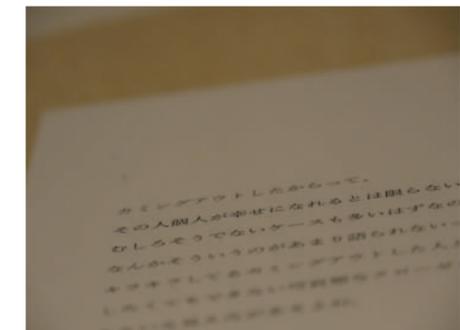
企画展示「カミングアウト／クローゼット」

会期 2019年1月12日（土） - 2月27日（水）9:00-22:00
※1月24日（木）は休館日

会場 せんだいメディアテーク7階ラウンジ

料金 無料

主催 レインボーアーカイブ東北、せんだいメディアテーク
助成 一般財団法人 地域創造



「言う？言わない？」

～あなたにとっての『カミングアウト／クローゼット』とは～ 展覧会来場者のメッセージ

展覧会期間中、来場者には付箋にメッセージを記入していただきました。本ページでは各メッセージを掲載しております。なお、原文を尊重し、表記はそのままにしてあります。

“かくしている”とバレるのがこわい。言えた方がラクだろうと思ったりする（何事によらず）でも聞いて欲しくても“聞いてくれそうもないなあ”と思ったら言えない。無理に聞いてほしいわけじゃないし。でもわかってほしいときはある。

私性については「女らしく」という事を叩き込まれたのと、「女性の体ってこんなものか」という自己の中で折り合いをつけられているという点で生きづらさを感じていません。自分の社会的生存戦略の1つだと思っています。「性的な行為（特に肉体的）はどうか」よりも「いかにして生を全うするか」について関心があるので。カミングアウトを受けたら「じゃあ、どうやって生活していくのが心地いい？」と質問したいです。

「クローゼット」って戸棚のことだと思っていたのですが、「カミングアウト」の対義語だったのですね…（恥ずかしいですw）自分はLGBT当事者ではないですが、両者をコミュニケーションの戦略として使い分けていくスタンスが、自分の障害と向き合う上で参考になりました。

母と子

セクシュアリティではないけれど、自分の特性について伝えるかどうかは、すごく考えて決めている。哀れんでほしいわけでも、何か言ってほしいわけでもなく、ただ「あ、そうなの」で流してほしいな、なんて思う。

言うことで進展することもあるけど、言わないことで、保たれる大事な関係性や時間もある。どちらの選択も勇気のいることで、喜びや後悔や様々な感情がいきまじるもの。

自分の性格を否定するのではなく、過去の出来事をカミングアウトするのが大切だと思う。人の性格は過去の楽しい出来事や辛い出来事で成り立つと思う。

せまい空間でのカミングアウトがいつしか依存になってしまわないかが心配。

損得勘定

性格的に「他人に何かを打ち明けること」にあまりためらいを覚えたことがない。特別な性指向（バイセクシュアル）疑惑はあるけど、まだ恋したことないからわからない。親しい人の死も、ほぼ経験したことがないお気楽な身分だからかもしれない。生活に困ったことないし。だったら私は「カミングアウト」する側でいたい。強制することがないように気をつけなくちゃいけないけど…。

「クローゼット」は戸棚のことだと思っていました。性的マイノリティでも国籍のマイノリティでもありませんが、セクシュアリティ、国籍を含め、自分の属性は「信用できる」か、「必要か」の場合を除いて、クローゼットです。まあ考え等、つい言ってしまうこともあります。必要もない情報を聞き出そうとする人は、警戒します。当然のリスク管理だと思っていますが、閉鎖的な人と言われることはありますね、こっちが悪いみたいな言い様はおかしいと思いますが…ね。

カミングアウトしているから、すごいし、えらいというわけでもないし、クローズしているから、かわいそうなわけでもない。でも私は、レズビアンであることをカミングアウトして、生きていきたいと思う。だって私だから。私がカミングアウトしたことで、誰かが笑顔になって、優しくなれて、元気になって、勇気をもてたらいいと思うから。

どんな異なる性や生き方があってもいいと思う。なりたいたいものになれる。誰かに決められるものではない。自分でえらび「成る」。生きてゆく

私はまだLGBTの人に会ったことがないけれど、異性愛者と何ががうのだろう。と思う。誰が誰を好きになっても良いと思う。“思う”というのは、クローゼット。誰でもこう思うとか こう感じるとか 誰かに聞いてほしいときがあると思う。私は誰かに話したい！と思う時、伝えたい！って思う時があるから、カミングアウトしたい時があるから、ただ聞いてくれるととても嬉しい。あなたにカミングアウトしてるといことは、あなたの受け入れを期待している。

70才のパパアですが、どんな人でも受け入れる事ができる。そういう人生を楽しんできました。主人は3年前に亡くなりましたが、とても自由な人で、私の行動や考えをしばったりしませんでした。すばらしい大らかな人生を生きのびてきた人です。乱筆でごめんネ。素直に生きてください。

実は ぼく デイなんだ

ずっと嘘はよくない、正直でいようと思っていたけど、傷つけたくなくて、本当のコトが言えないこともありまして。って最近まで思ってたけど、傷つけたくないより自分を守りたいが強いんだよね。そう気づいても言えないものは言えないし、これからは言わない。自己中だけでそれも受け入れたい。

カミングアウト／クローゼット →自分と相手や周囲を知るための手段。身のふり方を考える手段。自分は何者なのか。だったのか。

カミングアウトしてくれたことで確かに関係性は変わる。私の無意識の行動が“気を遣っている行動”と受け取られてしまわないかが不安だったりする。でもね、これだけは知ってほしい。「カミングアウトしてくれてありがとう。」君のその勇気が私は嬉しい。

最近、年齢や出身、職業を初対面の人に言うのが面倒になってきた。勝手に共感されたり、境界線を引かれたり。知り合う前から値踏みされている気分になる。

クローゼットすることで、いろんな自分になれる。水戸の黄門さまだって正体をクローゼットするからこそ庶民の生の声がかけるわけでしょ？

最近メディアテークに来るたびにここのみなさんのカミングアウトやクローゼットについてのいろんな事情とか考え方を知れて興味深く読んでいます。LGBTだけの問題では決していないんだな、と思います。

子持ちなのに童貞 43歳会社員

LGBTについて、サービスの面から勉強している者です。「ありのまま」でいるのが難しい、言いたいことが言えないこの世の中じゃ、カミングアウトなんて出来る訳ないですよ。生きづらいですよ。だって、日本って“察せよ”の文化が強くて、何も言わずに離れて行きますから。今後、クローゼットとカミングアウトを繰り返すLGBTの方が増えて来るのではないかと思います。LGBTの方に対して私達に出来る事は何なのか。答えは正確にはないんですが、生の声は聞いてみたいなあと思ってます。22,女

“カミングアウト”とか“クローゼット”って言葉が存在するのは、ある意味当事者の生きにくさが表れているように思う。そんな言葉が無くていいように、誰もが誰を好きになってもならなくてもいいんだ、っていう世の中になれればいいな。

女性である私の内面に、おそらく社会的には男性的ととらえられるであろう思考があり、その思考をどこで誰に対して出すか、いつも注意しています。それはまさに引き出しの開け閉めで「クローゼット」という言葉は端的な表現だと思いました。秘す時と現す時、それは誰にも当てはまる物事ではないかと。

カミングアウトもクローゼットも、コミュニケーションの取り方の違いに過ぎない。その場の雰囲気や盛り上がる方を選ぶ。どちらでも良い。心地良い方を。

誰がどう言おうと何を思うと「自分は自分」

生きていく上でのテクニックというか。セルフプロデュースというか。

言った瞬間に元女になる。純男にはなれない。私は男だから言わない。性転換者という事実は過去のこと。

若い頃はどうせわかってもらえない！と意固地になっていたけれど 今はもっとおおらかで良いのじゃないかなと思う様になってきました。

信頼している人にカミングアウトしています。半年くらい前から、ちょっとずつ ちょっとずつ この人ならいって もだいじょうぶかな？と考えながら。私がバイであることを伝えていない人が多いです。ほとんどの人には言えていないです。でも半年前から少しずつ話せる相手が増えてきて、それってつまり、信頼できるって思えるひとがふえたわけで、楽観的なのかもしれません、そこは、嬉しく思います。話をきいてくれたお友達にありがとうございます。

言いたければ言う。言いたくなければ言わない。ただそれだけのシンプルな事として考えています。「言えない」のも「言わせられる」のも違うよね。優しさを持って選択できれば。

「すべてを伝える」も「何も伝えない」も きっと同じ事。

私は“そういう場所”じゃないと今もカミングアウトはできない。この時代色々な事がわかっていって よくもわるくもオープンであったり広がっていったり…嬉しい半面怖さも感じる。身近ではLGBT という名前だけが浸透しているよう。好きな人を好きと堂々と言えるといいな。紹介してくれた友人と素敵な場所とイベントをつくってくれたヒロコさんに感謝しています。

「カミングアウト」って言葉だから重たく感じてしまうのかも。いっそ「ひつじ」とかにしません？

ひつじにもう1票

24 歳なのに出来る事1件なし 日本に留学しているのに勉強する専門 まったく趣味なし ただの暇つぶしに毎日そのまま流れていく。死にたいほど辛い。なんでも言えないし、言うなら失望させちゃって決まっている。そんな「クローゼット」嫌いだ。でも「カミングアウト」するならきっと救えはしないでしょう。

実は関西出身 言う時、言わない時 私は同じ？

ひすがはな

「普通が何だか気づけよ人間」普通は何だと自分が普通であると思える事が普通であると自分は思っているー好きな芸能人の方の言葉です。

“恥”と“同調性”「思ったことを素直に言えればなあ」。なら、言えば良いと思います。あなたのことを嫌う人は増えるけどね。どうせ嫌われたくないでしょ？

私は作家活動をしています。ある方から「どこ大学でいるの？」と聞かれ、東北にある〇〇大学と答え、隣にいる作家さんは「東京芸術大学」と答え、それだけで芸大出身の方の作品が評価された事がありました。とても悔しかったのを覚えています。出身大学がどこかなんて関係ない。作品が全てで、響く方には必ず響くと信じ、私は自分の出身大学（東北生活文化大）と堂々と答えています。

自分が何か分かれば、とても楽だが、“何か”にはなりたくない。知らないことを知って、“何があるか”を知っていきたい。

カミングアウトしてるっても 誰彼かまわず言ってるわけではないし、クローゼットも、どうしても必要な時とか、安全な場ではカムアウトする。ひとつづきの生き方の一部でこういう濃淡のある中を生きてるのだと思います。

「バイなんだ」とまだ受け入れられそうな言葉選んで、うそついでごまかしてるけど、きちんと言いたい。僕は男の人が好きです。

自分らしく生きる

正直どちらなのかわからない。女性が恐い、苦手、嫌いの方が多かった。けれど男性のことで憧れのようなものもある。結局ハッキリしないのは自分。正直カミングアウトしたい。けれどわからないからクローゼットどっちつかずのひとはどうすればいい？“これはオレにとって人生で克服したいこと”

ツラくなったら思いを言葉にして吐きだす（カミングアウトする）。それまではクローゼット（言わない）でいる。そんなあいまいさがあってもいいのではないかな、って思っています。

自分は理解して欲しい人に話すよ。家族とか友だちとか会社の人とか。家族は母と弟と姉には伝えた。「だと思った」って言われた。「キモい」って言われなかった。正直、他人にカムアして、どう思われようが知ったことじゃない。自分は自分だからw

人に言いにくいことを誰かに言えた時、安どする反面、その人に依存してしまうのではないかと少し怖くなります。秘密を共有する、対等？健全？な関係性を築くにはどうすればよいのか。むずかしいですね…

かくしているわけではないけれど、説明がめんどくさいので話さない、これってクローゼット?? FtX パンセクシュアル

トランスジェンダーの友人のカムアウトから僕のLGBT探求の旅がはじまりました。何かしなきゃ何かしなきゃと思いココに来ています。

クローゼットでありたいと強く願う。「言えない」んじゃなくて「言いたくない」。自分のことを知って欲しいとは思わない。「じゃあ黙ってればいい」それもまた違う気がして。「クローゼットだ」という事をカミングアウトする日々を送っています。あ〜しんど。

「言う」「言わない」それが自由である必要がある。言う事を強いられる、言いたいのと言えない、周囲の人や世の中にそんなプレッシャーをかけられていないだろうか。選択する為には自由でなければならない。

そっか〜「カミングアウト」ってLGBT用語じゃないんだね。よく考えると。自分は多分異性愛者だと思うけど、どうしてこんなにLGBTの人たち（人生）にひかれてしまうんだろう。

無限のマーク ∞ あの世 この世 全ての世界はゼロサム世界 99% 以上の人は理解不可也 1% 以下の人は理解可也。

うちのこも FtM です。ムスメがムスコになりました。親としてはやっぱりカミングアウトしてくれて本当に良かったです。

僕は必要最低限のカミングアウトでいいと思います。現状をこわしてまで言う必要性はないと思います。ボイの格好していると自分を見て受け入れ方によるので。

自分にとってのカミングアウト or クローゼットの選択が迫られるのって、クリスチャンであることを言うか言わないかのときだな…と展示をみて思いました。自分は敬けんでもまじめでもないのに、世の中の目がクリスチャンをそういう人だと思っていることがよくあるので、それがたまにわずらわしく思ってしまう。

なかなか外には出せていない。ずっとしまったままかもしれない。でも必要なときに必要な分だけ、小出しにできればと思います。

カミングアウトとクローゼットは、対義語ではない、と自分は思う。自認の影響も否定しきれないが、カミングアウトすごくインパクトが大きいイメージ。クローゼットか否かはあいまい。気にしてない。

カミングアウトして離れていった人もいるかもしれないけれど、それに気付かない私は恵まれているのかもしれない(大事に思っている友人は今も私の側にいます)ただ、“受け入れてもらう”のは無理だとしても(生理的にちょっと無理って人の気持ちも分かる)“LGBT は思ったよりも沢山いるよ”って知ってほしい。世間にもカムできない子達にも。

どう生きるか考える

家族が自殺したことは基本的に口にしないことにしてる。とはいえ事実を知っている人はいるので、自分が黙っていることに、どれほどの意味があるのか、分からないままにいる。カミングアウト／クローゼットの選択は一概に言えないけど、自分が“より楽”な選択をすればいいのかな

あなたにとって「カミングアウト／クローゼット」とは？ 記事登場者のコメント

展覧会期間中、会場内に展示しました。

MEME

本当に伝えたいことは、どんなに言葉を
連ねても伝わらない。

何を言っても嘘にしかならないのに、
カミングアウトなんてできるんですか？

ヒノヒロコ

カミングアウトをする人間は皆馬鹿だと思
っていました。

「理解されるはずがないのに」「性的少数
者はもっと控えめに生きるべき」「人と
違うんだから、馬鹿にされたって文句は
言えない」

レズビアンである自分自身が、ずっとそ
うやって自分のことを否定して、傷つけ
て生きてきました。

けど、芸術系の大学院に進学して、自分
よりもっと刺激的な人たちに囲まれる
中で、自然と私は女性を好きなことをカ
ミングアウトしていて、今、とても自由
に、とても楽しく生きています。

レズビアンなのに、髪を明るくして生き
ています。レズビアンなのに、肌を露出
して、毎日シャンパンを飲んで最高に楽
しく生きています。

あなたの思う、「真実の愛を貫いた清く
美しいレズビアンの女性像」ではないか
もしれません。けど、こういう同性愛者
もいるんです。

あなた達同性愛者の人にも、色んな人が
いるように、私たち同性愛者にも、色ん
な人がいます。

私が私らしく生きることで、それが少し
でもあなたに伝われば、それが私のカミ
ングアウトです。

キャシー

カミングアウトという言葉で真っ先に
思い浮かべるのは、家族や職場の人たちだ。
自分にとって近すぎる存在、または、オ
フィシャルな場での自分を知る存在には
よっぽどのがない限り、カミングア
ウトしない。

いや、できない。

カミングアウトするには覚悟と勇気が
必要だし、カミングアウトした者の責任
が伴う。

クローゼットは、辞書的には「自身のセ
クシュアリティを公にしない人または
状態を指す言葉」。

クローゼットにも程度がある。

友人たちにはセクシュアリティについて
割とオープンにしているので、そんな私
の生活を見て、とてもじゃないがクロー
ゼットには見えないと言う人もいる。

だけど、私はクローゼットだ。

誰にも言えない秘密が身体の中に埋まっ
ていて、それを掘り起こされそうになる
たび、ドキドキしながら毎日を生きてい
るから。

namihei

カミングアウトして来た事の多くを
後悔している。

何者でもありたくないのに、何かを
発信した瞬間からそれは独り歩きし
続けてしまう。

クローゼットでいた事の多くを後悔
している。

あの時に自分を開示していれば、何
かが変わったのかもしれない。

これからもカミングアウトとクロー
ゼットを繰り返す。

もう後悔しないように。

小野寺真

私にとってカミングアウトとクローゼッ
トは人生の中で切っても切り離せないこ
とです。日々カミングアウトであり、ク
ローゼットでもあります。

仕事でのお客様との会話、プライベート
での会話、どちらもです。共通するのは
相手の気持ちと私の気持ちを考えた上で
話すか話さないかを決めています。どち
らも大切な選択肢の1つです。

ただ、覚悟と決意。責任があると思っ
ています。

まあ（^^;間違える時もあるんですけど（笑）
私を支えてくれる方々がいる、自分らし
く居れる事に感謝しかありません。

この企画を通して自分の心の中にあるもの
と向き合うことができたことにも感謝いた
します。また心の財産が増えました♪

武田こうじ

言葉にできないとわかっていても
かなしみややさしさを
しまっておくことができないのは
なぜだろう

書けたものは
書けなかったものでつくりられている

答えのない問いを繰り返してきたけれど
失うことでふれることができるものがあるから

小さなひとつひとつを奏でて
あなたを訪ねる
わたしを訪ねる

展覧会関連トークイベント

「言う？言わない？～『カミングアウト／クローゼット』について考える～」記録

日時：2019年1月26日（土）14:00-16:00

会場：せんだいメディアテーク 7f スタジオ a

MEME

1980年生まれ
宮城県出身・在住
恋愛感情のない FtX バイセクシュアル

キャシー

1977年生まれ
宮城県出身・在住
セクシュアリティは MtX ノンケ男子ばかりを好きになる永遠の片思い中

MEME：みなさま、雪の降る中お集まりいただきましてありがとうございます。レインボーアーカイブ東北の代表の MEME こと女郎蜘蛛魅呀（じょうろぐもみさえ）でございます。

キャシー：キャシーといます。よろしくお願ひします。

MEME：ちょっと自己紹介的なお話をさせていただきます。私どもがレインボーアーカイブ東北のメンバーとして、活動してきた一つの集大成が今回の企画とトークイベントなんですけども。まず、えーと、さっきの MEME こと女郎蜘蛛魅呀ってなんだったのを一応、ご説明しますと、私は普段、セクシュアリティのことを、職場や家族には話していない、いわゆるクローゼットの、いわゆるセクシュアルマイノリティ当事者です。なので、こうやって人前に出るときはですね、本名であるとか、職業であるとかそういったことは伏せて、いろいろ話をしたりということをしています。で、普段は MEME という通称名を使っているんですが、こういう派手な格好をしたときは、ちょっと MEME という名前だと地味なので女郎蜘蛛魅呀という、ちょっとかっこいい、まあはい、芸名を使ったりもしています。で、キャシーも、普段はこう、セクシュアリティのことは話さないで、仕事をしたり暮らしていて、こういう活動をするときには、本名は言わなかったり、私と同じように、そういうかたちで活動しているんですけども。で、私どもがこんなハデハデしい格好（※2人はハデなカツラとメイク、セクシーなドレスで登場）をしているのはなんでかと申しますと、それも結局、人前にこうやって出てっ

ていうときに、素顔で出ると、2人とも宮城県出身、地元なので、当然、どこそこの誰々さんってバレてしまう可能性が高くなってくると。それを避けるために、素顔を隠すためにこういうハデな格好を、実はしております。なので、こいつら目立ちたがり屋、みたいに、目立ちたくてこういう格好してるのかな、とかまあ思われる向きもあるかもしれないんですけども、実際はこう、目立たないためにあえてハデな格好をしているという。そういう、なんかまあいろいろ突っ込みたいようなね、顔してる人もいますけど、一応そういうコンセプトでですね、はい。こういう格好をして、やっております。まあそもそもね、いろいろバレたくないなら人前にそもそも出てこなきゃいいんじゃないかっていうご意見もあるかと思うんですけども、そしてその通りだと思うんですけども、でもまあ私たちは私たちに、普通の平穏な生活を平穏に暮らしていくために、時には外に出て何か主張したり、そういうことも、自分たちなりの必然性があって、まあいろいろやってる中で、こう、人前に出たくないけど、出て伝えたいこともあるし、みたいないろんなちょっと、矛盾もいろいろある中で自分たちなりに、折り合いをつけて、やっていることの、一つの表れがこの変な格好っていうことでございます。はい。で、今日はですね、そもそもこの、「カミングアウト／クローゼット」という企画のきっかけとしては、OUT IN JAPAN ってまあご存じない方、ご存じある方両者いらっしゃるかと思うんですが、OUT IN JAPAN という、いわゆる LGBT、セクシュアルマイノリティの写真をプロの写真家が撮って、それを展示するという。で、そういうことによって、セクシュアルマイノリティの存在を可視化し、

カミングアウトしたい人を応援するっていうそういうプロジェクトが、東京のグッド・エイジング・エールズっていう団体が、主催して行われているんですけども。で、えーと、今現在多分、千何百人とかの写真が全国各地で撮影されて、あちこちで展示されているという、ところなんですけども、2016年の3月に、仙台でもその撮影会が実施されたんですね。で、まあカミングアウトを応援するプロジェクトということで、話題になりました。いろいろメディアに取り上げられたりもしたんですけども、まあ私たちもなりゆきですね、その撮影会に、ボランティアスタッフ等として関わる中で、被写体になって輝かしくカミングアウトした人と、それができなくて、ひっそり暮らしてるクローゼットの人みたいな、そういう単純な二項対立ではない多様さがあるよねっていうことをすごく実感したんですね。被写体になってオープンな人たちも、クローゼットな一面もあるし、クローゼットな人たちも、オープンな一面もあるっていう、こう、単純じゃないよねっていうのをすごく実感したんですね。で、その単純じゃなさっていうのを、なんかこうすくい上げて、記録して発信していきたいなという思いが強まりまして、でまあメディアテークと協働させていただいて、OUT IN JAPAN の撮影会に関わった人たちに、インタビューを行って記事をアップするっていうことを、してきました。で、まあその、インタビュー記事がですね、1記事あたり、大体1万字くらいの記事が4本という、まあ全部私が書いたんですけども、それがですね、結構過激なことも書いてあるように思うんですが、まったく反響がなくてですね。良い反響も悪い反響も全然なくてですね。多分1万字以上書くんですけども、読んでもらえないっていうね、法則があると思うんですよ、今日びね。なので1万字書くと炎上しない法則っていうのを提唱してるんですけど（会場、笑）、まあとにかくですね、世界の方に見ていただいている、せんだいメディアテークのサイトに載せていただいているにもかかわらずまったく反響がなくてですね。ちょっとあの、やはりこう、また別のかたちでも、広くみなさんに見ているいろいろ感じて考えていただきたいなあなんていう、思いから、この、集大成としての今回の展示、そしていろんな方々と、いろいろこのテーマについて掘り下げて考えていきたいということで、このトークイベントを、今日は設定いたしました。で、今日の企画はですね、私どもセクシュアルマイノリティということで、このテーマに取り組むようになったきっかけはいわゆる LGBT、セクシュアルマイノリティではあるんですけども、こう、いろいろ掘り下げて考えていく中で、そもそも自分のこと



を言うとか、言わないとか、そういうのって別にセクシュアリティに限らず、いろんなことであることだし、誰でも生きていく中で、日々、言ったり言わなかったりっていう選択を、まあ意識的だったり意識してなかったり、いろいろですけども、みんなしてるよねっていうことをやっばりすごく思うようになったんですね。なのでセクシュアルマイノリティだけの話みたいなことではなくて、広く一人ひとりに大切な事柄として、言う／言わないっていうことをみんなで考えてみたいなあという、気持ちがすごくあってこのトークイベントを設定しております。なのでまず、いろいろお話していただいたり聞いていただいたりするときには、セクシュアルマイノリティのことっていうことに全然こだわらないで、広く言う／言わないっていうことをぜひ、考えて、いろいろ発言したりお話を聞いたりしていただければと思います。はい。あと、展示（「カミングアウト／クローゼット」展）ですね、もうご覧いただいた方もまだの方もいらっしゃるかとは思いますが、今回の展示というのはあそこのスペースでやっております。もし、よろしければですね、お帰りの際にまた、ぜひご覧いただければと思いますし、こちらのインタビュー記事（本冊子 p.3～40）をまとめた冊子であるとか、あとは関連したチラシやリーフレット、冊子などのお持ち帰りコーナーもございますので、ぜひご利用いただければと思います。ちなみに、私 MEME とこのキャシーが、クローゼット座談会っていう第3号のこの記事（本冊子 p.21～32）に登場して、いろいろくっちゃべっておりますのでぜひ、ご覧いただければと思います。あと、そちらのパネルにですね、私とキャシーのメッセージとか写真も、載っておりますので。なぜかある鉄アレイの写真とかは私の写真なんですけど（会場、笑）、まあ日常を感じさせるような写真と、カミングアウト／クローゼットについて思うこと、貼ってあったりしますので、そんなことも、ご覧いただければと思います。



ちなみに、キャシーさん、あそこに結構深いメッセージを書いていただいているんですけども、ちょっとそれについて一言いただいてもいいですかね？

キャシー：えっと、そうですね。私自身も、うーん、カミングアウトっていうのいうと、クローゼット寄りにいるんですけど、自分の中でやっぱり人に聞かれない部分っていうのがあって。でもそれって多分みんな一緒だと思うんですけど、そこをこう、日常生活してる時に掘り起こさなきゃならないんですけど、こう、隠すようにしたりとか、その、自分の中にいろいろ葛藤があったりするので、みなさん、たぶんそういうことを、普段生活してても感じると思うので、今日はそういう意見とかいろいろ、意見交換できたらなって思ってます。

MEME：結構ね、こう、なんか見るからに開けっぴろげに生きてそうに見えるんですけどね、やっぱりでも、誰でも、開けっぴろげに生きてそうに見える人にも、多分大なり小なりあると思うんですよね。誰にも触れさせたくないような部分っていうのが。それを本人が意識してるか、してな

いかっていうのもまた、それはそれぞれだと思うんですけども。ちょっとまだ、読んでない方ぜひあとで、立ち寄ってキャシーのメッセージを読んでいただければと思うんですけども。そういう、なんか普遍的なところをちょっと突いた、泣けるメッセージが貼ってありますのでぜひ、穴が開くくらい見ていただければと思いますけれども。まあそんなで、実はですね、こちらに、前にあるパネルなんですけれども、こちらはさっきまであそこにあったパネルで、あと終わったらまた戻していただけるので、よろしければ、参加者の方方も帰りがけに何か書いて貼っていただければと思うんですが、これはですね、ご来場いただいた方々にですね、「あなたにとって『カミングアウト／クローゼット』とは？」ということですね、メッセージをいろいろ、書いて貼っていただいているものです。ちょっとここからですね、少し、いくつかこう見ながらちょっとね、お話しできたらと思うんですけども、かなりこちらですね、ありがたいことに、セクシュアリティに関わらないテーマでも結構書いていただいて、いろんな方々に興味持っていただいているのかなあと非常にありがたく、拝見してるんですけども。キャシーさん、どれ、印象に残りましたかね？

キャシー：あの、羊の（笑）。羊ですね。えっと、『カミングアウト』って言葉だから重たく感じてしまうのかも。いっそ『ひつじ』とかにしません？』って書いてあります（笑）。



MEME：確かにまあね、なんかカミングアウト！とかクローゼット！とか言っちゃうとなんかこう、すごい、なんか、ねえ。確かに重い感じはありますよね。なんかちょっと関連するなーと思って私が見たのがこう、『カミングアウト』とか“クローゼット”って言葉が存在するのは、ある意味当事者の生きにくさが表れているように思う。そんな言葉が無くていいように、誰もが誰を好きになってもならなくてもいいんだ、っていう世の中になればいいな。」っていうフセンがありまして、確かにカミングアウトとかクローゼットとか、線引きして何か語らないといけないっていうこと自体が不自由さがある証拠なのかなーっていうのを、結構思わせられましたね。そもそも、やっぱり何かこう、言うことに引っかけがあったりとか、言うことで不利益が生じるんじゃないかと、思われるようなことがあるからこそ、こういうことで悩むっていう大前提はやっぱりありますよね。あとは何だろう、そうですね。結構いろんなテーマで書いていただいて、学歴差別のことだったりとか、セクシュアリティに限らずいろいろ、書いていただいて。えーと、そうですね、「クローゼットすることで、いろんな自分になれる。水戸の黄門さまだって正体をクローゼットするからこそ庶民の生の声が聞けるわけでしょ？」と。はい、書いたの私ですけども（会場、笑）。いやー、まあこれ、そうですね、いきなり自分の書いたのを読んであれなんですけども、ただ、カミングアウト／クローゼットって、そういうなんか、マイナス方向から重く考えることばかりでもないのかなと思っていて。こう、水戸黄門がしょっぱなから、「いや〜ちょっと前の副将軍なんすけど」とか言ったら話終わるじゃないですか。みんな

な「はは〜」って言って庶民の生の声とか聞けなくなるじゃないですか。なんかそういう、セルフプロデュースっていうか、「越後のちりめん問屋の隠居です」って言って、身分を隠して庶民と接することで、実際に庶民が苦勞してることもかが知れるわけじゃないですか。なんかそういうセルフプロデュースみたいなポジティブな考え方を、してもいいんじゃないのかなあという気持ちも、個人的にはありますね。あと、昔のサラリーマン漫画でですね、そろばんの達人のOLが出てくる話があってですね、でもそのOLはですね、そろばんの達人であることを会社で隠してるんですよ。まあ何でかっていうと、割と昔の漫画なんで、そろばんがうまい人っていうのは経理に回されるんですよ。でも、その人は経理がやりたくないから、そろばんの達人であることを隠してるっていうそういう漫画があってですね。有名な漫画の1シーンなのでもしかしたら読んだことある人いるかもしれないですけど。なんか、そういうクローゼットもあるのかなあみたいな。だから必ずしもマイナスばかりでないクローゼットもあるし、カミングアウトのほうも、こう、言いたくないのに言われるみたいな、言わないと生きていけないみたいな、そういう辛いカミングアウトもあるし、いろいろだと思うんですね。なのでこう、みなさんもぜひいろんな視点からですね、ご意見なんか言っていただければと思うんですけども、はい。じゃあそろそろあれですかね、挙手をさせていただきますけど、とりあえず何かこう、言ってみようかなと思う方はぜひ、遠慮なく手を挙げていただければと思いますけれども。（手、拳がらない）まあいきなりはね、なかなかね、うん。まあちょっと、じゃあ私たちがつなぎますけどね、もちろん発言しなくてもいいんですけどしたかったら遠慮しないでいいですよ？ タダですからね。うん。はい、あ、どうぞどうぞどうぞどうぞ。

会場 a：えっと、今日は東京から来ました。

MEME：ありがとうございます。

会場 a：久しぶりに仙台に来たら、雪が降っていてちょっとびびってます。展示を見させていただきました。4冊全部読んだので、たぶん4万字読んだと思うのですが、一旦、もう（エネルギーを）使い果たしました（笑）。「言う？言わない？」でいうと、やっぱり言葉って難しい

なって最近すごく思っています。まず一つは、例えば、私は学生時代のときに仙台に住んでいて、震災があったときもちょうど仙台にいたので、就職で仙台を離れてからも仙台に関わることをしたいなとずっと思っているのですが、就職した会社は全然違う業種で、外に出てみたら、仙台とか震災に関わることをやりたいって言うこと自体も結構人を選んで自分がいたなって思います。というのも、本当は自分がまっすぐ向かっていきたいことなのに、「真面目なことやってる子」って言われたくないな、とかどうしてもあって。そして、仙台にお世話になっていた人たちのことをよく思い出すのに、それを言わないことを選択するって、なんかうしろめたい感じも伴ったりして、結構モヤモヤとしていたんです。人に「私はこんなことに興味があります」って自己紹介的に言うのって、簡潔な言葉にしくちゃいけないから、結構削ぎ落とされてしまうことが多くて。「私はこうこうこういう気持ちでこれに興味あります」とか、1時間喋ればその人もすごくわかってくれるかもしれないですけど、新しい環境に行くと、パッとすぐ自分の真意まで伝えるって結構難しいなと思うことがありました。もう一つは、私は、結構人の話を聞くのが好きで、特に、セクシュアルマイノリティの方のお話を聞いて考えをすごく変えさせてもらったところがあって、面白かったなって思ってたんです。ただ一方で、じゃあ自分がどれだけ言えるかなと思ったとき、環境が変わったぐらいで言えないことも増えちゃったりした。私は人の話を面白がって聞けばかりで、面白さの搾取をしてたんじゃないかと思ったこともありました。一言でいうのは難しいし、自分も、相手も、人の言葉を一言で決めつけてしまうかもしれない。でも言葉で聞くから面白っていうこともある。なんかすごく難しいなって思うことが多かったです。会社の同じ部署の人で、多分ゲイなのかなって感じの方がいて、最近、それをいじる人が周りに多くいるんですけど、飲み会とかでその人がいないときに話題になったりしているのが、私はなんとなく嫌だなって思ってたんです。とはいえ、「いや、そういうよくないです」って言うのもなんかしらけるかなと思って、なかなか言えないでいました。でも、ある時、酔った勢いで言っちゃったんです。そうしたら、その後から「あなた、そういう言う人なのね」みたいなキャラ設定をされてしまって、それもムカつくなって思っていたんです。でもこの展示を見的过程中で、もちろん人に嫌な思いをさせる発言はよくないとは思んですけども、嫌だっていうのも自由だし、例えばその人がいじるっていう行為をし

ても、その人も誰にも言えない事情とかを持ちながら生活してるわけだし、私もその人が表立って言ってる言葉ばかりつまんで、「最低だ」とか言っちゃったのって、なんかすごい申し訳なかったな、と思われました。月曜日会社に行ったら謝りたいなと思った次第です(笑)。すみません、まとまりませんが。

MEME：ありがとうございます。なんでも、セクシュアリティでも全然関係ないことでもなんでもそうですけど、何か言うと、それでこう、自分の意図とは違う解釈をされるっていうのはすごいあるのかなあって、今のお話を伺って改めて思ったんですけども。例えば、私プロレスが好きなんですけども、でもプロレスが好きって言うとか全部知ってるし、なんかプロレスの歴史とかみんな詳しくそんな気がするじゃないですか。でも私の“好き”は、年に1回くらい、仙女（センダイガールズプロレスリング）とかみちプロ（みちのくプロレス）の試合に行く程度の“好き”なんです。好きか嫌いかって二項対立で語られたら好きなんですけど、でも、一般的にプロレスが好きって言うとか、すごい詳しくそんなイメージ持たれるじゃないですか。で、それで、こう下手にいろいろ聞かれても困るし、聞かれて答えられなかったら、本当は好きじゃないんじゃないかみたいに思われそうじゃないですか。でも好きなんですけど、詳しくはないし、確かに、ねえ、好きならもっと課金しろみたいなね、金を落とすみたいなのは当然あると思うんです。でも、まあ確かにね、それもしてないし、詳しくないし、でも好きか嫌いかってどうしてもどっちかで答えろって言われたら好きなんです。でも、そういうのって、やっぱりこう伝わらないじゃないですか。プロレスが好きってこうひょいって言っちゃうと、なんかこうすごいプロレスマニアみたいなイメージに思われて、しかも、それが単に思われるだけならいいっちゃいいんですけど、いろいろこう、トラブルの原因になったりみたいなこともあったりするっていうのを考えると、だから私は、今は言いたけど、プロレスが好きだって言ったの、多分初めてです（会場、笑）。ちょっとカミングアウトしてしまいましたけれどもね、はい。多分初めてなんです。言わないんですよ私、だから、好きだって。でもこう、それを、こうやって長々と話すとか大体ある程度伝わったかと思うんですけども、例えば、これが伝聞で、「MEMEさんってプロレス好きなんだって」とか伝えられたとしたら、多分伝えられるのそだけじゃないですか。プロレス好きなんですけど、

実は年に1回試合に行くか行かないくらいで技とか全然知らない人なんだって、とか伝わらないじゃないですか。だからやっぱり、何だかんだ言っても、言ったことで、そういうふうには誤解されるのが面倒っていうのは私もすごいあって。だからプロレスが好きなのも言わないです。だからこう、セクシュアリティのことに限らず、そうやって伝わっていても、特に問題がない話なのか、とか、いろいろ、やっぱり考えて言ってるっていうのはすごいあるなあっていうのを思いました。多分、そういう話だと結構、心当たる方も多いんじゃないのかなあと、思ったりするんですけども。キャンシーさんなんかはどうですかね？



キャンシー：あ、こっちに？（笑）

MEME：なんかそういう、これ言っちゃうと面倒とか。

キャンシー：あ〜。自分の場合は、すごい、きれいな顔のイケメンさんが好きなんですけど、たとえば、そのイケメンさんの写真を、誰かに見せると、え、気持ち悪いとかって言われたりして。自分の中のイケメンの定義と、他人の定義ってやっぱり違うので、まあそういう（笑）、同じ言葉でも、言葉として、まあ、さっきおっしゃってみたいに、取り違いでないけど、そういうのがあるのかなってというのは実感します。

MEME：確かに自分の好きなものを否定されるとなんか、えーみたいのがありますよね。もちろん、それが好きか嫌いとか、その人がイケメンと思うか思わないかは個人の自由なんですけど、自分がイケメンだと思って差し出したらブサメンじゃんとか言われたら確かにちょっと傷つくよね、それね。でも別にそれは相手が悪いわけじゃないしっ

て思うと、わざわざ言わなくてもいいか、みたいな。なるほどね。まああと、よく聞くのは、例えばオタク趣味とかもなんかこう、言うときすごい誤解されたりして面倒だから言わないとか、割とそういうのいっぱいあると思うんですよ。あと、さっきそろばんの話なんかもありましたけど、あと例えば、東大出てる人が「東大出てる」って言うと、東大出てるってすごいことで普通はステイタスですけど、例えば東大出てる人が、なんか足し算間違ったりすると「東大出てるくせに」とか言われるわけじゃないですか。そういうのめんどくさくて言わないとかもあるでしょうし。まあ水戸黄門の話にも近いんですけど、そういう、だから必ずしも、差別されてるから、まあそれも逆差別って言えばそうなのかもしれないですけど、差別されてるからっていうのもありますけども、でもやっぱりそういうセルフコントロール、自分がどう思われたいかっていう、そういうコントロールでカミングアウトやクローゼットをしているっていう側面は結構あるんじゃないかなってというのが、私がこの企画をやるようになってから結構考えるようになったところです。やっぱりセクシュアルマイノリティのカミングアウトも、そういう自分のプロデュースっていう、側面も結構あつたりするのかなあと思うんですけどもね。どうでしょうね。何かそういうちょっとしたことを言って誤解された経験だったりとか、あるいは何か、言ったことで道がひらけたこととかももちろんね、あると思うんですけど。



どうしてもね、私は基本クローゼット自認が強いので、なんかクローゼット寄りの発言がどうしてもね、増えてしまうので。こう、そうでない方、全然そうでない方も発言していただいてかまいませんので、自由に発言していただく場なので。我々の意見と全然違うっていうのも全然かま

ませんので、はい。もうあの、私たちが話してる途中でもなんか言いたいこと出てきた人は、気軽に手を挙げていただいで結構です。いつでも、挙げていただければ、私のお話なんてぶった切ってマイクを回します。

逆に、キャシーさんは言ったことで道がひらけたとか、そういう、カミングアウトしてよかったこととかありますか？

キャシー：自分の場合は、家族、父親以外の家族にはカミングアウトして。カミングアウトするか、すごい迷った上でカミングアウトしたんですけど。カミングアウトして最初の頃は、やっぱり、親とかきょうだいとあまりうまくいかなかったけど、数年後に、理解してもらえたりっていう経験があって。一生言わないっていう選択肢もあったかもしれないけど、言ったことによって、家族としての絆っていうのが、まあ、もうちょっと深まったのかな？っていうのはあります。

MEME：やっぱりじゃあ、総合的に考えると今のところ、言って良かった感じですか？

キャシー：恋愛系に関しては言わないほうが良かったかなって思う（笑）。

MEME：そ、そんなデンジャラスな恋バナを、親きょうだいにしたんですか？

キャシー：あ、親きょうだいにはしてないです（笑）。親きょうだいにはしてないけど、恋愛に限っては、クローゼットのほうがよかったのかなと思います。

MEME：ん？ え？ あ、それはなんか、告白して玉砕したとかそういう話？

キャシー：自分の場合は、なんでしょう、普通に女性を好きな男性の方が好きになるので、その人にカミングアウトすると、まあ大体、気持ち悪いとか、え？何？って思われたりとかする部分があったり。あと、最近は、昔好きだった男性が結婚してから「好きだった」っていうのがすごい、マイブームです（笑）。なんでかっていうと、なんでかっていうと（笑）、その当時とかは気持ち悪いとか言われてたんですけど、大体結婚したあとに言うと、みんな、いいコメントくれたり。ああ、そうだったんだ、俺のこと好き

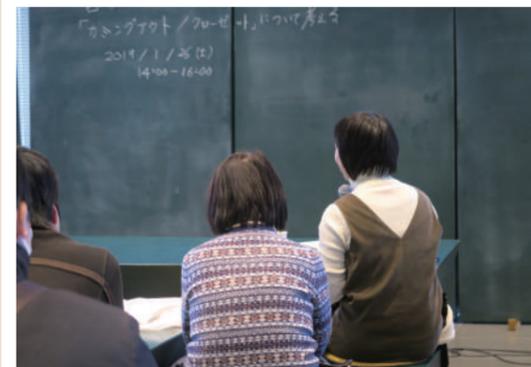
だったんだ、みたいな（笑）。なんでしょうね、結婚したっていうその、バリアみたいなものがあるのか、うん。それが最近、マイブームですね。すみません、マイブーム言っちゃいました（笑）。これと全然関係ないですね（笑）。

MEME：会場の1/3くらい敵に回したのではないのでしょうか（笑）。いや、でも、なんでしょうね、結婚するとやっぱり勝ち組の余裕が出るんですかね。あるいは結婚した相手の教育がよろしいのか。まあ、でも、確かにカミングアウトって、特にセクシュアリティに関してはよく言われることですけどやっぱり、言われた側にもまた、思うところがあったりとか、まあこれもね、よく議論になる場所ですけども。言われる側の気持ちも考える必要があるんじゃないかっていうのはよく言われるところ。ただ、それを言う側にもまた言い分があって、こう切羽詰まって言わざるを得ないような状況だったからしょうがないっていう考え、状況もあるし、あとは自分の素直な気持ちを言うことを人に妨げられることはないんじゃないか、みたいな気持ちもあったり。そもそもあの、ちょっと、若干掘り下げますが、まあ言いたくない場合は途中で止めていただいてかまわないんですけど、そもそもこう、結婚した人にカミングアウトしたっていうのは何か、それはたまたまそういうことがあって、それが結構面白かったから続ける感じですか？（会場、笑）

キャシー：たまたま、すごい好きだった人にそれを言ったら、その、「え、俺のどこが好きだったの？」とか、その、何だろう（笑）、そのあといろいろ会話が通じて、なんか好きな人と喋れるっていうのも、良かったし、あとはそのときは聞けなかった本音とか、聞けたりっていうのがあって。で、1回目が成功したんでそこから2回目成功して3回目成功して、みたいな感じで、今5回目ぐらいまでいってます（会場、笑）。

MEME：なんか、キャシーが恋多き人だということがまず、分かったわけですけども。まあ、別にこんな赤裸々な話しなくてもいいので、気軽に挙手はしていただければと思うんですけども。でも、まあそういう、全然、自分が、恋愛的性的な意味で何とも思っていない相手に、告白されるっていうのは、それをどう思うかって個人差は大きいと思うんですけど、まあ言っちゃえばかなり迷惑っていうケースが多いと思うんですよ。それは男女でも、経験ある人は結

構多いと思うんですけど。まったく何とも思っていない人に、いきなり告白されて、しかもその人が、例えば仕事関係の人だったり、学校の同級生だったり、縁を切りたくても切れない相手にいきなりそういうこと言われて、まあ困るみたいな経験は、割と男女でもある話だと思うんですけども。ただ、それでじゃあ告白しちゃいけないのかっていうとそこも議論が分かれるところだと思いますし、まあケースバイケースとしか言いようがないのかもしれないですけど、でもなんか、そうやって落ち着いている相手に特に何か求めるわけではなく昔話として言うっていうのは結構、ありかもしれないですね。結局、今、自分と付き合いとか言ったわけじゃないわけですよ。こう、奥さんはそれはそれとして、みたいな話ではなかったわけですよ。まあそのへん割と受け止めやすさはあるかもしれないですね。はい。で、そうですね、そういう、なんかこう、何か言ったことで、ちょっと人間関係気まづくなったりとか、逆に言われたことで困ったり、気まづくなったりっていうのも割とこう日常で、みなさん経験していることだったりするのかなあと思うんですけども。私たちは最近、そういうところも含めてカミングアウト／クローゼットの話だよっていうのをやっぱりすごく、この企画を通して考えるようになって、今日に至っているわけなんですけども。なんかそういう、本当に、そういうコンセプトなんです。そういうライト、ライトっていうとあれですけども、そういう、なんで、こう自分のことを言ったり言わなかったりするのかなあとか、なんでこう、逆に言われたことで負担に感じてしまったりとか、そういう気持ちが出てくるのかなあってまあ、そういう話をですね、ざっくりばらんにしていただけたらっていうところなんです、本当にあの、何かあったらいつでもいいですからね、手を挙げるのはね。私の話とかね、ぶった切っていいですからね。…あ、はい。あ、どうぞどうぞどうぞどうぞ。



会場b：はい。えっと、まず、キャシーさんが寒くないかなってちょっと心配してるんですけど。大丈夫ですか？大丈夫ですか（笑）。

キャシー：大丈夫です、大丈夫です（笑）。

会場b：今日はもう、前からここに来たいと思ってたんですけど。たまたま昨日、その、言う／言わないっていうところで、ちょっと一緒にいた人に、言ったことがあるんですね。その人の息子がなんとなくちょっと、こう、精神的に、気持ちがなっていくかな、病気になるか心配なんだけれども、そういう心療内科とかどこかに行ったほうがいいかな？っていうふうな、聞かれたので、私はその人には昨日初めて言ったんですけど、「あ、私は心療内科とか精神科、あそこそこに言ったことがあるよ」って言ったんですね。で、やっぱり心療内科とか精神科って、ちょっと、昨日言った人に対しては、私はこの人に言ってもすごい反応は起こさないと考えたから言ったけれども、やっぱり相手を見て、私は言ったなと思ったんですね。相手によっては「えー、そんなところ行ったことあるの？」ってやっぱり反応する人があるんですよ。で、昨日は「ここここに、私は行って、なんかちょっと気が楽になりました」みたいなことを言ったんですね。やっぱり言ってる自分の中で、ちょっとドキドキしたんですよ。なんでドキドキしたのかなーと思ったけど、やっぱりそういうところに行ったって本当は知られたくなかったのかなーとか、そんないろんな思いを昨日ちょっとしたばかりなんです。だけど、まあ、言ったことでその人が、「ああ、そうか、じゃあ息子に『行ってみたら？』」って言ってもいいのかな”みたいに思ってもらえたんじゃないかな、とは思ったんです。だからやっぱり私って、人を見て話をしてるし、言いたくない、この人がこういう反応するだろうから言いたくないっていうことは決して、きっと言っていないだろうな、で、これからも言わないだろうな、とか。そういうことが昨日たまたまありました。以上です（笑）。

MEME：ありがとうございます。確かにでも、相手を見てというか、相手を選んで物を言ったり言わなかったりするっていうのは誰でも大なり小なりやってることだとは思いますが、今のお話伺って、改めて思ったんですけども。それはやっぱり、こう、例えばセクシュアリティの話でも、普段からホモキモイとか公言してる人

にわざわざ言うかって、まあ、だからこそ言うっていうのもあると思いますけども、なんかめんどくさいことにしかならなそうだなあと思うと言うのを避けたりとか、まあそういうのもありますし。それこそ、ねえ、例えば、野球が嫌いとかいうことをわざわざ野球ファンに言うかっていうと…まあ私、野球が嫌いなんですけど。すみません、これもね、滅多に言わないんですよ、角が立つから。ちょっと今カミングアウトしたんですけど。私野球嫌いなんですよ。はい。嫌いなんですけど、「野球嫌い」って言うと今会場の半分くらい敵に回したと思うんですけど、いや別に好きな人をどうこうではなくて、私は好きになれないだけで、別に良いんですよ。良いんですけど、野球ファンで、「野球が好きだ」って普段から言って盛り上がってる人に、いきなり「私は野球が嫌いだ」って言うかっていうとまあ言わないですよ。そこであえて突っ返むっていうね、やり方もあるのかもしれないですけど。ただ、思うのが、それで私が「野球が嫌いだ」って言わないのは、たぶん野球好きがマジョリティだからっていうのもあると思うんです。これが逆にオタク趣味とかだと、その人が好きだってわかってても、「いやー、そんなアニメとか俺キモいわ」とか、簡単に言う人ってまあまあいるような気がするんですよ。あ、すみません、個人の実感です。はい。統計的データございませんが。でも、それこそセクシュアリティにしても、「ホモキモイ」とかは割とさらっと言われたりしますが、でも正直、異性愛が気持ち悪いって思ってる人たちがあってたくさんいるわけですよ、はっきり言ってね。男女でセックスをすることに気持ち悪さを感じる人とかはいっぱいいると思うんですけども、そういうの、なんか多数派に異議を唱えるみたいなことは言いづらいついていうのも、あるのかなあなんて思います。私もこう、ねえ、これがもしかしたら、周りに「好きだ」って言っている人が誰もいない競技とかだったらもしかしたらひょいと簡単に「あれ嫌いなんだよね」って言っちゃってたかもしれないああって、思ったりするんですよ。でももしかしたらその競技がマイナーだから黙ってファンをやっている人も、実はその中にいて傷ついたりしてるかもしれないなあとか。でもこう、まあ何が言いたいかっていうと野球が嫌いなんですけど（会場、笑）。なんかそういう気遣いついていうんですかね、要するに自分の素直な気持ちを伝えることに特に問題はないはずだし、別にただ嫌いなだけで野球という競技を潰せとか、そういうことを思う気はまったくない、だから言っても良いっちゃ良いんですけど、かといって嫌

いっていう気持ちをわざわざ今ここで素直に表明するのみたいな、まあ言つといてなんですけど、すみません、こういうね、こういう場だから言ってる、普段は言わないんですけどね。まあそういう判断、^{そんたく}付度？そういうのは誰でも大なり小なりあるんじゃないのかなあなんて、ちょっと今のお話聞いて思ったりしたわけなんですけど。どうですかね、キャシーさん。

キャシー：どうですか（笑）。そろそろ、そろそろ会場に…

MEME：まあ、どうですかね、本当に遠慮なく手挙げていただいて結構です。はい。話ぶった切っていたいて構いませんので。あ、はい、どうぞどうぞどうぞどうぞ。

会場 c：はい。ちょっと話戻しちゃうんですけど、えーと、カミングアウトされるというか、そのところで、この人ならってたぶん、言う側も選んでるんですけども、実は、もしかしたら言われたいと思ってる人も、いるかなっていうところがあって。私は HIV のボランティアをしてるんですけど、他のボランティアの人とかの中で、「HIV の人と知り合いたいんだけど、言ってもらえないんだよね、周りから」っていうふうな話をしてたりすることがあって、でもそういうことを公に言っちゃう人だと、たぶん伝えにくいのはやっぱりあるんじゃないかと思います。なんていうかな、「自分に問題があるのかもしれないけど」みたいな感じで言われると逆に、ちょっと難しいんですけど、その、言われたいと思ってる人と、言いたいと思ってる人がうまく出会うかどうかのタイミングとかもあって。あと、セクシュアルマイノリティの人と知り合いたいと思ってる、ストレートの人たちも結構いるんだけど、知り合いたいと思う、思いが強すぎると、なんですかね、いわゆる腐女子みたいな感じで、言いやすいタイプの理解者なのか、興味本位なのか分からなくなっちゃうってところとかはあって。なので、実はなんか、言う／言わないの、相手のことを思って言うとかってこともありますけど、言われるにはどうしたらいいのかみたいなのところも、あるかなあというのをちょっと、さきほどのお話を聞いてて思いました。

MEME：ありがとうございます。言われ力というか、聞き力というか、確かにそれはありますね。“私偏見とか何もないし、全然言ってもらって構わないのに”ってアピールを盛んにしてる人に言いやすいかっていうとそうではな

かったりもしますし。確かに、困ってたらいつでも言っつね、みたいに善意で思っつ、そういうアピールをするっていうのはすごく善意の行動だと思っつんですけど、ただ、それがでも、実は興味本位的な気持ちが強いついていうのが透けて見えちゃうとかえっつて言いにくくなつたり、本当に善意なんだとしても、自分の気持ちとうまくマッチングしてない感じがやっつぱり、ほの見えるとやっつぱり言いづらかつたりとか、そういうのはすごい、あるような気がしますね。あ、どうぞどうぞ。

会場 d：私逆にもすごく性格的に口が軽いつて周りから思われてるんですけど（会場、笑）。申し訳ないけど私の友人はたぶんみんな「口が軽い人」って思っつるぐらい口が軽いです。なんですけど、よくカミングアウト的な話を周りからされることがあっつて。どうしてこの口の軽い私に話してくれるのか、ある意味どこかで、私から、私の口からぼろつと誰かにこう、なんというか、発してほしいというか、漏れてほしいっていう望みがあつたりもするのかなっていう。私がうっかりまた話してしま…うっかりじゃなくてなんかいろいろ考えたつもりなんだけれどもどういうわけかこう漏れてしまったみたいなこととかもあつたりして、でも、もう、そもそもこの口が軽いつて周知されてる私に対して話してくれるっていうことはそういうことなのかなって最近割り切るようになってきてしまったんですけども（笑）、ごめんなさい、みたいな。クローゼットの人たちの前で、これ言うか言うまいかってちょっと思っつたけどまた言っつちゃつたつとところがたぶん、私がつ持っつていたくないってところで、軽かつたんだなつて今思っつながら話してるんですけど、どうでしょうみなさん（笑）。

MEME：ありがとうございます。なんか今の発言がまさにカミングアウトだなあと思っつながら、聞いてたりしたんですけど。確かにやっつぱり、人つて単純じゃなくて、たぶん本当にそういう戦略もつて、あえて口が軽い人に言う人もいると思っつるんですよ。この人は言つたら口止めしても絶対喋るつてわかつた上で、「言わないでね」つて言っつてその人から伝わると。で、そうすることで、人のせいにつできる。まあちょっと、これまで実際に今の方にお話を、カミングアウトをした方々の気持ちはわからないですけど、一般論的な話で、そういうことで人のせいにして、間接的にカミングアウトをするつていう戦略つていうのは、個人の生存戦略で、ある話だと思っつるんですよ。もちろん、

教科書的な原則論を言うつと、アウトティングつて、今結構、使われるようになってきたのでご存じの方も多し言葉かなあと思っつるんですが、人の秘密を勝手に暴露することをアウトティングつて言っつて、非常に問題になつてるんですけども、確かに、まあダメなんですけど、ただ、そういう単純一様でない人のあり方つていうのは確かにありますね。うん。でも、秘密を漏らしちゃ、ダメ、ゼツタイ！（笑）。ということで一応締めておきますね。そういうことでね、はい。でもまあただ、人と人との人間関係の中で、やっつぱり結局その人とその人の話なので、そこに、教科書的な絶対的な正解が 100 パーセントあるかっつていうつと、それは、非常に一般的なマナーだつたりとか、ルールはあるにしても、最終的にはもうその人とその人の話なので、そこはやっつぱり、第三者が勝手に正解を押し付けることもまたできないのかなあつていうのは、すごく思っつるところです。だから今、例えば研修、LGBT 絡みでも、正しい付き合いつ方を教えてあげますみたいなのが多しですけども、それはそれで大事なことだつとは思っつるんですけども、ただ、まあ LGBT だつたり男だつたり女だつたり日本人だつたり、東北人だつたりとか、そんな、いろんな属性の前に一人ひとりが別々の、違っつ人なので、なんか教科書に、女はこう扱つとけば喜ぶつて書いてあつたからこう扱つたとかそういうのは、ダメ、ゼツタイつていう（会場、笑）。だからね、そういうことはやっつぱりちょっと意識しないとあつていう。自分が向き合つてる人の気持ちをちゃんと考えるつていうのは大事なかなあなんていうのを今ね、ちょっと思っつたりしまつたけども。どうですか。はい、どうぞどうぞどうぞ、えーと（複数人が挙手）、じゃあちょっと早かつた白いセーター着てる方のほうに最初に。お願いします。

会場 e：アウトティングに関して最近思っつたことがあるんですけど。私地元に住んでるんですけど、地元の仲良くしてる友達で、「結婚したよ」つて LINE で報告もらつて、「結婚おめでとつう」つて言っつてごはん会とかもやつたのに、別の友達にスーパーとかで会つたときに「なんとかちゃん結婚したんだつて」つて言つたよつて、言つた話をその友達にしたら、「え、なんで言っつちゃつたの？」つて言われて。籍まで入れて一緒に住んで結婚して地元のスーパーで会うかもしれないのに、言っつちゃダメだつたの？つてすごい最近思っつたことがあつて、アウトティングだつたのかなつて、ちょっと反省したことがあつました（笑）。以上です。

MEME：隣の方。

会場 f：ちょっと違う、あの、さっき MEME さんが、属性で決めつけちゃうみたいなことをおっしゃったんですけど、なんか、うーん、さっきセクシュアルマイノリティの人と会いたいみたいな話が出てたと思うんですけど、それもどうなんだろうって思っただけ。セクシュアルマイノリティの人連れてきたよ、みたいなことを言われると、もうなんか、自分がそれになってしまうというか。たぶんおそらくどんなセクシュアリティの人も、セクシュアリティ以外でもいろんなアイデンティティがあって、でも、なんか最近よく報道とかでも「LGBT 男性の誰々さん」みたいな、謎の言い回しが使われることとかもあるんですけど。なんていうのかな。私は、男性とも女性ともお付き合いとかをすることがあるんですけど、セクシュアルマイノリティの集まりに行くと、なんか、すごいその、まず自分の属性があって、みたいな感じになってしまっただけ。例えば普段クローゼットにしている方とかも、そこで自分のセクシュアリティをオープンにして話したからといって、それがその、ありのままの自分、というか、それがじゃあ本当の自分なのか、っていうとそれはそれで違うのかなと思うこともあって。こんな仕事をして、こんな趣味があって、ここ出身でとか、こういう友人関係でとか、そういういろんなアイデンティティがある中で、「レズビアンの誰々さん」とか、あるいは「トランスジェンダーの誰々さん」みたいな感じになると…例えば私は、ゲイの人と話していると、「え、じゃあ仙台のレズビアンはどうなの？」みたいなことを聞かれることがあったり、あと、「どんな女の子がタイプなの？」みたいなことを、ゲイの方に限らずセクシュアルマイノリティの集まりで聞かれることがあったり、なんかその、逆にセクマイ縛り、みたいになってしまうなあって感じることもあって。私自身は、恋愛って自分の中ではそんなに、大事じゃない部分というか、四六時中女の尻を追っかけ回してるわけでもないし（笑）。セクシュアリティ、それはそれで自分の一面だと思うし嘘を言ってるわけではないんですけど、でも、それ以外にも私もいろいろ趣味とかあるんだけど、とか、特にセクシュアリティのことは言っていない友達というほうが、自然な自分だなと感じることもあったりとか、さっき職場だと、なかなか言いたいことを言えないとか、本当の自分が伝わらないみたいなことをおっしゃってる方もいらっしゃったんですけど、その場その場でやっぱり違う自分がいて、でも別になんか、そのどれ

かが偽りの自分かという、そういうばかりでもないのかなあと思ったり。一個の、自分のアイデンティティの一面を押し出すと、なんか逆に他のものがかすんでしまうというか。ないがしろになってしまうみたいなことも。すみません、まとまらないんですけど、そんなことを思ったりしました。

MEME：ありがとうございます。結構、「ああ、あるある」みたいに思われた方も多いお2人のご発言だったと思うんですけど、まず、そもそもこのテーマを一般的に、セクシュアルマイノリティに限らず、一般的な話としてみんなに関わる話として話したいなあと思った一つの背景として、プライバシー意識の高まりっていうのがあるんですね、実は。今すごいプライバシーを気にするようになってるじゃないですか。ちょっと一定年齢以上の人だと分かると思うんですけど、昔、雑誌とかに交通しましょうみたいな欄があって思いっきり住所とか載ってたんですね。ちょっとすみません、ここで頷くかどうかで年がバレるのであまりこう（会場、笑）、バレたくない人は微動だにしないようにしていただいたほうが、良いかと思うんですけど、はい。普通に『りぼん』の欄外とかに、住所とか載ってて。で、漫画家さんとか作家さんとかも普通に奥付に住所とか載ってて、だからファンが押しつけてきてみたいなのは昔はよくあったらしいんですけど。そんな時代、それ、ねえ、そこから 20、30 年ぐらいしか経ってないんですけど、今本当にプライバシーを気にするじゃないですか。で、そういう、結婚、しかも法律婚して、一緒に暮らして 2 人で歩き回ったりしてることも、言っちゃいけないプライバシーなのかっていうと、かなりこう…でもそう思ってる人は確かにいる、そういう状況はあると思うですよ。アウトィングにしても、同性カップルが付き合ってることを言ったらアウトィングになるとして、じゃあなんで男女のカップルが付き合ってることを人に言ったらアウトィングにならないのかっていう。あとやっぱり、その 2 人の関係が、まあ例えば男女で考えるとして、その 2 人の関係が、ただの恋人同士なのか、事実婚なのか法律婚なのかとかで扱いは変えるべきなのかとか、結構、今すごい複雑になってて人それぞれの考えがだいぶ違うようになっているのかなあとは、思うんですね。で、その一方でインスタとかで、私生活ダダ垂れ流しみたいな。バレたくないのかバレたいのか、まあたぶん、プライバシー！ってなった一方で、でも自分のことを知って見てほしいみたいな、そういう両方の

気持ちがあるって、それぞれの折り合いのつけ方があるのかなあとは思いますが。ただなんか、そこまで隠さなきゃいけないレベルになるとちょっと、人の話をすることがもう難しくなるよね、ぐらゐの状況も出てきてるのかなっていう。だから、いわゆるセクシュアルマイノリティじゃない人たちについても、例えば彼氏や彼女がいるっていうことを、むしろ隠したいとか結婚してることも隠したいとか、そういう人は、やっぱり、今多いし、実際結婚してることをバラされて怒るみたいなケースは結構増えてるのかなあなんて、ちょっとね、思ったりはしますけどもね。どうでしょうね。いや、まあでもね、ちょっとこれも過渡期だからまだ、みんなで模索してるのかなあとは思いますが。あと、次の方がおっしゃっていた、何か目立つ属性を言っちゃうと、例えば「レズビアンのかささん」とか思われて面倒っていうのも結構、確かにあるなあと思いつつながら伺ってたんですけど。自分の中の一部でしかないのにその役割を押し付けられるというか、特に、「レズビアンの知り合いがあなたしかいないの」みたいな人だと、こっちがレズビアン代表みたいになっちゃって、レズビアンの総意をなんか、いきなり語らないといけない立場に追い込まれるとか。いや、ねえ、「じゃああなたは異性愛男性代表なのか」とか「世界の数十億人の異性愛男性を代表できるのかあなたは」みたいな、そういうふうになんかちょっと返したくなるわけですけど、やっぱり、「それ面倒」っていうのはすごいですよね。やっぱりそういう、「東大出てるとかささん」とか、「プロレスが嫌いなのかかささん」とか、そういうのをめんどくさいなあっていう、まあそれも結構ね、聞いていただいている方も多いので、結構あるあるのかなあと思ったりするんですけど。どうですかね？ 拳手は本当ご遠慮なく、話ぶった切ってかまいませんのでね。どうでしょう？ キャシーさんなんかどうですかね？

キャシー：さっきおっしゃった話で、ちょっと頷けるなっていうのがあって。いろんな多面的な、その人のアイデンティティがあって、職場とか、いろんな場所で、それぞれ違った自分も本当の自分っていうふうにおっしゃってたんですけど。まあ、合コンとか行って（笑）

MEME：合コン行くの？

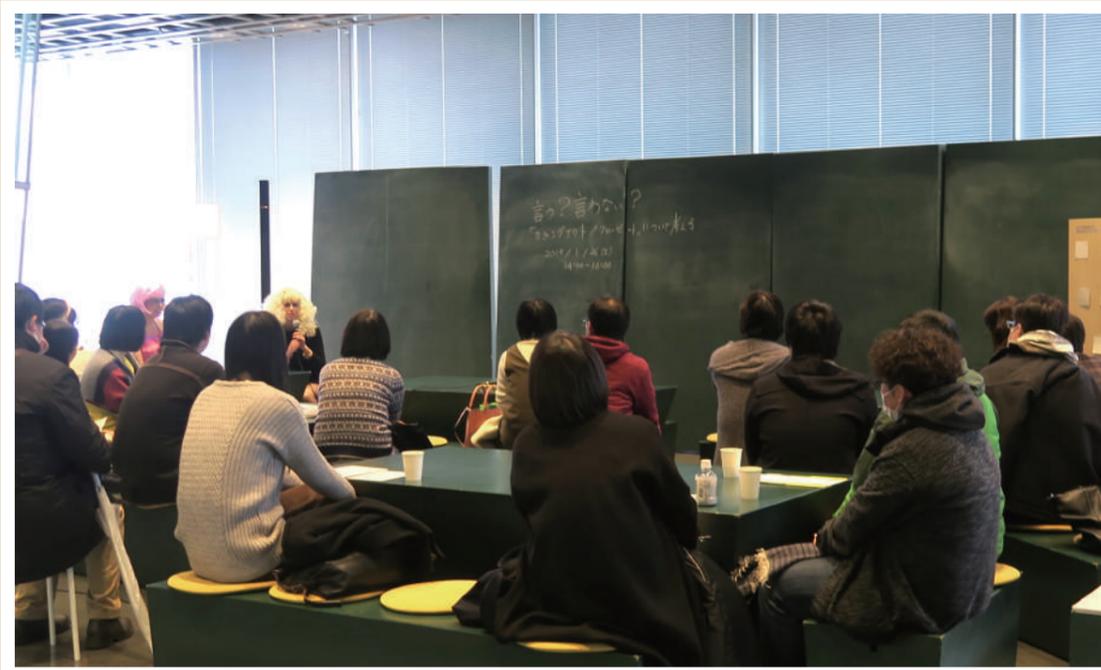
キャシー：いや、行ったとして（笑）、自分はゲイです

て、まあ LGBT っていう言葉がすごく、今一般的にはなってきたて、でも、自分はその中に当てはまらないセクシュアリティなんですけど、もうめんどくさいからゲイって言っちゃおうとか、そういう部分があって、で、ゲイって言うてしまうと、その、何だろうな、自己紹介のときに、いちばん印象に残った言葉っていうのを通してその人を見ちゃったりするっていうのが結構あるんですね。まあいろんなもの、例えば「イケメンが好きで、かわいいものが好きで、で、実はゲイなんです」って言った場合、たぶんゲイっていう言葉がドキッて来ると思うんですよ。その色眼鏡、それを通していろいろ見てしまったりっていう。自分も、セクシュアリティに限ったことじゃなくて、誰かに何か告白されたときに、それがたぶん…あの、よく、視力検査するときとか眼鏡つくるときにこう、いろいろ入れるんですけどみなさん知ってますか？ 知らないです？ 眼鏡かけてない人は知らないですか？（笑）。

MEME：レンズ取り替える？

キャシー：レンズ取り替える感じで、例えばいちばん最初にゲイっていうのがあって、次にいろんなのがあって、そのゲイを通して見ちゃうっていうところもあったりするので、そこは自分も気をつけたいなっていうのをちょっと、お話を聞いていて思いました。

MEME：確かにね。でもイケメン好きでかわいいもの好きでゲイだったらなんか、私的にはイケメン好きがいちばん印象に残りますけどね。まあそれは人それぞれかと思えます。でも確かにそうなんです。さっき、長く話せば分かってもらえるけど、ちょっとパツと言っただけでは、一言で言っただけでは伝わらなくて、みたいなお話もありましたけど、長く話せば分かってもらえるかっていうと、最初の印象的なところだけが刷り込まれて後半聞いてないとか、私が頑張って書いた 1 万字の記事も、読んでもらえないとか、あと、そうですね、最近ですとニュースの記事なんかも、見出しだけ読んで本文読まないで、でも、見出ししか読んでないのに何か分かった気になって、騒ぐ人とかね。そういう、なんでしょう、伝えるっていうのは、単にこう自分なりに言えば伝わるものではなくて、まあ極端な話、例えば日本語分かんない人に日本語でいくら言っても伝わらないわけじゃないですか。でも日本語分かる人同士で喋ってても、やっぱり、なんでこんなに言ってるの



に伝わらないだろうみたいな、もどかしさとか歯がゆさを覚えることもあったりしますし。セクシュアリティのことも、例えば今ちょっと、実は複雑なんだけど、めんどくさいからとりあえずゲイ、ざっくりゲイって言うみたいなね、話もありましたけど、私も近いものはあって。男性で男が好きっていう人でも、単純に言うとなんか実はもっと深いいろいろがあるっていうのは多いと思うんですよね。女性で男性が好きの人でも男性で女性が好きの人でも、単純にその一言で済ませては伝わらないものっていうのはたくさんあると思うんですけど、結局、ね、まあ将来的にはなんか、脳と脳をつないでピーッと気持ちを伝えるとか、もしかしたらできるのかもしれないですけど、それはそれでなんかうっとうしい気はしますけどね。ただまあ現状そうではない中で、そうやって、伝えるぞー！って頑張っても伝わらないっていう。例えば、セクシュアリティ関係で私だと、男とも女とも付き合ったことがあるみたいに軽い感じで言うと、まあ流されるんですよ。本気に取られないっていうか。実際に、本当に一緒に暮らしている同性のパートナーとか連れてきて「この人と一緒に暮らしてるんだ」とか言うと、「あ〜」とかなるのかもしれないですけど、こう、割と軽い流れの中でそういう話をしても、ただの冗談で流される感じで終わるとか、結構そういう、頑張って言っても相手がその通り取ってくれるとは

限らないよなあみたいなものもありますよね。どうですかね、あの、本当、拳手無料ですのね。はい。あ、どうぞどうぞ。

会場 a: プロレスの話聞いて思い出したのが、私、文学部だったんですけど、で、まあ本も普通に読むの好きなんですけど、会社で「趣味は？」って聞かれて「本読むのです」って言うのと「文学少女なんだね」みたいな、なんか、インドア派みたいにイメージつけられて。でも実際はずっと体育会やってたから、そうじゃないところもあるし。でも、かと言って文学部の中で「本読みます」って言うのと、「カミュとか読むの？」とか「この名作読んだことあるの？」とか、すごいコアなこと聞かれてめんどくさかったなっていうのもあって。なんかそういう、その中にいても、めんどくさいときもあるし、外にいても勝手にラベリングされるときもあるし、そういうめんどくささがあるなっていうのを思いました。あと、誰に言うかって、やっぱり選んでるなっていう話、他の方もされてたのを聞いて、やっぱりその人との関係性、っていうのが、言う／言わないにすごい関わってくるんだなっていうのを、改めて思って。確かに、あ、口軽そうだなって、思う人でも、でも、この人だったら言っていていい、言ってみたいっていうこともあるかもしれないし、逆に、すごい近い人、例えば家族みたいに、まあ普通に近い人でも、やっぱり言えないなって思うとき

もあるし、なんていうかな、そしてその言える度合いって時によって変わってくるし。まあ個人的にはそこは、でもやっぱり、自分の心の準備ができるまで、無理したくないなって思うけれども、とはいえ、言わなきゃいけない空気になって言わなきゃっていうときもあるしで、なんかそこからへの折り合いのつけ方って、確かにみなさんどうしてるのかなってちょっと、思ったりしました。

MEME: ありがとうございます。ねえ、まあ、そうなんですよ。そういう、例えばコアな趣味とかを、そうでない人たちに話したらそれはそれで面倒だし、コアなサークルで言うと面倒じゃないかっていうと、さらにコアな話をされてさらに面倒みたいな。結局、セクシュアルマイノリティも、ずっと1人で悩んでた人が、そういう当事者のコミュニティに行くと、救われるに違いないみたいな感じで、^{すが} 紐のような感じで行ったりすることもありますけど、でもそこも別に、何もかも解決できる素晴らしい世界でも何でもないし、一般社会と同じようにめんどくさい人間がいるだけなので、そこでこう、自分のすべて、それこそ、セクシュアリティに特化した集まりだったりすると、他の自分の属性が、必ずしも受け入れられるとは限らないし、でも、受け入れられると思った相手に受け入れられないと辛かったりとか。でも、なんでしょね、受け入れる側も、“いや、これは受け入れられるけどこれはちょっと重いかな”みたいなものもあったり、結構いろいろだとは思いますが、どうでしょう？ あの、拳手無料ですのね。何度でも強調しますけれども。あ、どうぞ、はい。

会場 g: えっと、いろんな話を興味深く聞いていて、まず、言う／言わないっていう今日の大きなテーマで聞いてて、ちょっと長くなったら申し訳ないんですが、ぼくもいろんな人といろんな話をする機会が多い中で、まあ例えばですけど、自分は離婚をしたいとか、離婚をどうしたらできるのかなっていう相談を、毎日のように受けるんですね。本当に毎日のように受けるんです。で、ぼくは、自分もしてるのもあるんだけど、そういう人たちと話していると、逆に離婚してない人っているのかな？って思うぐらい、世の中ってみんな離婚してるんじゃないかなって、正直こう、錯覚してくるんですね。それとやっぱり、さきほども出ましたけども、ちょっとメンタルを病んでいて、メンタルクリニックに通ったり、それから、通ったあとに、お医者さんに言われたことをすごい気にしたりっていう人も、これ

もほぼ毎日のように、メールとか電話が来るんですね。そうすると、やっぱり、そういうところに通ってない人のほうが少ないような、錯覚をします。で、さらにそこから、例えばDVだったりとか、あの、自分がそういう相談を受けてるって自慢だと思わずに聞いてほしいんですけど、さっき、話しやすい人と話しにくい人、みたいなのがあったときに、でも、そういうのにこう、自惚れちゃいけないとは思いますが、なんでみんなそういうふうに言ってくれるんだらうって思うことはやっぱり多いんですね。それはやっぱり自分が、そういうことを放つとけないっていうか、どこか大事に思ってるっていうのが伝わるから、なのかなあと思うんですけど、やっぱりそういう人たちが、普段多い中で、当たり前だと思ってこう、ぼつと外に一步出ると、やっぱりみんな当たり前前に暮らしていたり、そういったことに触れる機会がないから、やっぱりすごい驚かれて、そういう話を聞かれるんですね。そうやってやっぱりコミュニケーションの問題として、成り立つ／成り立たないの共通の土台が違っていると、そこはもうどうしたってなかなか噛み合わないし、そういうふうにして色眼鏡で見ないでほしいっていてもそれはなかなか難しいかなあと、やっぱり思うんですね。だからといって同じ痛みを持つて人たちだけが集まっていれば、解決になるかっていうとそれもそうではないと思うし、そのへんがやっぱりこう、まあ言うか言わないかから始まっていくところの一つの難しさかなあと思います。だから、言ったにしろ言わないにしろ、ただ話聞くと本当に難しく、やっぱりどうしても自分の考えをそこに言いたかったり、それから他の人の話をそれだけ聞いてると、「いや、この間聞いた人はこういう例があったよ」とか、やっぱりどうしてもこう、返したくなるんですね。1回目はもうただ聞く、っていうのはすごい難しく、でも、今度ただ聞いてると、「ただ聞いてるだけでは解決にならないじゃないか」っていうことも言われてくる。で、そうすると次の段階で、じゃあ、おせっかいっていうか、次何か言ってあげなきゃいけないってなると、やっぱりそこは、すごい、難しいなあっていうのが、思うことなんですね。ただ聞くことの難しさと、“ただ聞いてた”からの次の段階の難しさが絶対あるのかなあっていう気がします。で、ぼくはカミングアウトするとかってわけじゃないんですけど、(会場で) 展示もされてるんですが、仕事を詩人として、詩を書く仕事をしてるんですね。で、詩人もなかなかのマイノリティで、まあやっぱりこう、例えば小学校なんかに行って詩のことを教えるなんていう

と、職員室に子供たちが来て、「詩人ってどういう人なの？」みたいな、で、「ああ、俺だよ」って言うと、「なんか、おじいちゃん来ると思ってたのに」みたいな（笑）、ことをすごい言われたりするんですね。どういうイメージ持ってるの？ってすごい思うんだけど。で、そこでiPadとか使ったりすると、「iPad使うんですね」とか、どれだけ前の時代の人だと思ってるんだろうみたいなことがやっぱりあるんです。で、ちょっとこう、あえてみんなにふっかけるように聞こえたら申し訳ないんだけど、みなさん詩人ってやっぱりイメージ持つと思うんですよ。例えば日本でいちばん有名な詩人っていうと谷川俊太郎さんみたいな方がいますよね。そうするとどうしても、彼をベーシックに詩人っていう仕事って位置付けられていくと思うんです。ぼくももちろんすごいリスペクトしてるし、彼みたいな詩を書きたいってどっかでは思ってますけども、やっぱり彼と比べるとすごい分が悪いんですね。彼のように仕事できたらそれは嬉しいけれども、でもやっぱり、そこでムキになって、「彼とは違うんだ」とかこう、言うチャンスってなかなかないわけですね。だからそういったようなことも、それは差別だとは全然思わないんだけど、やっぱりもしかしたらこういう、カミングアウト／クローゼットも誰か引き受けるようなアイコンが出てきて、でもそのアイコンに対してはみんな違うものだと思うてる。自分はそうじゃないんだっていうグラデーションがある。でも、そういう軸はやっぱりどうしてもないと、なかなかその、いろんなものがぶれちゃうのかなあっていうのは、今日聞いてもちょっと思ったし、でもそれを誰かに、例えば谷川さんだって「俺はそんな引き受けるつもりないよ」ってこう、言う可能性があると思うし、でもなんかどっかで、そういうものに触れてくっていうのは、なんか、ちょっとの覚悟が必要になってしまふのかなあっていうのは、ちょっと聞いてて、やっぱり思ったりもしました。だから、ただ聞くことと、まあ聞くほうも言うほうも次の段階に行くときの勇気というか、そういうのの難しさっていうのは、どうしてもどんな話にも、ついて回るのかなあっていう気がしますね。で、例えば小学校の職場体験とか、児童館とか、幼稚園なんかに行っても、「詩人です」って言うと次に来る質問が、「どうやって暮らしてるんですか？」とか、「収入はいくらですか？」って（笑）、必ずどんな子供たちも聞くんですね。で、それこそそんなのカミングアウトしていいのかなって思いつつも、「君たちのお年玉ぐらいただよ」ってしか言いようがないんですけど（笑）。でもやっぱりこう、「それ興

味持つのなんでなの？ 不謹慎だよ」って言うのはなかなかちょっと難しく、それはまあ興味あるだろうなと、思ってしまうところがありますね。でもやっぱり、もちろん答えたくない、逆にじゃあ銀行員だとか公務員だって言った人に、すぐにその、給料のね、質問をするかというね、そんなこと言ったら逆に怒られると思うんですけど、そのへんって、なんか無邪気な故に気づかないような落とし穴がいるんなところにあるのかなあってのは、ちょっとこう普段、感じたりもします。と、もう一つはだからやっぱりさっき言った、次にアクセスするときにしていいのかどうかのジャッジの難しさね。例えばMEMEさんが野球嫌いだと。で、ぼくは野球すごい好きだから、MEMEさんと仲良くしたいから野球好きになってほしいなって思っているのかなってというのはどのコミュニケーションにもあると思うんですよ。で、それはやっぱり絶対嫌だと。もう、嫌だからそういうことをおせっかいだと思ふ人もいれば、まあそこまで言うならちょっとその話聞いてみようかなと思う人もいると思うし、でもそれが、んー、なんかこう、大変な時代にはなっちゃったのかなと。気遣いする意味では。ちょっとこう、そこの、ただ聞くのと、次の段階のその、そういう部分の差ってどこにあるのかなあっていうのは、みんなの話を聞いてて、ちょっと思いました。すみません、長くなりましたが。はい。

MEME：ありがとうございます。野球には誘わないでください(会場、笑)。まあそれは置いておいて、今のお話何って私が思ったのはやっぱりこう、誰かに言ったとして、それで相手に何を求めて言ってるのかっていうのは、結構自覚的な場合と自覚的でない場合があると思うんですね。自覚的かつその要求が簡単なら、まあ話早いと思うんですけども、ただ、言う側も、自分がそれを言ったことで相手にどうしてほしいのかっていうのを、分からないまま言って、で、お互いどうしたらいいか分からないみたいなのは結構、考えてみるとあるのかなあっていう。まあセクマイのカミングアウトについても、ただ流れで言っただけの話だったり、とりあえず知ってだけおいてっていう話なのか、それともこう、例えばもっと現実的な話で、同性の恋人と一緒に暮らしてるから、私に何かあったらこの人に連絡してねっていうそういう実務的な話なのか、それとももっと重い、私のすべてを受け入れろみたいな、そういう重い話として言っているのか、私と付き合ってくれてという話で言っているのかとか、まあいろいろだと思うんですけど、

やっぱりなかなか、自分が相手に何を求めて言うかについて、改めて考えてみると、自覚しながら話をしてるつもりではいてもたぶん自分でわかってない自分の気持ちもあって、そういうのがなんか、あとあとで浮かび上がってきたときに、ちょっと揉めたりもするのかなあなんていう、ちょっとそういうの難しさあるなあなんていうのを、今伺っていて思ったりはしましたが。はい。あ、どうぞ、はい。

会場h：えっと、あの、カミングアウトしても、そのあと反応がなく、えーと、反応がなくというのは、なかったことのようにされて、何も変わらないということはよくあってですね、で、なかなかその、場の同調圧力というか、そのまんまでありたいみたいな、変わりたくないみたいなものって、とてもあるんだなあと思ったりですね。かと思えば、例えば二丁目（※新宿二丁目。東京にあるゲイタウンとして有名なエリア）では噂は光速より早く伝わる（笑）、そういうものがあってですね、二丁目という村の中では、あの、二丁目というのは、まあゲイタウンなわけですが、えっと、まあ村の中では、何か言うそれはもうみんなに伝わるのが前提だ、みたいな、そういう社会があちこちに残っている現代なわけですよ。で、そうじゃなくて、私とあなたの関係でどうこうっていうことに、まだ慣れてる人が本当少ないんだなあ。で、カミングアウトっていうときに、これこれこういうことを、あなたに分かってほしいっていうのが、まあ自分でも自覚的になかなかできないし、そのときに充分なコミュニケーションにならないっていうこともあるわけだけど、でも、あなたと私の関係なら、この次もあるわけだから、だんだんその関係を変えていく、みたいなことが、やりやすいはずなんですよ。1対1だからね。で、えっと、まあ私はもうフルオープンカミングアウトを（笑）、していて、男性と一緒に住みますっていうことを、いつも、新聞とかにも書いてもらったりとかしてるんですけども、まあこれは、この日本というか、宮城、仙台あたりに、異質なものをぼんと投げ込みたいという、どっちかという村の中で、みたいなニュアンスがあるんですけども、でも、もっと生活の中で、したいっていうのは、個人と個人、私とあなたのもののほうが大切なあというふうにも思ったりとかします。はい、すみません。

MEME：ありがとうございます。そうなんですよ。特

にセクシュアルマイノリティの話とかでも、カミングアウトは1回では終わらないよねっていうのはすごく、よく言われることで、さっきのキャシーの話でもありましたが、例えば家族に、こう勇気を出してカミングアウトして言ったからって、その1回で済むかっていうと、だいたいそうではなくて、最初はまあ例えば「え〜」っていう反応が来たりとか、「え〜」じゃないとしてもなんか「急に言われてピンと来ない」だったりとか、最初からいきなり、1回言って、それで用が済むかっていうとそんなことはなくて、繰り返し対話を重ねていく中で、なんとなくお互い見えてくるものがあって、そういう中でこう、だから、「一生カミングアウトだ」みたいだね、言う人もいたりしますが、一言のカミングアウトで、それで劇的に関係が変わることもあれば、そうではなく、それが一つのきっかけになってあとはこう、お互いの、まあ特にそういう長期的な関係であればお互いの関係の中で、いろいろお互い探って、コミュニケーション取り合っていくみたいに、なることも多いかと思いますし。あとやっぱり、言ってもスルーされるっていうのはよくありますね、確かにね。何か、例えば10人いて私以外全員野球好きみたいなところで私が野球嫌って言っても一瞬空気固まるけど、何事もなかったかのように流されるとかあると思うんですよ。例えばね。やっぱり、そういうのはね、ありますよね。まあ、例えばその場で逆にじゃあ、その9人が野球の良さを集団で説得してくるとかなったらそれはそれで面倒だし、それなら流されたほうがマシと思ったりも個人的にはしたりはするわけですけど、まあ、どういうふうにするかとコミュニケーションを流していくのがいいかっていうのはそれもまた、そのときそのときだとは思いますが、結構、ねえ、そのへんも難しいなあとは思ったりはしますね。あとはどうですかね、拳手無料です。あ、どうぞどうぞどうぞどうぞ。

会場l：えっと、さきほど発言されてた方の意見ですごい共感したのがあるんですけど。代表的な人物がベーシックになってしまうパターンと、あとは当事者間にいるから共感し合えるっていうことに関して自分もすごい実感したことがあって。自分自身が、セクシュアリティの面で、FtMっていう、女から男に性別移行する人を表すんですけど、実際1ヵ月前に性別適合手術を受けてきて。で、セクマイって呼ばれる人たちのオフ会っていうのがあったときに、カミングアウトをしたって言うと、「苦労したでしょう？」とか、「親に反対された？」とか、そういうことを

だいたい聞かれるんですけど、自分自身はまったく苦勞なく来てるんですね。親に言っても、「じゃあどうしたいの?」、で、「手術したい」って言うと、「じゃあ自分が好きなようにやったらいいじゃん」で終わったんですよ。友達に関しても、小学生から、「まあ男だなこいつはって思った」とかで。日常生活でも、まったく治療してないときに女性のトイレに入ったとき、知らないおばさんからちょっと「男性のトイレ अच्छだよ」って言われたりとか、そのぐらいの程度のことだったんですけど。それでもやっぱり、社会的にLGBT報道されるようになってきてから、さらに、カミングアウトすると、“苦勞した”っていうフィルターで見られることが多いなって感じて。やっぱりその、オフ会で同じような境遇ってられるような人たちと会っても、結局は苦勞話で終わってしまったりとか。講演会に行っても、苦勞話で終わってしまっって、じゃあその次どういうふうに乗り越えていったのかとか、あとは、例えば言い出し方、カミングアウトの言い出し方だったりとか、そういうプラスになる方向に行くような話っていうのはなかなか聞く機会がなくて、結構そこが、当事者としての疑問でもあります。今回、カミングアウト／クローゼットについて考えるっていうことで、クローゼットについて考えるっていう機会が実際なかったんで、すごく興味を持って今回来たんですけど。当事者間でも意外と、フィルターで見たりとか偏見っていうのは存在しているのかなって思います。私自身は、宮城出身で宮城在住で、田舎に住んでいるんですけど、よくそう言うと、やっぱり同じように、「田舎だとカミングアウトしづらいでしょう?」とか、「理解者が少ないでしょう?」って言われるんですけど、仕事上の関係の人たちには一応カミングアウトをしていて、その方たちは、もう保険証をすぐ男に変えていただけたりとか、あとは、会社以外でも、カミングアウトした際には、例えば歯医者の方で知り合いがいた場合は、その診察書をすぐに男に変えてくれたりだとか。田舎でも意外と、しっかり対応してくれるところは多いんですけど、そういう話を聞く機会がないんで、高校生だったり中学生だったときの自分は、不安でしかなかったんですね。でもそういう話を当事者から、今、自分は22歳なんですけど、今後、高校生とか中学生とかに伝えていったら、さらに勇気になることとかもあるだろうし、やっぱりまだまだ伝えられてない部分があるなと感じてるんで、今後また、相談とか受けた際には、こういう人たちがいたよっていう話以前に、もっとこういうやり方があるよとか、ポジティブな方向に考え

られるような話し方っていうのも重要なかなっていうのを、みなさんの話を聞いてちょっと感じました。以上です。

MEME：ありがとうございます。確かに、今すごいLGBTって報道される中で、報道に出てくるなんかこう、一側面を切り取ったイメージを当事者も内面化しちゃってるのも結構あるのかなっていうのは、確かにあるなあっていうのを今伺って思いましたね。で、「田舎だから生きづらいでしょ?」みたいなのも、都会だってねえ、都会にもいろんな人いるし田舎にもいろんな人がいるし、やっぱり決めつけられて、俺の地元をディスるな的なのをね、思うこともあったり。まあ東北だったり、いわゆる被災地だったりも結構一括りで語られがちなことあったりして、例えばこう、東北からちょっとどっかよそに行くとなんか、「東北出身? 大変だったでしょ?」みたいな、でも「いや、東北も広いんで」みたいなそういう経験をした人ももしかしたら、例えばなんですけどいるのかもしれないですけども、そういう、ね、やっぱり、報道されてたりすることはごく一部なんだっていうことを頭では分かっているつもりでも、でもやっぱりなんかそれが、いつのまにか刷り込まれてたりっていうこともあったりするのかなあなんていうのも、思ったりもしますね。私たちも結局クローゼットだクローゼットだ言いながらこうやって人前に派手な格好して出てきているわけで、それが矛盾だって言われることもあるんですけど。おかしいっていう。クローゼットだっって言いながら、意見を外に出てきて言ったりとかするのはおかしいっていう、それはクローゼットじゃないだろうみたいにする人もいるんですけど。でも、フセンでも、「クローゼットであることをカミングアウトする」っていうことを書いていただいていた人がいましたが、私自身も、クローゼットだっってあえて人前に出て主張するっていうのは矛盾だっっていうのはわかってるんですけども、あえてその矛盾を、まあ、矛盾であることもわかりつつ、やっぱりそういう、いろんな人がいるんだよっていうのを伝えていきたいなあっていう気持ちはあったりしますね。どうですかね、拳手無料ですので、あと、はい。あ、はい、どうぞどうぞ。えっと、じゃあちょっと早かったあちらの方から。

会場 j：えーと、ちょっと、話すの苦手なんでメモを見ながら喋るんですけど、えっと、なんかこれまでの話と全然関係ないんですけど、今、クラスメイトで女性の、好きな子がいるんですけど、なんかその子のことだとか、わが

ままとか言ったりしても、しょうがないなあって全部やってあげたり、なんかこう、なんていうんでしょう、映画とか行くにしても、すごいデートだデートだっって、私がすごい一人で舞い上がったりしてたりするんですけど、その子にも、一緒にならずっといられると思って、告白したいなとかも思ったんですけど、すごい、私は学校ではもう普通に、なんか、普通の女子みたいな感じで振る舞ってるんで、カミングアウトすらもう誰にもしてないんですよ。で、その一緒にいる女性っていうか女の子も、絶対ノンケの子で、昔彼氏いたとかなんとか、ちらちら会話の断片で聞いたりするんですよ。で、まあ一緒にいるとすごいもう、ドキドキするっていうかもうかわいいかわいとしか思えなくなったりしたりして、もう自分で考えてもぐるぐるぐるぐる思考が回ってるような感じでもう、自分で考えてもどうしようもないと思って、ちょっと相談しようと思ったんですけど、ちょっと、お願いします(笑)。

MEME：えーと。まず、ここにいる2人は、恋愛に縁がない! だからそんなことを聞かれても困る!(会場、笑)。というのがまあ正直な回答なので、さっきの話聞いてなかったですか? この人(キャシーさん)ね、めっちゃくちゃこうね、片思いキングですよ片思いキング、この人ね。明らかに聞く相手間違ってますね、これね。あの、ちなみに私もですね、冊子とかその展示にプロフィール書いてあるからね、読んでいただくとわかりますけどね、私恋愛感情がない人間なんです。えーと、アロマンティックっていう、

会場 g:(会場 j が)ごめんなさいって言ってるよ(会場、笑)。

MEME：アロマンティックと最近ね、専門用語でいうんですけど、性的なものはあっても、恋愛感情はないという人間が私でございます。だからね、相談する相手がね、もっとも相談するのにふさわしくない2人でございますので。ごめんね～。こんな大人でね～。あの、恋愛の達人っぽい人なんか近くにいるみたいだからあとでじっくり話聞いてみて(会場、笑)、うん。

会場 g：すみません、調子に乗って(笑)。でもこれは、どんな状態でもドキドキしますよね。うん。ぼくだっってドキドキしてますから、普段(笑)。あの、こういうのはどうなんですか? バレンタインみたいなそういう、いわゆ

るメジャーなので、そういうので装ってアプローチするみたいなのは。こう、なんていうんだろう、ちょっとこう、ごめんね変な言い方で、いざっていうときの保険が効きやすいんじゃないかなっていう感じで、今ほらこう、同性間でもそういうチョコのやりとりあるとか言うから。

MEME：普通に友チョコっすね。

会場 g：に、こうちょっとなんかプラスできるみたいなのでは、どうですか?

MEME：あとよかったら終わってからちょっとじっくり話聞いてあげてください、はい。以上!(会場、笑)。で、次、はい、なんか手挙げてた方、手挙げて、はいはい。

会場 k：あの、カミングアウト／クローゼットで、言う／言わないって話を聞いたときに、まず思い浮かべたのが、よその地方でセクシュアルマイノリティの集まりがあって出たときに、どこでも言うか、誰にも黙ってるか、っていうことじゃなくて、場面場面を選んで、この場では言うし、この場では言わないとか、選んでいくのを、ゾーイングっていう言葉だったような気がするんですけども、そういう考え方を聞いて、カミングアウトすると、全世界に言うってことで、クローゼットっていうと、心に秘めて絶対誰にも言わない、ってことではないんだなあと、思ったことを思い出したんですけども。それから、私、乳がんなんですけど、最近、遠い地方でお世話になった人が、がんで亡くなったって聞いて、えー知らなかった、私と同じ病気だったのかなあ、と思って泊まりがけでお通夜とお葬式出てきたんですけど、喪主の方が、病気でってことでがんで言葉も言わないし、部位も言わないし、私は平気で乳がんだって結構人に言ってるんですけども、まあ、故人の意思で周りに知られないようにしてたのかな、と思ったりとか、あとそれから、亡くなった喪主の方が、「子供の縁で知り合っって」って、再婚同士であることは公言していたりとか、そういうことがあって。どういう場で何を言って何を言わないかは、本当に人によって価値観さまざまで、選ぶんだなあというふうに思ったんですけども。で、今思ってるのは、言うと言わないは、同じ価値のことなのかなあ、とか、あと、カミングアウト／クローゼット、いろんなことに関して、言う／言わない、それぞれ全部違うことなのか、それともセクシュアルマイノリティとか、セクシュアリティ

とかジェンダーに関することは、特別な意味を持つのかなあとか、そういうことについて、いろいろ今考えていました。

MEME:ありがとうございます。確かに病気のこととかね、いろんなこと、あとそういう家族関係のこととか、言ったり言わなかったりの選択っていうのをみんな、自分なりに考えてやって、全世界に発信するか誰にも言わないかの二択ではなく、ほとんどの人はその間でいろんなことをね、伝えてるよねっていうのをちょっと今、改めて伺って思ったんですけども、あと、はい、はい。どうぞ。

会場 h:あの、カミングアウトとクローゼットの間はたくさん、あるということ。なんか私はずっとね、その、クローゼットっていう上にいろんなカミングアウトが積み重なるっていうふうに思ってたんですけど、さっきの恋愛の話ね、してくださったけど、クローゼットにも層があるんだなって、何かちょっと思いました。というのは、秘すれば花っていう(笑)、えっと、まあそんな開けっぴろげに好きだとか言わない、ね、そういう美意識ってあるじゃないですか。好きだって、そういうふうに告白するっていうのだけが、まあ恋愛というかね、そうじゃなくて、好きっていう気持ちを大事にしたいっていうところで、あえて言わないという選択も、あるんだなあというふうに。で、クローゼットっていうときに、蓋をして言わないっていうのと、そうやって、何か、今の自分を大切にするために言わない。恋愛でよくあるのは、この、なんか微妙な関係。で、微妙で、でもあったかい関係。これを大事にするためには、言っちゃうとなんかそれが壊れてしまうんじゃないかってね、そういう恐れがあるじゃないですか。なので、言わない、告白しないから不幸っていうことでもないわけだよ。そう思うと、クローゼットの中でも、自分の気持ちでいろいろと、“言えない”じゃなくて言わないで大事にするみたいなものも、あるんだなあっていうふうに、なんかちょっと思いました。はい、ありがとうございます。

MEME:ありがとうございます。じゃあ、片思いキングキャシーから一言(会場、笑)。

キャシー:さっきの方の、今ばっさり切っちゃったんですけど、アドバイス、片思いキングとしてのアドバイスをちょっと(笑)。自分の場合はやっぱり、ノンケの方を好きだったので、例えば5人の友達に感謝の手紙書くとして、

その中に好きな人がいたら、他の友達は1枚、手紙(笑)。だけど、その人には、3枚書いたりとか、見えないところのアピールはしました。

MEME:手紙見せ合わないと分かんない? それ。

キャシー:いやだから「そこで読まないでね」って言ったり(笑)。

MEME:そうじゃなくてさ、自分だけ3枚だったってさ、ほかの4人と見せ合わないと分かんない? それ。

キャシー:いや、その人にだけ3枚にして他はみんな1枚ずつっていう。

MEME:だからその事実をどうやって知るの? その人。

キャシー:あ、その人知らないけど、自分の一方的な思いは伝えられたっていう、自己満足の世界(笑)。あと、本当に恋愛になると、喧嘩して別れたりとかすると思うんですけど、友達は、そう簡単には別れません(笑)。なので、“あ、彼女と付き合ったな”“彼氏できたんだな”と思ったら、“あ、まあたぶんもうちょっとしたら別れるだろうな”っていうぐらいの、上から目線で見てたほうがいいと思います。

MEME:ありがとうございます(笑)。強い!強い!確かに。格言。今日の格言。恋人はすぐ別れるが友達はそうそう別れない。格言(会場、笑)。まあ、はい、そんなこんな、特に恋愛絡みは、ちょっと恋愛感情がない私が言うのも何ですけど、恋愛感情は、特に、言ったら相手はどう思うかっていう相手の反応をものすごく気にするジャンルかもしれないですね、確かに。はい。で、というわけですね、まあ、まとめて一つの結論を出す場ではないということで、このとっちらかった話をずっとしてきたわけなんですけども、でも本当に、いろんな方のご意見もいただいて、で、あの、発言されない方も結構頷きながら聞いていただいていろいろ、それぞれ思うことが、あったんじゃないかなあなんて思うんですけども。実はですね、こんな話をしてるうちにもうお時間がね、来てしまったんですね。なので、もし最後にですね、どうしても何か言いたって人は最後に、1名挙手受け付けますけども、ありますか? ああはい、じゃあどうぞどうぞどうぞ。

会場 l:はい。えーすみません。今回、私こういうイベントに来るの自体が初めてで、何で興味を持ったかっていうと、最近、カミングアウトをした方が、してない方に対して割とその、マウントを取ってくるような(笑)、ことがあったりしますよね。で、ただその、確かにカミングアウトされた方の勇気とか、そういったものには本当に敬意を表するんですけども、その陰には今まで、日常の中でいろんな挫折とかつらい思いをした方とかもいらしたんじゃないかっていうふうに思っていて、で、どうも今までのいろんな議論を見ると、そういった方に対する、なんていうか配慮みたいなものももうちょっとあってもいいんじゃないか、とか。たぶん、その、圧倒的に多数とは言わないですけども、どちらかというかと黙って、今まで耐えたりとか、自分のできる範囲でいろんなことを小さく頑張ってた方とかがいっちゃうわけで。今回冊子を最初に、展示のほうで読ませていただいて、座談会のほう、読ませていただいたときに、クローゼットにもクローゼットのちゃんとした理由があるっていうこと、そういう視点、すごく斬新というか、改めて聞く新鮮だなと思いました。で、本当にこういった機会、今回私自身も、とても学ぶことが本当に多かったです。仕事でちょっと実は、総務関係を担当してまして、普通に、日常的に、例えば本来は、知る必要のない、社員の方のプライベートな部分っていうのを随分、聞いてしまう機会が多いんですね。私自身もそんなに、なんていうか、多数派ではない人間だったのが何の因果か、そういった仕事に就いてしまって。で、まあ結局その普通の方、例えばマジョリティだと思っても、本当にその方も多種多様なですね。いろんな人がいる。本当に、絵に描いたような、型通りの人生、なんていうか、安定した人生を築てる方もいれば、その中でいろんなつらいことがあったりとか、抱えて生きてる方とかもいらっしゃるわけで。今回、クローゼット、カミングアウトっていう部分の切り口ですけども、そういうところで、いろんな人、普通と言っても普通もいろんな人がいるっていうところの想像力を自分なりに…他人を変えようと思っても、自分しか私的にはちょっと変えられないと思っているので…私だけでもちょっと、いろんな想像力を働かせて、ありえないとか、そういったことを思って人を判断したりとか、そういったことを本当にしないように、自戒も含めてなんですけれども、やっていこうと思いました。いろんな、みなさんが本当に、その立場で頑張ってるっていうのが本当に、よくわかります。確かに二律背反というか、矛盾はしてるんですけども、その矛盾を抱えてみんな、生きていってるところもあると思うので、本当に今回こういう機会があって、ありがたいなって思いました。本当にありがとうございました。

MEME:ありがとうございました。こう、もう締めのとめをやっていた感じ(会場、笑)。で、まあもちろん、今日発言されなかった方のほうが多いですけども、いわばクローゼット・スタンスという、感じのご参加の方々のほうが多かったんですけども、それも、でもこう、それぞれのスタンスで、いろいろ聞いたり話したりして、いろいろ考えていただいたのは本当にうれしいです。はい。もう締めていい感じですかね、時間的に。はい。じゃあちょっとね、会場の都合もあるようですので、本日は本当にありがとうございました。はい(会場、拍手)。

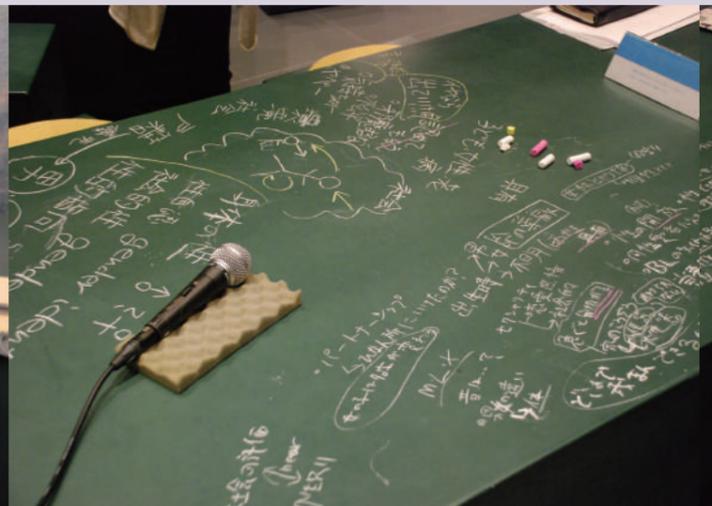
キャシー:ありがとうございます。



「問われていない人」の声により添う 「レインボーアーカイブ東北」の試みに思う

西村高宏 (てつがくカフェ@せんだい)

福井大学学術研究院医学系部門准教授。専門は臨床哲学。〈対話〉という営みをとおして、哲学的な知の社会的接続の可能性を問い直すことが現在の主な研究テーマ。仙台では市民団体「てつがくカフェ@せんだい」の主宰として、せんだいメディアテークと協働で「てつがくカフェ」を2010年から現在まで実施。2013～2014年にかけて、レインボーアーカイブ東北の協力のもと、「震災とセクシュアリティ」というテーマでてつがくカフェを開催。



無批判に他人の意見や大きな見解に乗っかるのではなく、他者との対話をとおしてそれぞれの考え方の違いを丁寧にたどり直し、そこからあらためて際立ってくる自身の価値観や思考の具合をメンテナンスしていく。さまざまな割り切れない思いや苦しみを当面のあいだやり過ごすために、ときに支配的な価値観や問題意識へと収束しがちな災害という非日常的な状況のなかにあっては、とくに自分自身の価値観や思考の強度が試されるがゆえに、それらを選行的に問い直す哲学的な対話の場が欠かせない。

そういった背景から、東日本大震災発災後の2011年6月より、せんだいメディアテークと連携し、被災地内外で

生じている震災に関連した個々の問題点を当事者が感じている違和感をもとに濃やかに探り出し、それらについて根本的に吟味する場（「考えるテーブル てつがくカフェ」）を拓いてきた。この試みは今もなお継続されており、そのなかで、これまでに数え切れないほどの被災者の声や言い淀みに触れてきた。なかでも、発災から2年後に開催した第21回目の「てつがくカフェ 震災を問いつけること」（2013年5月6日）においてある参加者から発せられた次のような発言を忘れることができない。

「これまで、被災地や避難所でのセクシュアルマイノリティがどのような状況であったかということについては、ほとんどと

言っていないほど問われてきたことはなかったように思います。そもそも問われていない人が、私たちのようにまだまだたくさんいるのではないのでしょうか。

主催者の一人としてその場に居合わせたわたしは、この「問われていない人」という表現自体からも十分に読み取れる、発言者自身が被災地で経験してこられた過酷な状況はもとより、セクシュアルマイノリティの方々が震災という非日常的な状況のなかで、避難所のトイレや風呂などを利用する際にいちいち直面していた困難さや、さらには、これまでは〈公〉にせずにおれた自身のセクシュアリティに関する立ち位置が、震災によるコミュニティの崩壊にともない予期せぬかたちで〈公〉になってしまうのではないかとといった恐怖に密かに苦しみ続けておられた事実にもっとも思いが及んでおらず、激しく動揺した。

そういった背景から、レインボーアーカイブ東北、性と人権ネットワーク ESTO、♀×♀お茶っこ飲み会・仙台などの関連する団体の後ろ盾をいただきながら、「震災とセクシュアリティ」を切り口とした「てつがくカフェ」を、幅広く一般の参加者もまじえながら、しかも、せんだいメディアテークという〈公〉の場で6回にわたって開催することになる。

しかし、「震災とセクシュアリティ」に関する哲学対話を重ねれば重ねるほど、それが明確な言葉や思考の遣り取りにまで至らないある種のもどかしさ、曖昧さ、独特の居心地の悪さを覚えた。そして、しばらく考えた後、その居心地の悪さの根っこが、どうやら先ほどの発言にもあった「問われていない人」という表現から読み取れる複数の意味に由来するものなのではないか、と思に至る。

セクシュアルマイノリティという「問われていない人」。被災地でこのような状況が生じていた背景には、自らのつくりあげた規範（norm）や価値観をいっさい疑わず、それどころかその規範からあぶれてしまうような生き方を abnormal なものとして関心の埒外に一気に追い遣ってしまうマジョリティ側の無頓着さ、ぞんざいさが関わっていることは間違いない。そういった意味でなら、たしかにこのマジョリティ側の粗略さを糾弾し、「問われていない人」としての自らの存在を「問われるべき存在」として社会の只中に明示し（明確に声をあげ）、凝り固まったマジョリティ側の規範を脱臼させるべく社会に対して徹底的に抗っていく姿勢を採ることはきわめて重要なことと言える。

しかしながら、厄介なことに、この「問われていない人」という表現にはそれとは別の意味が深く込められて在ることに、「てつがくカフェ」の後半にまで来てやっと気づか

されることになる。すなわちそこには、自分自身の考えにおいて、あえて「問われていない人」というあり方を選択したまま生きていたい（このまま問われずにいたい）という願いのような心持が潜んでいたのである。

厳密に言えば、「震災とセクシュアリティ」に関連した「てつがくカフェ」の参加者のうちには、社会から明確に「問われるべき存在」になる前に（逆に言えば、明確に社会を問い質す存在になる前に）、まずは、自分自身のうちでしっかりと自身の生き方やセクシュアリティに関わる事柄を整理し、吟味したいと考える人たちが少なからずおられた、ということである。そのような参加者が発する声は、社会に、あるいは特定の他者へと向けられていないがゆえに明確な宛先をもたず、あてどなく会場をさまよう。それは、自身の立ち位置を明確にせずに（カミングアウトせずに）、セクシュアリティに対して、まさに自分自身の中でそれをどのように落とし込んでいくかを〈公〉の場を経由してひたすら問い直し続ける内省的な声のようにも聞こえた。そして、その声がいつそうさまよっているかのように感じられた背景には、おそらく、その宛先のない「問われていない人」の声をはたしてどう受け止めたらよいか、その声をそれとしてありのままに聴きいれるための能力が受け手（マジョリティ）の側にも欠けていたからに他ならない。

セクシュアリティを切り口にシリーズで開催した「てつがくカフェ」の際に毎回感じていたあのもどかさや居心地の悪さは、おそらく、そういった参加者のあてどなくさまよういくつもの声に触れ続けていたからなのではないか。そして、ここにこそ、「てつがくカフェ」と「レインボーアーカイブ東北」との活動のあり方の違いを見定めることができる。

「てつがくカフェ（哲学対話）」は、他者との対話をとおして各々の考え方や価値観の違いを論理的に際立たせていくとする意図が強く働いているためか、期せずしてそういった自らを「問われるべき存在」として全面に差し出すことに躊躇する声までも強引に〈公〉の場に引きずり出してしまふ暴力的な側面がある。なぜなら、そもそも自分自身の考えや立ち位置を選しくしていくためには、必然的に、自分との差異を際立たせてくれる明確な他者（宛先）の存在を必要とするからである。

それに対して、「レインボーアーカイブ東北」は自らの立ち位置に戸惑い、宛先の定まらない声にも耳をそばだて、



マジョリティ側の価値観や評価基準とは別の流れのなかでたゆたう生き方それ自体をも肯定的に捉えようとする。そこには、あいまいさを許容し、不確かなものを投げ出さない忍耐強さがある。

カミングアウトしようがしまいが、あるいはマイノリティであろうがなかろうが、セクシュアリティに関する宛先の定まらない声を、そういった二分法的な考え方やそれ自体良いか悪いかの価値判断さえも棚上げにして、その戸惑いそのまま受け容れる。だからこそそこには、さまよう声を自分たちの都合の良いように回収し、さらにそれをなんらかの主義・主張にまで強引に纏め上げてしまうことがないようにセーブする、注意深さや謙虚さがある。大事な態度だと思う。被災地において、何よりもまず自分自身の立ち位置や考え方を際立たせることばかりに気を取られてきた「てつがくカフェ」の活動を、これほどまでに問い直させる活動はないのではないか。これからも、被災地で継続的に行なっている「てつがくカフェ」の活動の重要な参照軸として、「レインボーアーカイブ東北」の試みを気にかけて続けたい。

レインボーアーカイブ東北

宮城県仙台市を拠点にレズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーなど多様な性のありかたに関わる活動をしている4団体「東北HIVコミュニケーションズ」「やろっこ」「Anego」「♀×♀お茶っこ飲み会・仙台」が中心となって2013年6月に設立された、多様な性の当事者たちの生の声を集積・記録・発信する団体です。「3がつ11にちをわすれないためにセンター」に参加し、多様な性の当事者たちの東日本大震災体験手記の集積・発信を行うなど、可視化されていない地方の当事者の存在を広くアピールすることで、違いを認めあい尊重しあう、より生きやすい社会をめざし活動しています。2016年度から、せんだいメディアテークが行う「メディアスタディーズ」のプロジェクトとして活動しています。

※レインボー（虹）は多様な性のあり方の象徴として世界各地で用いられています。

レインボーアーカイブ東北 活動年表

<主な活動実績>

「対話の可能性」関連特集

せんだいメディアテーク映像音響ライブラリー特集展示作品選定協力
2013.10.25 - 2013.11.27（会場：せんだいメディアテーク）
多様な性のあり方をテーマにした映像作品の選定

OUT IN JAPAN#008 仙台撮影会

2016.3.21（会場：仙台PIT）
震災体験手記パネルの展示

としょかん・メディアテークフェスティバル—対話の可能性— 震災体験の手記と選書

2014.2.28 - 2014.3.2（会場：せんだいメディアテーク）
震災体験手記のパネルおよび多様な性のあり方をテーマに選んだ図書館所蔵本の展示

七夕特別企画展示「多様な性にYES！虹色七夕」

2016.8.7（会場：仙台市市民活動サポートセンター）
震災体験手記およびセクシュアリティ用語解説パネルの展示、用語解説リーフレットの配布

七夕特別企画展示「多様な性にYES！虹色七夕」

2014.7.20 - 2014.8.10（会場：仙台市市民活動サポートセンター）
震災体験手記の展示およびセクシュアリティ用語解説リーフレットの配布

企画展示「カミングアウト／クローゼット」& 関連企画トークイベント「言う？言わない？～「カミングアウト／クローゼット」について考える～」

展示 2019.1.12 - 2019.2.27
イベント 2019.1.26
（会場：せんだいメディアテーク）

第二回 セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会 パネル展示「東日本大震災が『多様な性の当事者』にもたらしたもの」

2014.10.11 - 2014.10.12（会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター））
東日本大震災を体験した東北地方のセクシュアルマイノリティ・コミュニティの状況について紹介するパネルおよび震災体験手記の展示

星空と路—これまでの記憶、これからの記録—

2019.3.7 - 2019.4.21（会場：せんだいメディアテーク）
震災体験手記の展示

レコーディング イン プロGRESS—3がつ11にちをわすれないためにセンター活動報告展—

2015.2.20 - 2015.3.18（会場：せんだいメディアテーク）
震災体験手記のパネル展示

<関連ウェブページ>

レインボーアーカイブ東北が集積している手記やインタビュー記事等の資料がせんだいメディアテークの下記ウェブページにとりまとめられています。

第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム テーマ館「市民協働と防災」企画事業 パネル展示「東日本大震災が『多様な性の当事者たち』にもたらしたもの」

2015.3.14 - 2015.3.17（会場：仙台市市民活動サポートセンター）
東日本大震災を体験した東北地方のセクシュアルマイノリティ・コミュニティの状況について紹介するパネルおよび震災体験手記の展示

3がつ11にちをわすれないためにセンター シリーズ：レインボーアーカイブ東北
<http://recorder311.smt.jp/series/rainbow/>

メディアスタディーズ 「カミングアウト／クローゼット」
<https://www.smt.jp/projects/outcloset/>

<メディア掲載>

京都造形芸術大学（現：京都芸術大学）webマガジン「アネモメトリ」#45(2016.11)
本、言葉、アーカイブ
後編 共有し、受け渡していくために
<http://magazine.air-u.kyoto-art.ac.jp/feature/1853/>

ハフィントンポスト日本版 2017年3月10日付記事
【3.11】東日本大震災を体験したセクシュアル・マイノリティの人々が、「わかりづらい話」を集める理由
http://www.huffingtonpost.jp/2017/03/09/tohoku-sexual-minority-groups_n_15254884.html

七夕特別企画展示「多様な性にYES！虹色七夕」

2015.7.18 - 2015.8.9（会場：仙台市市民活動サポートセンター）
震災体験手記およびセクシュアリティ用語解説パネルの展示、用語解説リーフレットの配布

セクシュアリティ用語解説

「性と人権ネットワーク ESTO」ウェブサイトの用語解説ページおよびフリーペーパー「♀カノ×カノ♀〜♀×♀ Life in Sendai〜」Vol.3（発行：♀×♀お茶っこ飲み会・仙台）の記事等を参考にレインボーアーカイブ東北が簡潔にまとめたものです。なお、他にも諸説様々な解釈があり、話し手が少し違ったニュアンスで使用している場合もあります。

■セクシュアリティ (sexuality)

人の性の包括的なありよう。身体の性、ジェンダー、性自認、性的指向等の要素がある。

■セクシュアルマイノリティ (sexual minority)

性的なありようが多数派でないと考えられる人たちのこと。同性愛者・トランスジェンダーなどが有名だが、ほかにもいろいろな人がいる。略して「セクマイ」とも。

■セックス (sex)

生物学的な性別のこと。

■ジェンダー (gender)

社会的に作り出された男女の違いのこと。

■性自認 (gender identity)

自分で自分の性別をどう思っているか、ということ。身体の性別と同じ人もいるし、異なる人もいる。はっきりしない人もいる。

■性的指向 (sexual orientation)

どんな対象に性的な興味に向いているか、ということ。異性に向いている人もいるし、同性に向いている人もいるし、そのほかにもいろいろな人がいる。

■LGBT

レズビアン (Lesbian)、ゲイ (Gay)、バイセクシュアル (Bisexual)、トランスジェンダー (Transgender) の頭文字を取って並べた総称。セクシュアルマイノリティの総称的に使う場合もある。

■レズビアン (lesbian)

女性を性愛の対象とする女性。「レズ」「ビアン」などと略される。「レズ」は差別的に用いられてきた経緯があるため当事者は「ビアン」を使用することが多いが、あえてポジティブに「レズ」を自称する人もいる。

■ゲイ/ホモセクシュアル (gay/homosexual)

男性を性愛の対象とする男性。または、同性愛者全般を指すこともある。「ホモ」は差別的に用いられてきた経緯がある。

■バイセクシュアル (bisexual)

女性も男性も性愛の対象とする人。両性愛者。より広い概念として、対象の性別にとらわれない「パンセクシュアル (pansexual)」(全性愛者・汎性愛者) という語もある。

■A セクシュアル (asexual)

何者も性愛の対象としない人。無性愛者。

■アロマンティック (aromantic)

何者にも恋愛感情を抱かない人。

■ヘテロセクシュアル (heterosexual)

異性を性愛の対象とする人。異性愛者。「ノンケ」と呼ばれることも。

■トランスジェンダー (transgender)

身体の性別とは異なる性を生きることが望む人。いわゆる「性同一性障害 (GID)」、FtM、MtF、FtX、MtX などが含まれる。手術やホルモン剤で身体の性別を変えたい人もいれば、そこまで望まない人もいる。なお、身体の性別と性自認が一致しており、それに従って生きる人を「シスジェンダー cisgender」という。

■性同一性障害 (Gender Identity Disorder/GID)

身体や戸籍の性別が「自分の性別ではない」と感じるために社会生活が困難になっている状態につけられた疾患名。

■FtM [Female to Male] の略。

身体は女性で、男性として生きることが望む人。

■MtF [Male to Female] の略。

身体は男性で、女性として生きることが望む人。

■X ジェンダー X-gender (genderqueer, neither male nor female)

性自認が女性でも男性でもない、あるいは中間だと感じる等の人。身体が女性の場合「FtX」、男性の場合「MtX」と称される。

■アライ (ally)

LGBT を支援する異性愛者のこと。

■モノアモリー (monoamory)

性愛の相手方を一時期に 1 人だけに限定すること。

■ポリアモリー (polyamory)

性愛の相手方を一時期に 1 人だけに限定しないこと。

■カミングアウト/カムアウト (coming-out/come out)

自分のセクシュアリティについて表明・公表すること。他人のセクシュアリティを勝手に暴露することは「アウトティング outing」という。

■クローゼット (closet)

自分のセクシュアリティについてカミングアウト (公に) していない状態のこと。

■レインボー・フラッグ (rainbow flag)

性の多様性を象徴する虹色の旗。赤・橙・黄・緑・青・紫の 6 色から成っているものが一般的。

制作：レインボーアーカイブ東北 (2016.3)

メディア スタディーズ

メディアを活用して、地域の文化をつくるさまざまなプロジェクト群の総称です。地域の歴史や文化をデジタルアーカイブとして残していく活動や、企画会議や編集作業などのメディアを使った創作と実践の活動などに取り組んでいます。これらの活動は、個人や団体からの企画提案を受け、せんだいメディアテークと協働で実施しています。

2021年3月発行

カミングアウト/クローゼット
多様な性の当事者たちによる生の声の記録

企画・取材・編集 レインボーアーカイブ東北
せんだいメディアテーク

デザイン 渡邊博一

発行 せんだいメディアテーク
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
TEL: 022-713-4483 FAX: 022-713-4482

本書に関するお問い合わせ先
♀×♀お茶っこ飲み会・仙台
E-mail: ochakkonomi@gmail.com
Twitter: @rainbowTOHOKU

©2021 Rainbow Archive Tohoku, sendai mediatheque
無断転載を禁じます。



